

文部科学省 科学技術人材育成費補助事業

「女性研究者研究活動支援事業」

平成 24 年度事業報告書



国立大学法人鹿児島大学
男女共同参画推進センター

学長あいさつ

国立大学法人鹿児島大学長

吉田 浩己



文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に採択され、2年目となった平成24年度には、男女共同参画推進センターに「女性研究者支援事業本部」を新たに設置し、男女共同参画担当の学長補佐である男女共同参画推進センター長の下、事業実施に係る企画立案・実施の中核となるコーディネータを配置することによって、女性研究者支援体制のさらなる整備充実を図りました。これを契機に、「研究支援員制度」の整備充実、メンター制度の運用開始、女性研究者キャリア形成セミナー及び「muse カフェ」の開催や女性研究者ロールモデル集の作成など積極的に事業を展開しております。

さらに24年度は、全学の「男女共同参画推進に係る長期（10年）及び短期（3年）行動計画」等に基づき、各部局等が「部局等における男女共同参画推進に係る方針等」を策定し、男女共同参画推進体制の整備、女性研究者増に向けた具体策や、その他男女共同参画推進に向けた就業環境の整備及び意識啓発等に係る目標及び行動計画を策定したことによって、全学的に男女共同参画を計画的に推進するための基盤ができました。これらの進捗管理を男女共同参画推進センターと部局双方が行うことにより、今後女性研究者増や女性研究者の上位職登用の促進をはじめとする取組が一層加速することが期待されるところであります。

当初「女性研究者研究活動支援事業」の事業計画書に掲げました女性研究者在職比率の年1%増の数値目標については、平成24年5月1日現在において15.0%となり、初年度の目標を達成しました。「進取の気風あふれる」総合大学を目指す鹿児島大学は、地域における「知の拠点」として、女性研究者をはじめとする多様性に富んだ有為な人材の育成、採用・登用に向けて、引き続き全学的に取組を進めて参ります。

多くの関係者の皆様のご理解とご協力をいただきながら、女性研究者支援をさらに推進していきたいと考えておりますので、何とぞよろしくお願いたします。

目 次

学長あいさつ

平成 24 年度事業総括

I	平成 24 年度活動報告	1
1	女性研究者支援体制の整備充実	1
2	研究支援活動	3
	(1) 研究支援員制度	3
	(2) 若手研究者・女性研究者研究活動支援事業	6
3	メンター制度等	8
	(1) メンター制度	8
	(2) メンター研修「コミュニケーション能力向上セミナー」	9
	(3) 各種相談	9
4	意識啓発・スキルアップ支援活動	12
	(1) 女性研究者キャリアセミナー	12
	(2) 「muse カフェ」	14
	(3) 「輝く女性研究者たちー鹿児島大学ロールモデル集ー」	17
	(4) 附属図書館・男女共同参画推進センター合同企画 「知ってますか？男女共同参画」	19
	(5) スキルアップセミナー「英語論文書き方セミナー」	20
5	女性研究者増と上位職女性研究者の増を図る取組	21
	(1) 「部局等における男女共同参画推進に係る方針等」	21
	(2) 「男女共同参画キャラバン」	22
6	保育支援	24
	(1) ベビーシッター費用割引券発行事業	24
	(2) 大学入試センター試験時保育支援	24
	(3) 郡元地区における保育所設置に関する提案書	24

7	次世代育成支援事業	25
	(1) 共通教育科目「男女共同参画とキャリアデザイン」	25
	(2) オープンキャンパス企画「muse カフェ」“ガールズ☆Talk”	26
	(3) 「女子中高生のための鹿大科学体験塾～理系女子(リケジョ)ってカッコイイ!～」	28
	(4) 出前授業	34
8	他大学・自治体との連携活動	35
	(1) 九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワーク (Q-wea)	35
	(2) 自治体との連携	37
9	広報活動	43
	(1) Newsletter	43
	(2) ホームページ	43
	(3) 男女共同参画推進センターリーフレット	43
	(4) 男女共同参画学協会連絡会第10期シンポジウム資料集への活動報告掲載	43
	(5) 「育児・介護支援制度案内」リーフレット	43
	(6) 新聞報道等	44
II	活動記録	65
	1 活動日誌	65
	2 会議	67
	男女共同参画推進室会議	67
	男女共同参画推進委員会	73
	男女共同参画推進センター会議	73
	女性研究者支援事業本部会議	73
	3 他大学シンポジウム等への参加	75
	4 他大学訪問調査	75
III	資料編	77
	・鹿児島大学「女性研究者研究活動支援事業」事業計画概要	
	・鹿児島大学女性研究者研究活動支援事業概要(ポスター等)	
	・男女共同参画センターの取組紹介(チラシ)	
	・鹿児島大学の男女共同参画の現状(平成24年5月1日)	

平成 24 年度事業総括

本学では、平成 23 年 9 月に文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究支援事業」(本事業)に採択され、25 年度までの 3 年間で、本学における女性研究者比率 17% (平成 26 年 5 月 1 日現在)を目指すこととしている。また、平成 23 年 3 月に策定した本学の「男女共同参画に係る長期(10 年)および短期(3 年)行動計画」において、女性研究者支援・育成に係る制度設計及び関連事業の実施を掲げている。これらの目標・行動計画の推進に向けて 24 年度は以下のような取組を行った。

まず、男女共同参画推進センターのもとに新たに「女性研究者支援事業本部」を設置するとともに、女性研究者支援の中核を担うコーディネータを新たに配置し、女性研究者支援体制の更なる整備充実を図った。

平成 23 年度から実施しているライフイベント期にある女性研究者等に対する研究活動支援である「研究支援員制度」については、研究支援員の対象の拡大や研究支援員の週当たりの勤務時間の一部上限緩和を行い、女性研究者等に対する研究支援員の確保におけるサポート等本制度の充実を図った。加えて、本制度の利用による成果の可視化を目的に、制度利用研究者及び研究支援員への聞き取りを新たに実施した。

また、女性研究者の上位職への拡大や、女性研究者及び女子大学院生のキャリア形成・継続に係る意識啓発を図るため、23 年度に構築した「メンター制度」の運用に向けたメンター委嘱や研修会の実施、「女性研究者キャリアセミナー」及びスキルアップセミナーの実施、女性研究者、女子大学院生間等の様々な交流会「muse カフェ」といった事業の積極的な展開のほか、本学の女性研究者等をロールモデルとして紹介した冊子「輝く女性研究者たち」を発行するなど、様々な取組を行った。

更に、24 年度には、女性研究者の増加及び女性研究者支援を含めた各部局における男女共同参画の着実な推進を図るため、部局等が「部局等における男女共同参画推進に係る方針等」(部局等方針)を策定した。部局等方針の共通理解を図り、その進捗状況確認等を行うため、各部局への「男女共同参画キャラバン」を行うことで、部局の男女共同参画推進体制の整備の促進が図られたとともに、理工学研究科(工学系)での女性助教限定公募の実施や複数の部局におけるプラス・ファクター方式によるポジティブ・アクションの導入など、女性研究者の応募や採用増に向けた取組の拡大や構成員の意識啓発が進展しつつある状況が確認された。今後、女性研究者採用・上位職増に係る課題を踏まえて、各部局の実情に応じた取組をより積極的に進める必要がある。

以上、24 年度は、「女性研究者支援事業本部」を中心とした諸取組に加え、部局等方針の策定等を通じて、女性研究者増及び上位職女性研究者増、それを推進する事業や環境整備等の女性研究者支援の推進に向け、全学的な意識改革が図られつつある。25 年度は、諸取組の成果の可視化や検証をしつつ、本事業終了後の持続的な女性研究者支援のあり方を見据えていくことが求められる。

国立大学法人鹿児島大学
男女共同参画推進センター長
田島 真理子

I 平成24年度活動報告

I 平成 24 年度活動報告

1 女性研究者支援体制の整備充実

平成 24 年度から、全学の経営管理体制の見直しに伴い、男女共同参画推進センターに改称し、その下に女性研究者支援業務に係る企画立案・実施の中核組織として、新たに「女性研究者支援事業本部」を設置した。女性研究者支援事業本部は、12 人の教職員から構成され、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」（以下女性研究者研究活動支援事業）における各種取組に係る企画立案・実施を行っている。

さらに、学長補佐である男女共同参画推進センター長の下、女性研究者支援業務の中核的役割を担う「コーディネータ」（特任専門員）を配置し、総務部人事課男女共同参画企画係と連携協力しながら、「研究支援員制度」及び「メンター制度」の整備充実やその他女性研究者のキャリア形成支援の充実のほか、女性研究者の裾野拡大に向けた取組等を図っていく体制が整備された。

さらに 25 年度にかけて、男女共同参画推進センターの運営体制の強化を図り、併せて「女性研究者支援事業」の企画立案・実施を機動的に行っていくことや、男女共同参画推進センターと部局との連携協力の緊密化により、全学的な女性研究者支援をはじめとする男女共同参画推進体制のさらなる整備充実を行うこととしている（次頁体制図を参照）。24 年 4 月に設置した女性研究者支援事業本部を発展的に解消し、男女共同参画推進センターに「広報・啓発推進部会」「ワーク・ライフ・バランス支援部会」「女性研究者支援部会」の 3 部会を置き、その部会に配置する部局の男女共同参画推進担当の教員が各取組の企画立案・実施に携わることで、多様な女性研究者等のニーズに沿った支援や事業の実施を図る。

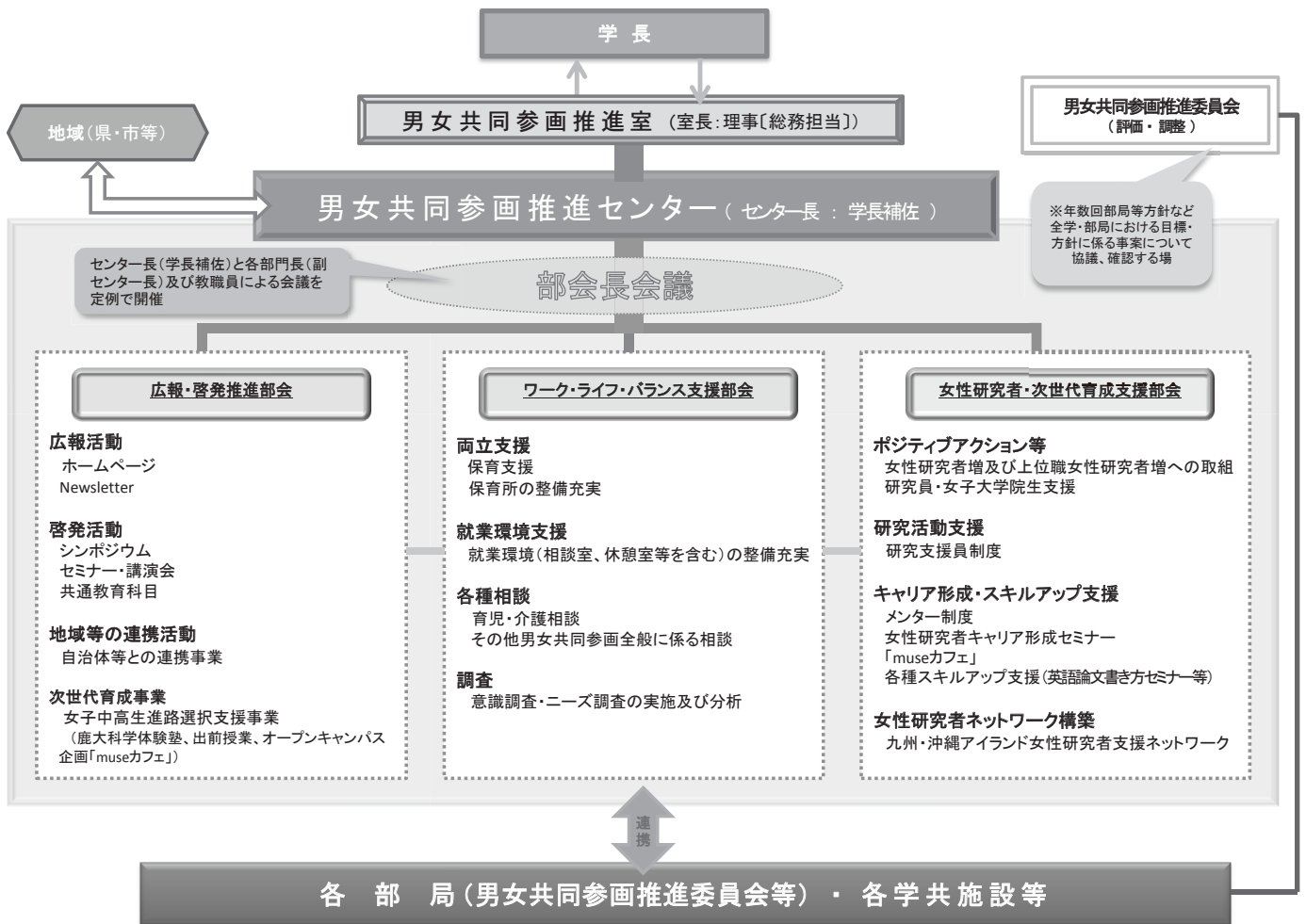
これらの推進体制の見直しは、女性研究者研究活動支援事業終了後の持続的な女性研究者支援を図っていく上でも重要であり、また 24 年度に部局等が策定した「部局等における男女共同参画推進に係る方針等」（5 女性研究者増と上位職女性研究者の増を図る取組（1）「部局等における男女共同参画推進に係る方針等」を参照）について、男女共同参画推進センターと部局双方が進捗管理をしながら、着実な女性研究者及び上位職女性研究者の増並びに次世代女性研究者の育成を計画的に推進していくことを目指す。

<男女共同参画推進センター部会体制>

- 広報・啓発推進部会
Newsletter 発行、シンポジウム・セミナー等の企画立案・実施、共通教育科目の企画運営、女子中高生理系進路選択支援事業の企画立案・実施、自治体等との連携事業の実施 等
- ワーク・ライフ・バランス支援部会
保育支援、学童保育の整備充実、保育所の整備充実、就業環境（休憩室、授乳室等のハード面を含む）の整備充実、各種相談、育児・介護制度の整備充実
男女共同参画に関する調査（意識調査、ニーズ調査）等
- 女性研究者支援部会
ポジティブ・アクション等への取組、女性研究者研究活動支援、メンター制度
女性研究者キャリア形成・スキルアップ支援、女性研究者ネットワーク構築等

1 女性研究者支援体制の整備充実

<平成 25 年 4 月以降の男女共同参画推進体制>



2 研究支援活動

(1) 研究支援員制度

平成 23 年度に引き続き、ライフイベント期の女性研究者及び研究者を配偶者に持つ男性研究者を対象に、研究支援員制度を実施した。24 年度は、ライフイベント期の女性研究者が研究支援員を確保しやすくするために、研究支援員の対象を大学院課程修了者等（常勤職についていない者）や学部 5・6 年次生（農学部獣医学科のみ）へ拡大するとともに、大学院課程修了者等に係る週当たりの勤務時間上限の緩和を行う制度改正を行った。さらに、研究支援員確保のための留学生向け英語版制度紹介ポスターによる周知や、制度の検証を行うための制度利用研究者・研究支援員間交流会や個別のヒアリングを実施した。

24 年度第 1 期（4 月～9 月）は、1 人の男性教員を含む 10 人の研究者に対し、研究支援員 11 人（女子大学院生 4 人、男子大学院生 4 人、女性大学院課程修了者等 3 人：うち外国人留学生 1 人を含む）を配置した。また、第 2 期（10 月～3 月）には、農学部獣医学科 5・6 年次生まで支援員対象を拡大したことにより研究支援員の確保が可能となった共同獣医学部の女性研究者 1 人を含む 9 人の研究者（うち 1 人は男性研究者）に対し、研究支援員 12 人（男子学部学生 1 人、女子大学院生 2 人、男子大学院生 5 人、女子大学院課程修了者等 4 人：うち外国人留学生 2 人を含む）を配置した。

① 平成 24 年度実績

○第 1 期（平成 23 年度の制度利用研究者を含めた研究者をアルファベット順で表示）

		研究者（分野・職名）		性別	支 援 時 間	申 請 要 件	研究支援員	性別
B	※	教育系	准教授	女	220	育児	博士課程	女
	修士課程修了						女	
C	※	保健系（保健）	助教	女	24	育児	修士課程	女
D	※	理工系	准教授	女	180	育児	修士課程	男
F	※	保健系（医）	助教	女	200	育児	博士課程	男
G	※	保健系（歯）	助教	女	228	育児	博士課程	男
H	※	保健系（歯）	助教	女	234	育児	博士課程	男
I	※	理工系	助教	女	220	育児	修士課程	女
N		保健系（医）	助教	女	168	育児	博士課程	女
O		保健系（医）	助教	男	240	育児	ポストドクター（PD）	女
P		保健系（歯）	助教	女	361	育児	PD	女
合計			10 人		2075		11 人	
※は平成 23 年度第 2 期からの継続者 I 研究者：4 月特任助教から助教として採用								

○第 2 期 (平成 23 年度の制度利用研究者を含めた研究者をアルファベット順で表示)

		研究者 (分野・職名)		性別	支 援 予 定 時 間	申 請 要 件	研究支援員	性別
B	※	教育系	准教授	女	240	育児	博士課程	男
							修士課程修了	女
D	※	理工系	准教授	女	240	育児	修士課程	女
F	※	保健系 (医)	助教	女	302	育児	博士課程 (~12 月)	男
							PD (1 月 ~)	女
G	※	保健系 (歯)	助教	女	216	育児	博士課程	女
H	※	保健系 (歯)	助教	女	240	育児	博士課程	男
							博士課程	男
O	※	保健系 (医)	助教	男	360	育児	PD	女
P	※	保健系 (歯)	助教	女	600	育児	PD	女
Q		人文・社会系	准教授	女	160	妊娠	修士課程 (~1 月)	男
R		理工系	准教授	女	140	育児	学部学生 6 年次	男
合計			9 人		2498		12 人	
※は平成 24 年度第 1 期からの継続者 F 支援員学位取得後辞職のため、他の PD 雇用								

② 成果

平成 24 年度において、制度利用研究者のほとんどが学会発表や論文投稿などの成果をあげており、ライフイベント期にあっても、研究の継続や進展が図られた。なお、制度利用研究者の一人は、独立行政法人科学技術振興機構復興促進プログラム（産学共創）の技術テーマ「水産加工サプライチェーン復興に向けた革新的基盤技術の創出」における新規研究課題として採択された。また、23 年度 2 期制度利用研究者の女性研究員は、24 年度に他大学の助教として、また、同じく制度利用者の一人は、理工系分野の特任助教から助教となりキャリアアップが図られた。

研究支援員のキャリア形成の視点からは、「育児と仕事の両立ができていく姿を周りが受け止めることが、研究に興味を持つ女子大学院生の研究者へのキャリア形成になると思う」「研究支援員自身がスキル向上しつつ、研究者に進むことも視野に入れ始めている」「女性研究者の視点の多様さに学ぶことが多い」「家族を大切にしながらキャリアを継続しているモデルとして参考になる」などの意見や声がヒアリングで寄せられた。研究支援員にとっては、経済的支援を受けながら従事でき、研究と生活を両立しつつ研究を続ける工夫を学び研究者へのキャリア形成が図られつつあり、昨年度の研究支援員が、9 月から理工系分野のプロジェクト研究員として採用されたことは、その好例といえる。

また、スキルの高い研究支援員の場合、研究内容についてディスカッションして進めるなど、研究支援員と言うにとどまらず、研究者同士として協力しつつ成果を出せた事例がある。制度利用男性研究者からは、「自身の研究を進展しつつも、妻のサポートができ、妻の研究成果が出ている」などの声も聞かれ、研究者同士のカップル支援にもなっている。

○平成 24 年度成果一覧表（平成 25 年 2 月現在）

		制度利用研究者			成果内容等
A	※	人文・社会系	准教授	女	
B	○	教育系	准教授	女	学会発表 1 件 論文投稿 3 件 書籍出版 1 件
C	○	保健系（保健）	助教	女	学会発表 1 件
D	○	理工系	准教授	女	JST 復興支援プロジェクトに採択 学会発表 3 件（国際学会 1）論文投稿 1 件
E	※	保健系（歯）	助教	女	
F	○	保健系（医）	准教授	女	学会発表 1 件 論文投稿 1 件
G	○	保健系（歯）	助教	女	学会発表 1 件 論文投稿 1 件
H	○	保健系（歯）	助教	女	学会発表 1 件
I	○	理学系	助教	女	
J	※	保健系（歯）	助教	女	
K	※	理工系	JSPS 特任研究員	女	平成 24 年 6 月から他大学助教として採用
L	※	保健系（医）	准教授	男	
M	※	理学系	特任講師	男	
N	☆	保健系（医）	助教	女	学会発表 2 件 論文投稿 5 件
O	☆	保健系（医）	助教	男	学会発表 2 件 論文投稿 6 件
P	☆	保健系（歯）	助教	女	学会発表 1 件
Q	☆	人文・社会系	准教授	女	
R	☆	理工系	准教授	女	学会発表 1 件
※平成 23 年度のみ制度利用者 ○平成 23 年度からの継続利用者 ☆平成 24 年度新規利用者					

③ 制度利用研究者及び研究支援員との意見交換

制度利用研究者に対し、制度利用の効果や課題等を聞き取りつつ交流を図るために「muse カフェ」を開催した。また、当日参加できなかった研究者・研究支援員に対しては、コーディネータがヒアリングを行った。

その結果、制度利用研究者からは、育児と生活の両立ができ、研究支援により研究の進展が図られたなど、制度の有効性が挙げられた。

また、研究支援員からは、「研究者のオリジナルな発想や工夫を参考にできる」「研究手法の向上、未経験だったデータ解析や実験手法を獲得できた」など自身のスキルアップが図られていることが挙げられた。

一方、「研究支援員のデータ解析や実験手法によって未経験の場合、高度な実験やデータ解析への指導に時間がかかった」「制度の周知とともに利用している研究者への周りの理解をより得られるようにしてほしい」「申請時期以外の緊急時（介護や子供の入院等）への対応ができるようになればいいのではないか」「父子家庭や社会貢献等を理由とする制度利用拡大の検討する必要がある」などの意見や、研究支援員対象者への周知徹底、1 期申請の場合年度初めであるため、研究支援員の研究方法や講義確定との兼ね合いで支援内容及び勤

務時間の決定に時間がかかり、制度利用期間が短くなるなどの課題が挙げられた。



④ 事業終了を見据えた制度の検討

平成 25 年度第 1 期募集分から、女性研究者が研究支援員をより確保しやすくするため、研究支援員の対象に学部卒業者を追加する制度改正を行ったところであるが、平成 25 年度も引き続き、研究支援員制度の周知徹底を行うとともに、制度利用研究者・研究支援員間の交流会やヒアリングを実施しつつ、研究支援員が身近に見つからない女性研究者への支援、申請期間以外の緊急時や研究支援員確保ができた時点での柔軟な対応等に可能な限り取り組むこととしている。

また、事業終了後を見据え、申請資格、研究支援員の対象者の拡大、支援者決定に際しての審査要領や査定基準等の研究支援員制度のあり方について、本事業で実施してきた成果及び課題を踏まえ検討し、制度設計する必要がある。

(2) 若手研究者・女性研究者研究活動支援

鹿児島大学では、若手研究者及び女性研究者の研究を支援するシステムの構築と有為な若手研究者及び女性研究者に必要な研究資金を配分することを第 2 期中期計画に掲げている。そこで、各競争的研究資金の獲得や、共同・受託契約、特許申請等への基礎となることを期待して、学長裁量経費により「鹿児島大学若手研究者及び女性研究者に対する研究助成金」制度を設け、若手研究者及び女性研究者（女性研究者については平成 22 年度から年齢制限を撤廃）に対する研究支援を行っている。

24 年度の女性研究者（教員及び研究員）に係る支援状況は、助成決定者 37 人（35.9%：総数 103 人）、助成決定対象論文等件数 68 件（34.3%：対象論文等総件数 198 件）であった。また、本支援を受けた女性研究者のうち、研究支援員制度利用研究者の実績は、23 年度 5 人 12 件、24 年度 5 人 8 件となっている。

<平成 24 年度実施要領抜粋>

(支援対象)

平成 25 年 4 月 1 日現在 40 歳以下（女性研究者については年齢制限なし）

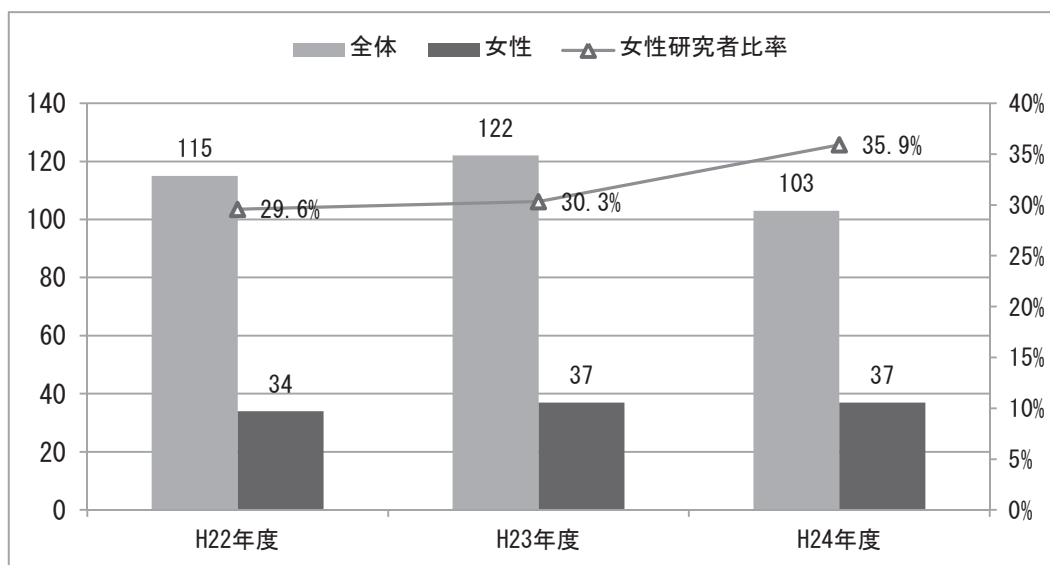
平成 24 年 1 月～12 月の間に学術論文・著書に First Author 又は Corresponding Author として研究業績を発表した者

(配分額)

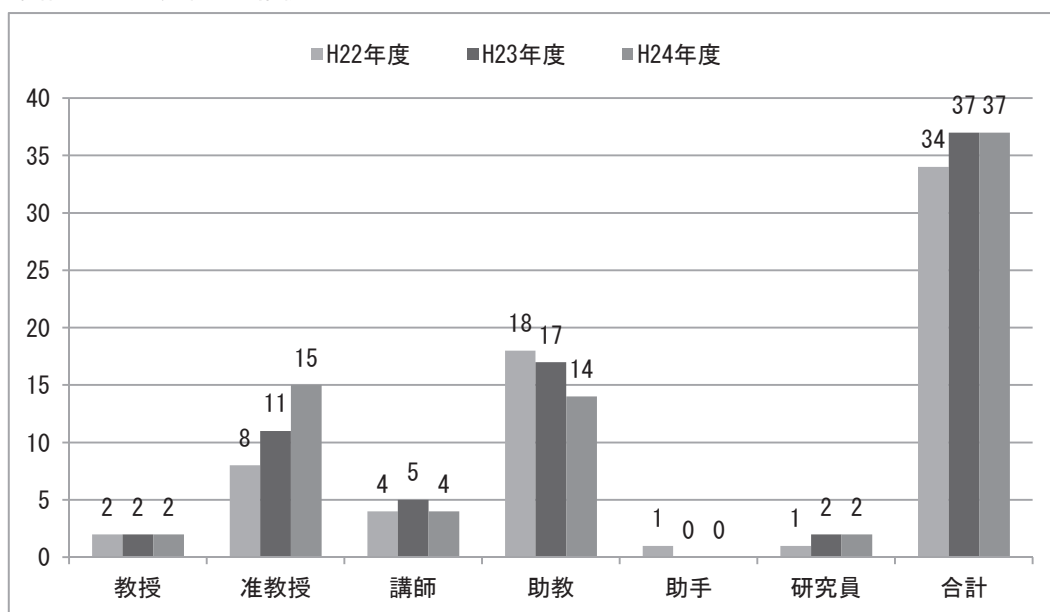
論文等 1 本 : 50,000 円、2 本 : 90,000 円、3 本以上 : 120,000 円

女性教員及び研究員の支援状況 (平成 22 年度～24 年度)

■助成状況推移 (男女別・女性研究者比率)



■職階別女性研究者助成推移



3 メンター制度等

(1) メンター制度

一定の職務経験等を有する教員（メンター）が、研究者としてキャリアを形成していくための方法や、その際の研究とライフイベント（妊娠、育児、介護等）との両立において女性研究者や女子大学院生が抱える諸問題について、自身の経験、知識やネットワーク等を活かし分野や専門の枠を超えて助言を行うメンター制度の実施に向け、12人に対し、メンター委嘱状交付式・メンター交流会を行った。

なお、メンターは鹿児島大学メンターリストとしてホームページから閲覧（学内専用）でき、メンティー（相談者）がメンタリング（相談）を希望するにあたって参照できるようにしている。



メンター委嘱式



メンター交流会

メンター交流会では、本制度利用に際しての運営管理の必要性、ハラスメント関係の相談事案との選別、指導教員との情報共有の仕方、メンタリングの場所・時間の調整等に係るメンターへの負担軽減、制度の周知、メンタリング上の手引きやメンター研修等の必要性など、メンター制度の課題や効果の検証が必要であるとの意見が出された。また、女性研究者に対する保育支援や復職支援等に係る情報提供やスピーディな手続きなど、男女共同参画推進センターへの要望も出された。

メンタリングの申込に際しては、男女共同参画推進センターを介して行い、メンタリングの場所等の調整も必要に応じて行うこととした。また、メンタリング後にメンターから実施報告書を提出してもらうことで、男女共同参画推進センターと情報を共有するとともに、ハラスメント関係の相談担当部署との迅速な連絡・連携を図ることとした。

さらに、メンター制度案内リーフレット（メンター用、メンティ用）を作成し、メンターがメンタリングの際の参考にしたり、メンティがメンター制度を利用しやすくしたりするためのメンタリング上の留意点や事例等の情報の周知を図った。また、利用促進のためにメンターを交えた「muse カフェ」を開催し、女子大学院生に対するキャリア形成上の助言、メンター制度の周知等を行った。24年度は、メンター制度の申込はなかったが、「制度に興味を持った」などの女子大学院生の声があり、更に周知を図っていくこととしている。

(2) メンター研修「コミュニケーション能力向上セミナー」

実施日：平成24年7月4日（水）

時間場所：郡元キャンパス 事務局第3会議室 13:15～16:15

桜ヶ丘キャンパス 鶴陵会館中会議室 17:30～20:30

講師：株式会社インソース 大驛郁子氏

参加者：46人（教員：女15人男8人 大学院生：女11人男2人 職員：女7人男3人）

内容：

セミナーでは、講師がメンターの心構えや、傾聴力・質問力などのメンターに必要な資質等についてグループワークを交えながら解説。メンティへの支援活動は、メンターにとっても成長の場であるとした上で、自らの経験をもとに、「メンターは様々な引き出しを用意し、自らの人生観を語ることでメンティの自立を側面支援することができるようにしてほしい」と述べた。

参加者からは、「メンタリングの基礎がわかった」「自身を振り返る機会となった」「メンターとしてのスタンスを今後のコミュニケーションに活かしたい」などの感想が聞かれ、コミュニケーションの重要性を再確認する研修になった。

また、研修後の5段階評価のアンケートからは、教職員・大学院生・性別に関わりなく、講師・資料・内容については4以上の高い評価であった。



郡元キャンパス



桜ヶ丘キャンパス

(3) 各種相談

相談件数：9件（平成25年2月現在）

内訳：職場の人間関係の悩み3件 シングルファザーへの支援についての問合せ1件

支援制度に係る問合せ2件 キャリア形成上の相談（他大学の学生含む）3件

コーディネーターが窓口となり、必要に応じ担当係や教員と連携し対応することで個々の困り感を軽減し、必要な情報提供を行うことができた。

(リーフレット：メンター向け「メンター制度のご案内」)

メンター制度の利用手続き

メンター制度の申込等は原則として以下のフローによります。

- ①メンター制度の申込**
メンティは、原則として、相談の内容等について、「メンター制度申込書」(別記様式)により、男女共同参画推進センター(以下「センター」という。)へ提出します。
- ②メンター選定**
センターは、メンティからの申込があった場合は、メンティの希望やプロフィール等をもとに、センターに登録されたメンターのうちから候補適任者を選定させていただき、当該メンターに相談者情報を記入し、承諾を得た上で最終的に選定します。(ただし、メンティが指名し、メンターが承諾した場合を除く。)
- ③メンタリング(相談)**
センターにおいて選定されたメンターは、メンティに連絡をとり相談の日時・場所や相談の頻度等について協議した上で、定期的又は随時相談に応じるものとします。

<メンター制度の検証>
センターは、定期的にメンター活動の成果や課題について、メンターやメンティの方と情報共有し、メンター制度の改善に資することとしています。

メンター制度の申込から利用まで (2012.4～)



国立大学法人鹿児島大学
男女共同参画推進センター

〒890-8580
鹿児島市都元1丁目21番24号
TEL: 099-285-3012
内線3011・3012
FAX: 099-285-7062
E-Mail: gender@kuas.kagoshima-u.a.jp
URL: http://atsuhime.kuas.kagoshima-u.ac.jp

Center for Promotion of Gender Equality
Kagoshima University

メンター制度とは・・・

女性研究者や女子大学院生が抱える諸問題について、経験豊かな先輩研究者(メンター)からの助言を受けることができる制度です。「メンター」とは、良い助言者、指導者、親身になって支援してくれる人という意味で、仕事やキャリアの「お手本」や人生のよき相談相手になってくれる人です。助言者をメンター、助言を受ける人をメンティと呼びます。

★メンターの方へ

- #### 1 メンターの役割
- 研究者としてキャリアを考えていく上で参考となる。
 - 人生の先輩として相談にのる。
 - 教育研究活動上の必要な知識やスキルを伝える。
 - 結婚・出産・育児・介護などと仕事の両立について助言する。
 - メンティのロールモデルとなる。

メンターは、自身の経験、知識、ネットワーク等を活かしてメンティを支援します。メンターは研究の進め方以外にも人間関係やキャリア形成などの様々な相談が持ちかけられます。第三者の立場から「公平」なアドバイスを行うことが求められる役割です。

2 メンタリングのポイント

- メンタリングの基本**
 - ・自分の経験や価値観を押しつけない。
 - ・相手の立場になって考える。
 - ・メンターは完璧ではない。
- 相談しやすい環境・雰囲気づくり**
 - ・メンティを認める。
 - ・自分の仕事での経験や失敗談などを話し、和やかに気軽に相談できる雰囲気づくりに努める。
 - ・メンタリングで知り得た個人情報を口外しない。
- 小さな変化を敏感に察知**
 - 表情、声、視線、動作、姿勢等に注意する。



資料提供：株式会社インソース

3 メンターに必要なコミュニケーション力

- #### 傾聴力
- 「聴く」スキル**
 - ・相手に話やすさを感じてもらおう
 - ・相手に気分よく話してもらおう
 - 他者が話しやすさを感じる「聴き方」**
 - ・「聴く」ベースと聞の取り方を考える
 - ・あいづちをうつ
 - ・相手が言いたいことを正確に理解する
- #### 質問力
- 相手の真意を引き出すような質問
「拡大質問」「未来質問」「肯定質問」
 - 他者が話しやすさを感じる質問
 - メンタリングにおける注意点
女性には安易に外見のことを指摘しないようにする。メンティの悩みを軽視するような発言は、相手に反感を持たせることがあります。
- #### ほめる
- ほめる基本
 - ・小さなことでも積極的に見つけてほめる
 - ・誰にでもほめる場所はあ
 - 効果的なほめ方
 - ・事実を具体的に、部分をほめる
 - ・タイミングを外さず、すぐほめる
 - ・気まぐれにほめない

4 モチベーションを向上させるフィードバック

- 特に有用なアドバイスではなく、メンターからの何らかのコメントをもらえると、「自分のことをちゃんと見てくれている」という安心感を覚えるものです。
- 主観を排除した表現**
ほめられることが苦手な人でも、客観的に相手のよい点や頑張っている点を伝えてあげること、素直に受け入れることができます。
 - 評価だけでなく指摘もまた有効**
相手のよい点だけでなく、不十分な点を指摘することもフィードバックとして必要です。伝え方とタイミングに配慮してフィードバックします。

5 メンティに合わせた対処法

- 不平不満の多いメンティ**
職場での不満を直風の教授や准教授、先輩にはストレートに言えないからこそ、メンターに打ち明けていることを理解してください。
- 依存型のメンティ**
「あなた自身はどう考えているの?」「一番の問題はどこにあると思う?」と相手に考えさせるように問い返し、自分で問題を整理して解決策を導き出すくせづけをしてあげます。
- 向上心のあるメンティ**
向上心の強いタイプが、自分のプラスになることを求めて質問してくるので、相手が何を求めているのか、どういうアドバイスをしてあげれば役立つのかを常に真剣に考えながら応じてあげる必要があります。

6 その他メンタリングについて

- ・場所は、メンティと話し合いの上、適宜決定する。
- ・ミーティングの時間は長くても1時間程度を終了するように設定する。
- ・メンタリングは、電話、メールなどの活用可。
- ・メンタリングにおいて困ったときは、男女共同参画推進センターに連絡すること。
- ・メンター制度に係る改善点等を男女共同参画推進センターに報告すること。

<メンター研修>
メンタリングスキルの向上を図るために、男女共同参画推進センターが企画するメンター研修にご参加ください。

museカフェの開催

メンターとメンティ間の交流会

男女共同参画推進センターでは、メンター・メンティ間の交流会「museカフェ」を開催し、さまざまな分野のメンター・メンティが兼い、カフェの和やかな雰囲気の中で、教育研究活動や生活との両立などについて、自由に語り合う場を設定することとしております。また、女性研究者間または女性研究者・女子大学院生間の交流会「museカフェ」も開催しております。メンターの方には、メンティあるいは研究者や大学院生との交流を通じて、新たな気づきや、ご自分の教育研究活動を振り返り今後のキャリアを考える契機であると同時に、ネットワークを拓くことにもつながりますので是非ご参加ください。



(リーフレット：メンティ向け「メンター制度のご案内」)

メンター制度の利用手続き

メンター制度の申込等は原則として以下のフローによります。

①メンター制度の申込

メンティは、原則として、相談の内容等について、「メンター制度申込書」(別記様式)により、男女共同参画推進センター(以下「センター」という。)へ提出します。

②メンター選定

センターは、メンティからの申込があった場合は、メンティの希望やプロフィール等をもとに、センターに登録されたメンターのうちから候補適任者を選定させていただき、当該メンターに相談者情報を入れ、承諾を得た上で最終的に選定します。(ただし、メンティが指名し、メンターが承諾した場合を除く。)

③メンタリング(相談)

センターにおいて選定されたメンターは、メンティに連絡をとり相談の日時・場所や相談の頻度等について協議した上で、定期的又は随時相談に応じるものとします。

<メンター制度の検証>

センターは、定期的にメンター活動の成果や課題について、メンターやメンティの方と情報共有し、メンター制度の改善に資することとしています。

メンター制度の申込から利用まで (2012.4~)



国立大学法人鹿児島大学
男女共同参画推進センター

〒890-8580
鹿児島市都元1丁目21番24号
TEL: 099-285-3012
内線3011-3012
FAX: 099-285-7062
E-Mail: gender@kuas.kagoshima-u.a.jp
URL: http://atsumi.kuas.kagoshima-u.ac.jp

Center for Promotion of Gender Equality
Kagoshima University

メンター制度とは・・・

女性研究者や女子大学院生が抱える諸問題について、経験豊かな先輩研究者(メンター)からの助言を受けることができる制度です。「メンター」とは、良い助言者、指導者、親身になって支援してくれる人という意味で、仕事やキャリアの「お手本」や人生のよい相談相手になってくれる人です。助言者やメンター、助言を受ける人をメンティと呼びます。

相談事例

- * 大学院修了後、研究者の道をめざしたいけれど不安だ。
- * 研究者間のネットワークをどうやって築いていけばいいかわからない。
- * 研究助成費の獲得のためのアドバイスが欲しい。
- * 育児と研究の両立がうまくいかない。キャリアをこのまま継続しているか。
- * 突然介護が必要になったので、経験者の話を聞きたい。

など

Q & A (よくある質問)

- Q: メンターってどんな方?
- Ans. 経験豊かな研究者(男女)が、研究活動上の助言や専門知識等の提供を行うことで、メンティとなるあなたのキャリア形成支援を自発的に行う方々です。部局等からの他薦・自薦のあった際、男女共同参画推進センターにおいて審査の上、男女共同推進室長が委嘱した方々です。
- Q: 誰がメンタリングを受けられますか?
- Ans. 本メンター制度は、科学技術人材養成支援事業「女性研究者活動支援事業」の一環で創設したものであり、当面利用できる対象は、女性研究者、女子大学院生です。
- Q: どんな効果が期待できますか?
- Ans. 指導教員や上司(教授等)とは異なる視点で、客観的に助言等ももらえたり、研究活動上のアイデアが得られるほか、仕事と生活の両立を図るための方策を提案してもらったり、研究者としてのキャリア継続やスキル習得並びにさまざまな研究者等とのネットワークの構築が図られる。
- Q: どんなことを相談できますか?
- Ans. 研究活動における知識やスキルや、研究費の獲得方法などのノウハウなどのほか、研究と生活の両立方策や、研究者としてのキャリア継続及び形成の在り方などについて相談できます。
- Q: いつまで、何回くらい相談できますか?
- Ans. 特に期限や回数等の決まりはありません。それぞれのメンタリングの状況に応じて適宜、メンターと相談の上、メンタリングの日時を設定することとなります。
- Q: 個人情報の秘匿されますか?
- Ans. 基本的に本学の「個人情報保護に関する取扱規則」に基づき、個人の秘密保持は厳守されます。メンティには、メンタリングを通じて得た個人情報については秘匿しなければならない旨、あらかじめ周知徹底を図っています。

★メンティの心得

1 よきメンティとなるために

(1) メンターと接する際の心構え

- 相談することを決めておく
- 相手に自分を開く
- 真摯にアドバイスを受け止める
- メンターに感謝する

○ アドバイスを受けて活動した結果について、メンターにフィードバックを伝える。

(2) メンターにうまく相談するポイント

どんな問題がおきているか、何に悩んでいるのか、特徴は何か、どんな手を打ってみたかなどを整理しておくともメンターも相談に乗りやすくなります。

- 相談のタイミングをはかる

至急でない相談は、メンターが忙しい日や時間を避けて行いますが、問題が深刻化してから相談しても打てる手が限られてしまいます。一人で悩んで答えが出なければメンターに聞いてみましょう。

- アドバイスを活かす

メンターにただ相談するだけで終わるのではなく、その質問に対して、自分がそうするのかという結論を導く心構えを持ちましょう。

2 気をつけること

(1) お互いの立場の違いの認識

メンターからいろいろな助言をうけることができる制度ですが、基本的に「業務」に関することは、直属の教授等や先輩の指示に従いましょう。

(2) スケジュールを立てた関わり方

メンティとメンターが話をする機会の調整は意外と難しいものです。直接会うことが困難な場合には、電話やメールを活用することも有効です。特に、メンターがすぐに答えを返せないような相談事の場合、メールの方が都合がよい場合もあります。面と向かっては言いづらいような相談ごとでもメールだと伝えやすいこともあります。

(3) 個人情報の守秘義務

活動の中で知り得たメンター教員の個人情報を口外しないようにしてください。

museカフェのご案内

メンターとメンティ間の交流会

メンターとメンティの交流会「museカフェ」も予定しています。様々な分野の研究者や大学院生との交流を通じて、キャリア形成に参考となる情報を得たり、学んだりする有意義な機会です。開催は不定期です。

資料提供：株式会社インソース

4 意識啓発・スキルアップ支援活動

(1) 女性研究者キャリア形成セミナー

女性研究者キャリア形成セミナーは、女性研究者ロールモデルとして他大学の女性研究者を講師に迎え、その研究姿勢や研究内容、女性としての生き方を伺うことで、女性研究者や研究者を目指す女子大学院生がキャリアを形成していくために必要な考え方や工夫を学んだり、女子学生の研究者進路選択につながる機会となるよう、平成24年度は2回実施した。

○第1回

実施日時：平成24年9月14日（金）14:00～15:30

場 所：共通教育棟2号館211講義室（郡元キャンパス）

講 師：相馬 芳枝氏（神戸大学特別顧問）

演 題：「女性研究者のキャリア形成とライフデザイン」

参加者：134人（女97人、男37人）

内 容

国際的な賞の受賞対象となった研究の紹介を通じて、自身の研究のモットーである“シンプルケミストリー”についてわかりやすく説明。さらに、研究者としての成功の秘訣として、独創的研究の追究、研究資金獲得や研究者間のネットワークの形成の必要性のほか、女性研究者としてのハードルを乗り越えるために、協力者を数多く持つことの重要性について指摘した。

研究者の道に進むかどうか迷っている学外者の参加もあり、女性研究者及び女子大学院生等へのよきロールモデル情報提供の機会となった。また、新聞等の報道を通して、本学の女性研究者支援の取組を学外に発信する契機ともなった。



○第2回

実施日時：平成24年12月6日（木）17:30～19:00

場 所：医学部・歯学部附属病院第1会議室（桜ヶ丘キャンパス）

講 師：大井 久美子氏（長崎大学学長特別補佐・男女共同参画推進センター長）

演 題：「男女共同参画社会において－立ちはだかる壁に向かって－」

参加者：35人（女26人、男9人）

内 容：

自身の多様な経験に基づき、女性医師の復帰支援プログラムの整備充実等の具体的な取組例を挙げつつ、大井氏は、ライフイベント期の女性研究者支援、女子大学院生の育成の支援等が男女ともによりよい就業環境の創出につながるについて述べた。また、大学には、女性研究者比率を上げることと上位職への女性の登用が求められていると説明した。

また、文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成事業」の成果や事業終了後の女性研究者支援の取組について紹介した。

受講者からの「育児中の女性職員への対応や周りの理解を得るにはどうしたらよいか」との質問に対し、ライフイベント期の女性研究者支援の必要性とともに、理解を得られるよう男性にも育児参加を推奨する必要があると助言した。また、女性は環境によっては目立つ存在であるが、そのことをメリットとして自然体で受け止めつつも、意識を高くもって生きていくことが必要であると述べた。参加者には、男女共同参画を理解し推進していくことの必要性を改めて考える機会となった。



1回目は、一般市民への広報も行い、多くの教職員・学生の参加があった。2回目は、離れたキャンパス、設定時間等の理由により参加しづらい状況にあった医・歯・保健系キャンパス内で実施した。

いずれのセミナーにも、研究支援員制度利用者である女性研究者や研究支援員を含む大学院生の参加があり、「キャリア継続の指標となる内容を聞き、励みとなった」などの感想が聞かれた。また、男性研究者の姿もあり、女性研究者支援の必要性や、性別に関係なく、男女が切磋琢磨できる社会を作ることの重要性についても理解を深める機会となった。

4 意識啓発・スキルアップ支援活動

(2) 「muse カフェ」

女性研究者のキャリア継続及びキャリア形成支援を図り、ロールモデル情報の提供や教育研究に関する情報交換の場とすることや、女性研究者支援のためのネットワーク作り及び男女共同参画推進の理解を深めることを目的とし、女性研究者間、女性研究者・女子大学院生間、女子大学院生間、女子大学院生・学部生間等の交流会を実施した。また、研究支援員制度利用研究者者間でも交流会を実施した。

平成 24 年度における交流対象別の「muse カフェ」の回数・参加人数は、下表のとおりである。

○女性研究者間交流

実施日時	参加者数	主旨・備考
9月14日(木) 16:30~17:30	11	○女性研究者キャリア形成セミナー講師を囲んでの交流会 本学の女性研究者が身近なロールモデルとなって研究姿勢を示し、多様な経験を通してキャリア形成上の助言をしつつ、次世代を育てる必要性などについて意見交換を行った。参加者の教育・研究に対するモチベーションを向上させる機会となった。
11月28日(水) 12:00~13:00	10	○キャリア形成上の女性の意識の持ち方について 科研費申請や論文投稿など、自分の立ち位置を意識し、グローバルに積極的に研究を続けることの必要性などについて、自由な意見交換がなされた。 参加者からは、「研究において男女差はない、甘えることなく男性と同じ土俵で研究をするべき」「ライブイベント期は期間限定であり、さまざまな制度を使って乗り切ることが大切」などの意見が出された。



○女性研究者・女子大学院生間交流

実施日時	参加者数	内容
11月13日(火) 18:30~19:00	15	○農学部准教授(女性)によるロールモデル講話 講師の経験から、大学院生時代に何を考え行動していく必要があるのかについての話を聞く機会となった。また、メンター制度周知も行った。



○女子大学院生間交流

実施日時	参加者数	内容
7月11日(木) 17:30~19:00	17	○オープンキャンパス「muse カフェ」“ガールズ☆Talk”オリエンテーション 研究ポスター作成上の共通理解項目確認の後、女子高校生向けイベントについて意見交換を行い、シールラリーを行うことなど、企画運営について提案があった。
10月15日(火) 18:30~19:00	6	○カフェの内容について 大学院生向け「muse カフェ」を実施するにあたり、参加意欲が出る内容について意見が出された。「自身の研究について意見を聞く機会がほしい」「身近なロールモデルから講話を聞きたい」などの意見が出された。



○研究支援員制度利用者間 (内容については、P6-7 に詳細掲載)

実施日時	参加者数	内容
6月21日(木) 17:00~18:00	8	郡元・荒田キャンパスでの利用者間交流及び意見交換
7月12日(木) 17:00~18:00	11	桜ヶ丘キャンパスでの利用者間交流及び意見交換

(内容については p6, 7 に詳細記載)

○女子大学院生・女子学部生間交流

実施日時	参加者数	内容
5月24日(木) 10:30~11:30	9	○鹿児島大学男女共同参画推進センターの取組説明、制度周知、意見交換 キャリア継続のため、大学院生への支援について経済的な支援の必要性や子どもを持つ大学院生の学内保育所利用についての意見が出された。また、学部によっては女子トイレ・休憩室等の環境整備の必要性があることについても意見が出された。
5月24日(木) 12:10~12:45	18	
5月28日(月) 12:10~12:45	2	
5月29日(火) 11:45~12:45	5	
6月8日(金) 12:00~13:00	3	
6月7日(木) 18:00~19:00	5	○オープンキャンパス企画会議 イベント名を“ガールズ☆Talk”と決め、女子高校生向けの企画や案内ポスター等の意見交換を行った。



様々なスタイルで、合計 13 回の「muse カフェ」を実施し、参加延べ人数は 120 人となった。女性研究者・女子大学院生からは、「分野を超えて知り合うことができよかった」「女性としてキャリア形成していく参考になる話が聞けた」などの感想が聞かれた。また、ロールモデル情報提供として実施したカフェでは、研究者同士の悩みを共有しつつもキャリア継続やキャリアアップへの意識改革の契機となったほか、関心のある男性の参加もあり、女性研究者支援を含む男女共同参画推進の意識啓発につながった。半面、カフェを開催するにあたり、分野、研究者及び学生の研究時間や授業時間等の相違やライブイベント期の女性研究者への配慮等による日程設定の難しさ、キャンパスが離れていることによる集まりにくさ、魅力あるカフェ内容の工夫など様々な課題がでてきている。

平成 25 年度は、年間計画に基づき、部局との連携を図りながら、より参加しやすい開催時間や場所等の調整を早めに行うとともに、身近なロールモデル講話や集団でのメンタリング交流などを織り交ぜつつネットワークを拡大させ、その他の事業の周知等にもつながっていききたい。

(3) 女性研究者ロールモデル集

女性研究者のこれまでのキャリア及び様々な体験等の紹介を通じて、若手の女性研究者及び女子大学院生等のキャリア形成支援等の一助として、さらに、女性研究者の生き方や研究についての理解と男女共同参画意識の向上につなげることを目的に「輝く女性研究者たち—鹿児島大学ロールモデル集—」を作成し、学内、自治体・関係機関等に配布した。配布先からは、「大学の多様な研究が見え、女性研究者を身近に感じた。」「研究の面白さが伝わってきた」「仕事と生活のバランスをとる工夫やモットーなどが参考になる」などの感想が聞かれた。今後は、平成 25 年度の女子新入学生に配布予定であり、女性研究者を将来像に描くきっかけや研究者を目指す学生が増えることにつながることを期待している。

○ロールモデル集紹介研究者

推薦部局・機関等	氏名	所属学科等名又は機関名	職名	研究分野
法文学部	末松信子	人文学科	准教授	英語学 英語史 近代英語
教育学部	前田晶子	附属教育実践総合センター	准教授	日本教育史
医学部	堤由美子	保健学科看護学専攻 精神看護学講座	教授	精神看護学
農学部	吉崎由美子	附属焼酎・発酵学教育研究 センター 焼酎製造学	助教	食品工学 生化学
共同獣医学部	小原恭子	附属越境性動物疾病制御研 究センター	教授	ウイルス学 分子生物学
水産学部	仁科文子	水産学科水産生物・海洋学 分野	助教	海洋物理学
	久賀みず保	水産学科水産経済学分野	助教	水産流通学
理工学研究科 (理学系)	横川由起子	生命化学専攻	講師	有機化学
	河野百合子	鹿児島大学廃液処理センター	特任助教	環境化学 分析化学
理工学研究科 (工学系)	小林裕希	宇宙航空研究開発機 (JAXA) 電源グループ HTV プロジェクト	開発員	人工衛星の太陽電池お よび太陽電池パドルに 関する研究開発
	永井 翠	鹿児島工業高等専門学校 電気電子工学科	助教	生体工学
医歯学総合研究科 (医系)	郡山千早	人間環境学講座疫学 予防医学分野	准教授	疫学 公衆衛生学
医歯学総合研究科 (歯系)	犬童寛子	腫瘍学講座顎顔面放射線学 研究分野	助教	ミトコンドリア学 活性酵素学 宇宙環境医学
医学部・歯学部 附属病院	喜島祐子	血液・内分泌・糖尿病セン ター 乳腺・内分泌外科	診療講師	乳腺外科学 (診断・治 療)
臨床心理学研究科	中原睦美	臨床心理学専攻	教授	臨床心理学
学内共同教育研究 施設等	和田礼子	留学生センター	准教授	日本語教育 日本語文 法

【資料 I-5-(3)】

(「輝く女性研究者たちー鹿児島大学ロールモデル集ー」表紙)



○配布先 (印刷数 4000 部)

学内：鹿児島大学女子学部学生 1 年生・女子大学院学生 1 年生・各部局等・各関係施設等

学外：鹿児島県・市男女共同参画推進センター、鹿児島県内自治体・公共機関、Q-wea ネットワーク大学・他大学等

(4) 附属図書館・男女共同参画推進センター連携企画「知っていますか？男女共同参画」

より多くの人に「男女共同参画」に関する学習と啓発の機会を提供することを目的に、鹿児島大学附属図書館（中央図書館）が、独立行政法人国立女性教育会館（NVEC）情報センターの図書貸出パッケージサービスによる男女共同参画に関連する 200 冊の図書の貸し出しサービスとの連携企画として男女共同参画推進センターの活動を紹介するポスター展を同時開催した。

実施期間：平成24年12月3日（月）～12月21日（金）

場 所：附属図書館（中央図書館）ギャラリーアトリウム

展示内容：男女共同参画関連図書 200 冊

男女共同参画推進センターの事業及び研究支援員制度等紹介ポスター

女子大学院生研究活動紹介ポスター

男女共同参画推進センターNewsletter

メンター制度リーフレット

他大学のロールモデル誌

期間中には、主に学生（延べ人数約 200 人）が足を止めポスターに見入る姿があった。本企画は、大学における男女共同参画の取組の全体像を捉えるとともに、身近なロールモデル情報、大学院進学希望者にはキャリア形成情報等の提供する、男女共同参画推進センターの女性研究者支援制度や相談窓口等の周知機会となった。

また、男女共同参画の視点が、全ての人権課題に横串を通して見える多様な関連図書の貸出サービスは、専門的な学術書が多かったため、期間中 28 冊の貸出にとどまったが、男女共同参画についての知識や意識を高める契機となった。

附属図書館は、独立行政法人国立女性教育会館（NVEC）情報センターの図書貸出パッケージサービスによる男女共同参画に関連する図書の貸し出しサービスを平成23年度から行っているが、24年度には男女共同参画推進センターが実施している共通教育科目「男女共同参画とキャリアデザイン」の開講期間との関連を図りつつ行うこととしたもので、受講学生の参考文献にもなった。25年度実施に向け、意識醸成の機会となるよう、附属図書館とさらに連携しながら、内容等を工夫していくこととしている。



(5) スキルアップセミナー「英語論文書き方セミナー」

研究者が英語論文を書くにあたっての基本的かつ重要な技術と素養を学び、正式な知識と体系的な視点をもってより質の高い英語論文を書くことができるようスキルアップを図ることを目的とし、「英語論文書き方セミナー」を実施した。

なお、女性研究者や女子大学院生のキャリア形成において必要となるスキルアップを目的としていたが、男性研究者や男子大学院生からの希望が多く、男性にも受講対象を広げた。

実施日時：平成 24 年 6 月 27 日（水） 13:15～17:10

場 所：農学部共通棟 101 講義室

講 師：ミリンダ・ハル氏（カクタスコミュニケーションズ株式会社講師）

参加者：147 人

（女 60 人：女性研究者 19 人 女子大学院生 39 人 技術職員他 2 人）

（男 87 人：男性研究者 30 人 男子大学院生 50 人 技術職員他 7 人）

内 容：

講師は、英語論文を書く際の心構えや、スタイル・フォーマット、構成方法のほか、日本人が犯しやすい癖や誤りについて、クイズなどを交えながらわかりやすく解説。受講者からは「漠然としていたことが論理的に整理された」「日本語論文を作成する際にも参考になった」「犯しがちなミスを確認できた」などの声が聞かれ、これまでの論文執筆に対する考え方を見直す有意義な機会となった。

セミナー後、授業や出張等で受講できない人が多かったことや英語論文書き方セミナーのシリーズ化を要望する声が多かったことから、部局等で個別視聴できるよう DVD 化し、貸し出しできるようにしたところ、好評を得ている。



DVD

5 女性研究者増と上位職女性研究者増を図る取組

(1) 「部局等における男女共同参画推進に係る方針等」

第2期中期計画「Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置」として、「男女共同参画事業を推進するために、組織体制の整備や行動計画の策定等を行う」という計画を掲げ、平成23年3月には「男女共同参画推進に係る長期（10年）及び短期（3年）行動計画」（以下「全学行動計画」）を策定した。これらを着実に実行していくために、24年度は、14部局及び13学内共同教育研究施設等が「部局等における男女共同参画推進に係る方針等」（以下「部局等方針」）を策定し、第128回教育研究評議会（平成24年9月20日開催）において、報告確認された。これにより、部局等は、中期目標・中期計画達成に向けた各年度の年度計画において、「部局等方針」に沿って、それぞれの男女共同参画に係る年度計画（部局における男女共同参画推進に係る行動計画に相当）を策定し、さらに大学運営評価のPDCAサイクルによって進捗管理することとした。

主な策定要領は、以下のとおり。

<部局等方針策定要領>

○策定に係るスパン

中期目標・中期計画期間及び全学の「男女共同参画推進に係る長期及び短期行動計画」の期間をもとに、中間点である平成27年度を節目として設定

○策定における観点

以下の観点を基本に、部局・分野等の実状や特性を踏まえた上で、具体的な目標及び計画を策定（ただし、※を付した観点は必須事項とし、その他の観点についても可能な限り目標及び計画を策定）

- ・男女共同参画推進体制の整備 ※
- ・女性研究者増に向けた具体策
 - 女性研究者在職・採用比率の目標設定又は女性研究者増に向けた目標・取組 ※
 - ポジティブ・アクションの導入
 - 女性研究者支援策の整備充実（教育研究支援、両立支援等）
 - 次世代女性研究者（ポストドク、研究員等）の育成
- ・男女共同参画推進に係る就業環境等の整備（育児・介護等との両立支援、施設整備等）
- ・男女共同参画推進に係る意識啓発の推進（セミナー等の開催、情報提供の充実、女子中高生理系進路選択支援事業等）
- ・その他部局等における男女共同参画に係る取組

※は必須項目

5 女性研究者増と上位職女性研究者の増を図る取組

「部局等方針」の策定における観点の1つである男女共同参画推進体制の整備については、すでに23年度に男女共同参画推進委員会を設置した2つの部局を除き、24年度に9部局等で同委員会又はワーキング・グループの設置を、5部局では既存の関係会議での対応・協議の実施を方針に掲げた。

2つ目の観点である女性研究者増に向けた具体策における女性研究者の在職・採用比率の目標については、複数の部局で現状に応じた短期又は中長期的スパンでの目標あるいは努力目標が設定された。女性研究者を増やす具体的な取組についても、複数の部局でポジティブ・アクションの導入が盛り込まれ、理工学研究科（工学系）では女性限定公募の実施（25年4月から女性助教1名採用予定）、9部局等でプラス・ファクター方式（能力が同等であれば女性研究者を優先採用）の導入（24年度は4部局の教員公募で実施）が挙げられた。さらに、農学部及び理工学研究科（工学系）では、女性研究者を採用した場合の当該分野（講座）への研究費等のインセンティブの付与が今後の方針として示された（24年度では理工学研究科（工学系）で実施）。

また、女性研究者支援の一環として、若手女性研究者への研究環境整備に係るスタートアップ支援や、部局長と女性研究者との懇談会の開催等が盛り込まれた。さらに次世代女性研究者の育成については、テニユア・トラック制度の整備、女子大学院生への国際学会参加旅費の助成等の具体的な支援策の実施及びその検討、ロールモデル情報の積極的提供や女子大学院生と女性研究者との懇談会の開催、女子中高生の理工系進路選択支援等の取組が掲げられた。

そのほか、医学部・歯学部附属病院では、女性医師や看護師等の臨床現場定着や復帰支援、子育てとキャリアアップの両立を目指した女性医師や看護師等を育成する拠点として、女性医師等支援センターを25年1月に設置した。今後、勤務環境の改善、復帰トレーニング支援、さくらっ子保育園と連携した子育て支援やその他ワーク・ライフ・バランス支援等を展開していく予定である。

(2) 「男女共同参画キャラバン」

男女共同参画推進センターでは、平成23年度に策定した鹿児島大学男女共同参画推進に係る長期（10年）及び短期（3年）行動計画を全学的に推進していくため、各部局における男女共同参画に係る現状や課題、構成員のニーズ等について把握するとともに、女性研究者の積極的な採用及び登用並びに女性研究者の裾野拡大等について意見交換するため、男女共同参画推進室長（理事〔総務担当〕）と男女共同参画担当学長補佐による各部局への「男女共同参画キャラバン」を23年度に引き続き全部局において実施した。

24年5月から6月にかけて実施した第1回目では、「部局等方針」の策定に向けた意見交換や女性研究者増に係る部局の実状と課題の把握に努めた。さらに25年2月から3月にかけて実施した第2回目では、部局における「部局等方針」に係る進捗状況及び25年度計画の確認や、その進捗管理に関する協力依頼のほか、25年度からの男女共同参画推進センターの体制整備を踏まえた各部局における男女共同参画推進体制との有機的連携のあり方及び女性研究者増に向けた具体策等について意見交換を行った。

また、教員公募状況では、すべての部局において、依然として女性研究者の応募が非常に少ない状況が確認された。これに対し、男女共同参画推進室からは、24年度に作成した男女共同参画推進センターのリーフレットの活用等による女性研究者支援状況の可視化や、学会等への情報発信など女性研究者の応募増に向けた取組のさらなる推進のほか、女子大学院生等へのロールモデル情報の積極的な提供機会を設けるなどして、次世代の育成を図ることについて協力を求めるとともに、男女共同参画推進センターと連携した取組の実施等について提案を行った。

<平成24年度第1回実施状況>

- 5月10日 法文学部、教育学部
- 5月16日 農学部、共同獣医学部
- 5月18日 理工学研究科（理学系）、司法政策研究科
- 5月23日 医学部・歯学部附属病院
- 5月24日 水産学部
- 5月30日 医学部、医歯学総合研究科
- 6月1日 理工学研究科（工学系）
- 6月6日 臨床心理学研究科

<平成24年度第2回実施状況>

- 2月7日 理工学研究科（理学系）、理工学研究科（工学系）
- 2月8日 法文学部、連合農学研究科
- 2月18日 農学部、共同獣医学部
- 2月21日 水産学部
- 2月28日 司法政策研究科、臨床心理学研究科
- 3月1日 教育学部
- 3月8日 医学部、医歯学総合研究科、医学部・歯学部附属病院



6 保育支援

(1) ベビーシッター費用割引券発行事業

保育支援の一環として、教職員が就労のためにベビーシッターによる在宅保育を利用する際に、料金の一部を助成する(財)こども未来財団ベビーシッター育児支援事業制度を利用して、仕事と子育ての両立を支援する「ベビーシッター費用割引券発行事業」を平成23年11月から開始した。平成25年2月現在で、本事業対象事業者の会員となった教職員が2人という状況である。

(2) 大学入試センター試験時保育支援

乳幼児や学童を持つ教職員（非常勤職員を含む）が大学入試センター時等に試験監督等に従事する際の保育支援を平成25年1月19日（土）及び20日（日）の大学入試センター試験時に実施した。24年度は、大学近くの保育所での一時保育（パターン1）及び桜ヶ丘キャンパス内のさくらっ子保育園での一時保育（パターン2）を計画し、教職員3人（お子さん4人）が利用した。

利用した職員からは、「日曜日は預けられる施設があまりないので非常に助かった」「神経を使う入試業務に安心して集中できた」「休憩時にネットを通じて、いつもと違う子どもの様子がみられてよかった」などと好評であった。



パターン1での保育の様子

(3) 郡元地区における保育所設置に関する提案書

平成22年度に男女共同参画推進センターが実施した「男女共同参画推進に関する意識調査」等において、保育所をはじめとする保育支援を求める声大きいことを受けて、23年10月から11月にかけて「保育所整備充実等に関するニーズ調査」を実施した。調査時点で小学生以下の子どもを育てている人、将来子どもを持つ予定または希望している人を対象としたもので、156人から回答があった。その結果、大学に望む保育支援としては、保育所の設置が最も多く（89人 57.1%）、郡元地区に保育所が設置された場合には是非利用したいとの回答が28人からあったことなどを踏まえ、男女共同参画推進センターワーク・ライフ・バランス支援部門郡元地区保育所設置に関するワーキング・グループにおいて、他大学の保育園や桜ヶ丘キャンパスのさくらっ子保育園の運営体制、児童福祉施設の基準等を参照しつつ、設置場所、運営形態、サービス内容（定員、保育士の数、保育日・時間等）、予算等について検討し、「郡元地区における保育所設置提案書」を作成の上、学長に提出した。

7 次世代育成支援事業

(1) 共通教育科目「男女共同参画とキャリアデザイン」

平成 22・23 年度に引き続いて、共通教育科目「男女共同参画とキャリアデザイン」を開講した。本講義は、男女共同参画のあり方について、大学においてその基礎的理解を深め、社会において男女共同参画社会の実現に積極的に関わる人材を育成すること、また、将来のキャリアデザインに男女共同参画の視点を活かしていただけることを目的に開講しているもので、24 年度の授業及び履修者の構成は以下のとおりであった。

<授業の構成>

- 第 1 回 授業開設の主旨及び授業概要の説明
- 第 2～3 回 「男女共同参画」と男女共同参画社会
- 第 4 回 学校教育からみた男女共同参画
- 第 5 回 DV の被害者・加害者をつくらないために
- 第 6 回 憲法裁判からみた男女共同参画
- 第 7 回 男女共同参画に係る問題点・解決方法に関するグループディスカッション・テーマ設定
- 第 8～10 回 ロールモデル講話
(男女教職員 7 人：女性研究職・男性研究職・女性理系技術職・女性事務職・男性事務職)
- 第 11～13 回 男女共同参画の問題点・その解決方法に関わるテーマごとのグループディスカッション及びまとめ・プレゼンテーション資料作成
- 第 14～15 回 グループ発表

<学年別構成>

1 年生 29 人、2 年生 2 人

<学部別構成>

法文学部 7 人、教育学部 6 人、理学部 1 人、工学部 6 人、農学部 10 人、水産学部 1 人

受講学生は、男女共同参画の在り方や課題について学習した後、数人ずつのグループに分かれ、「鹿児島大学の男女共同参画」「日本企業におけるダイバーシティ」「生活 DV について」「少子化を防ぐための世界各国の取組」「中国・日本 男女平等」「女性の社会進出と法律の歴史」「育児と仕事をうまく両立するには」「職と進学と男女参画」の 8 つのテーマをそれぞれ設定した上で、資料収集や討論を行い、最後にパワーポイントにまとめて 15 分間の発表、提言を行った。

授業を終えて、受講生からは「この授業で学んだことは自分の将来に関わる。周囲の人にも知ってほしい。」「仕事と生活を両立させている人の生の声が聞けてよかった。」「男女差別はもちろん、様々な境遇の人々が暮らしやすくなるために積極的に行動するようにしたい。」などの声が聞かれた。



プレゼンテーションの様子

(2) オープンキャンパス企画「muse カフェ」“ガールズ☆Talk”

これから大学進学を目指す女子高校生・受験生に対し、大学院で学び研究している女子大学院生がロールモデルとなり、大学での研究活動や授業、その他学生生活の現状を学生目線で紹介するとともに進路に関する助言や意見交換を行うことで、高校生の進路選択やキャリアプランニングの一助となることを目的として、平成 22 年度から実施している。

24 年度は、企画段階から学生の声を反映させられるよう学生を交えた企画会議を開催し、イベントのネーミングや、女子高校生目線からの様々な提案（シールラリー等）があり、それらを踏まえて実施した。また、当日は、学生ボランティアが、女子高校生の会場への案内、受付や会場整理等の運営全般に協力した。

開催日時：平成 24 年 8 月 4 日（土） 11:00～16:00

場 所： 共通教育棟 3 号館 312 講義室及び学生交流スペース



○来場者等

- ・ポスター発表大学院生 18 人
人文社会学研究科 2 人、教育学研究科 2 人、保健学研究科 2 人 農学研究科 3 人
水産学研究科 2 人、理工学研究科（理学系）2 人、理工学研究科（工学系）2 人
臨床心理学研究科 2 人
- ・来場者 合計 254 人
高校生 232 人、中学生 1 人、短大生 1 人、保護者 20 人
県内 186 人（28 高校 1 中学 1 短期大学）
県外 48 人（7 県 2 府 21 校）
- ・ボランティア学部学生 16 人

○感想

〈高校生〉

- ・ 研究内容の発想の豊かさ・苦手な教科への対応の仕方を教えてもらった。
- ・ 専門的なことだったが、分かりやすかった。
- ・ 文系志望だが、理系の発表会にも興味をもった。
- ・ 実際に就ける職業が聞けた。
- ・ 鹿大に行きたくなった。
- ・ 女子限定の雰囲気よかった。
- ・ 進路選択の迷いが少し晴れた気がした。
- ・ 多くの学部を見ることができてよかった。優しい先輩にあこがれた。
- ・ この企画は続けてほしい。
- ・ サービスがよかった。モチベーションが上がった。
- ・ 進路に悩んでいる人にはよい企画だと思う。自分の将来が少し見え視野が広がった。

〈大学院生〉

- ・ 自分の研究を高校生や周りの大学院生に知ってもらいよい機会となった。また、他研究科のポスターが参考になった。
- ・ 高校生に分かりやすく説明するということが自分のプレゼンテーション力を鍛えることとなり勉強になった。また、他分野の院生と話す機会があり、普段は他研究科との関わりがないため新鮮だった。
- ・ ポスター作成から、研究や学生生活を客観的に捉えるよい機会となった。
- ・ 高校生からパワーをもらった。
- ・ 文系志望の高校生であっても、積極的に実験に取り組んでくれた。
- ・ 高校生だけでなく、ボランティア学生とも話せ、女性限定のカフェスタイルの交流はよかった。

当日は、途切れることなく来場者があり、各分野の大学院生との交流が図られた。女子大学院生は、来場者である女子高校生が研究内容に興味を持てるよう、意欲的にポスター発表を行った。また、ボランティア学生の活用により、会場内の誘導等、和やかな雰囲気で運営となった。しかしながら、大学院生が研究発表、進路相談等双方を担うことで来場者を待たせることがあったことから、相談ブースを他に設け、研究発表と分けて行うなどして来年度の運営に活かすこととしている。

(3) 女子中高生のための鹿大科学体験塾～理系女子(リケジョ)ってカッコイイ!～

男女共同参画推進センターでは、理工系 5 学部と連携して、「女子中高生のための鹿大科学体験塾～理系女子(リケジョ)ってカッコイイ!～」を平成 24 年度初めて実施し、理工系 5 学部の 10 コースに計 85 人の女子中高生が参加した。これは、理工系に進む女子が少ない現状を踏まえ、女子中高生を対象に、実験等を通じた科学の体験機会やロールモデルとなる女子大学院生との交流機会を提供することで、理工系への関心を持ってもらう契機とすることを目的としたものである。なお、実施に際しては、鹿児島県教育委員会及び鹿児島市教育委員会の後援をいただき、広報活動等において連携を図った。

取組の概要として、理学部では、体の中で働いている酵素の働きの観察や、金や銀のナノ粒子を作って光の手法を使ったミクロの世界の体験、工学部では、女性建築家によるロールモデル講話と生活空間の設計や、ファッションなどに応用されている目の錯視の体感、農学部では、家畜の体外受精の実験や、身近な生き物の顕微鏡での観察、水産学部では、ミクロなサイズのプランクトンが秘めている生き残るための技の観察や、刺身の鮮度や食感を左右するタンパク質の抽出実験、共同獣医学部では、モグラの生態観察・標本作りや、ウマ・ウシ・ブタの観察及び飼育・診療の体験に、女子中高生がそれぞれ参加した。また、一部の学部では、今回事業に協力してくれた女子大学院生等との交流会も企画された。

○各コース概要

<理学部 おいでよ!理学部へ!～楽しい理科体験実験への招待!～ 平成 24 年 11 月 17 日(土)開催>

コース名	コース概要
酵素の働きを見てみよう! ～体の中は「化学工場」 主役は酵素～	私たちの体の中はまるで複雑な化学工場です。そこでは様々な化学反応が進行しています。普通の工場で化学反応を行うときには、反応をうまく進行させるために熱や圧力を加えたり、pH を調整したりしますが、私たちの体の中では極端に温度や圧力や pH が変化することはありません。そういうおだやかな条件のもとで化学反応が効率よく進行するのは、生体内の触媒である酵素の働きです。酵素反応についての理解を深めましょう。
光で探るミクロの世界! ～薩摩切子にひそむ 金のナノ粒子を作ろう～	ナノメートル(nm)とは 10^{-9} m であり、髪の毛の太さの 10 万分の 1 程度の非常に小さなサイズになります。鹿児島が産地である薩摩切子は赤い色を呈する金のナノ粒子が含まれており、ナノ粒子とはナノメートル(nm)オーダーの大きさを持つ粒子のことをいいます。今回は、金や銀ナノ粒子を実際に作ってみてそれらのミクロな世界を、光の手法を使って見てみましょう!そしてその小さなミクロな世界で起こる科学現象を探求してみましょう!



酵素の働きを見てみよう!



光で探るミクロの世界

<工学部 工学女子になってみる！ 平成 24 年 11 月 18 日(日)開催>

コース名	コース概要
女性建築家に聞く建築の魅力&身近な生活空間をデザインしよう	このコースでは最初に女性建築家に建築設計の魅力について話をさせていただきます。その中で建築士を志した動機や建築士になるまでの道のりについても紹介していただきます。その後、大学生と一緒にチームを作ってデザインワークショップを行います。“小さな家”をテーマにアイデアを出し合ってそれを形にしてゆきます。最後にプレゼンテーションをして皆で講評します。
目の不思議を体験してみよう～だまし絵からファッションまで～	「見る」ということには強烈なインパクトがあり、正しいものだと思います。でも、だまし絵の例にも見られるように、実は私たちの見ているものにはたくさんの「うそ」が含まれています。普段気が付かない目の不思議を体験し、また、それが日常にどのように応用されているかを皆さんの目で確かめてみてください。普段使っているテレビからファッション・コスメまで、その一端をご紹介します。



女性建築家に聞く建築の魅力&身近な生活空間をデザインしよう



目の不思議を体験してみよう

<農学部 『農ガールになろう！』～食料生産を支えるミクロの世界～平成 24 年 11 月 24 日(土)開催>

コース名	コース概要
農地にいる小さな生き物たち～微生物や小動物の顕微鏡観察～	顕微鏡での観察は中高生でもやっていると思いますが、見る対象物は限られていると思います。そこで、農学部でないと見られない対象物（植物病原菌、土壌微生物、小昆虫など）を持ち寄って観察します。ただ見るだけでなく、プレパラートなどの準備もできる範囲でやってもらいます。顕微鏡のうち一台はPCとプロジェクターに接続し、「画像を前方スクリーンに投影し皆で顕微鏡での観察は中高生でもやっていると思いますが、見る対象物は限られていると思います。そこで、農学部でないと見られない対象物（植物病原菌、土壌微生物、小昆虫など）を持ち寄って観察します。ただ見るだけでなく、プレパラートなどの準備もできる範囲でやってもらいます。顕微鏡のうち一台はPCとプロジェクターに接続し 画像を前方スクリーンに投影し皆で観ながら微小の世界について考えます。
生命誕生の神秘 ～家畜の卵子や精子の観察と体外受精の実験～	本学生物生産学科家畜生産学コースは、家畜の発生工学的技術の教育で全国的に有名です。そこで、日々材料としている家畜の卵子と精子の形態を顕微鏡下で観察し、さらに、それらの生殖細胞を用いて体外受精の実験を行ってもらいます。これらの体験を通して生命誕生の神秘、そして生命の尊さを実感してもらいます。



農地にいる小さな生き物たち



生命誕生の神秘

<水産学部 海のプロフェッショナルになろう 平成 24 年 11 月 11 日（日）開催>

コース名	コース概要
刺身の鮮度を色で科学する ～タンパク質の抽出と分析	魚の切り身は、鮮度が落ちると（つまり古くなると）色が変わってしまいます。これは、魚の死後、筋肉中のタンパク質が変性するからですが、保存状態や経過時間によって変性の程度は違ってきます。どんなふうが違うのか、タンパク質を取りだして、ぎゅっと凝縮し、その性質を比較しましょう。普段食べている魚の刺身の色や食感の秘密が分かります。
海の中のマイクロワールドを体験しよう！ ～顕微鏡によるプランクトンの観察と海洋調査の紹介～	海洋の食物連鎖を下から支える主な植物は、プランクトンです。それを食べる動物プランクトン共々、大変小さく、顕微鏡でなくては見ることはできません。彼らはその小さな体に生きるための様々な仕組みをもち、環境応じて様々な種類が生きています。こんな海のマイクロワールドを体験しませんか？



刺身の鮮度を色で科学する



海の中のマイクロワールドを体験しよう！

<共同獣医学部 動物おもしろ発見！ 平成 24 年 11 月 17 日（土）開催>

コース名	コース概要
産業動物ってどんな動物？	産業動物とはどんな動物のことを指すかについて勉強します。また、産業動物に実際触りながら、各種動物の魅力を体験してもらいます。
潜入！モグラの地中生活	モグラの行動や形態を観察し、種によって異なる動物の特徴について学習します。また、野生動物の暮らす自然環境について考えます。



産業動物ってどんな動物？

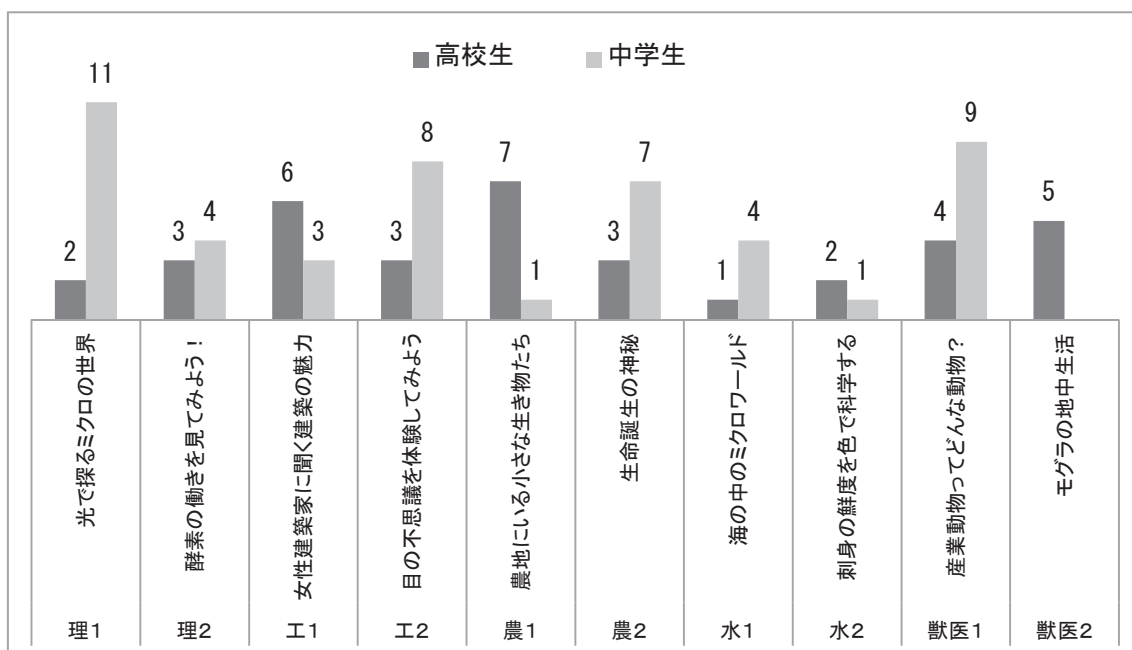


潜入！モグラの地中生活

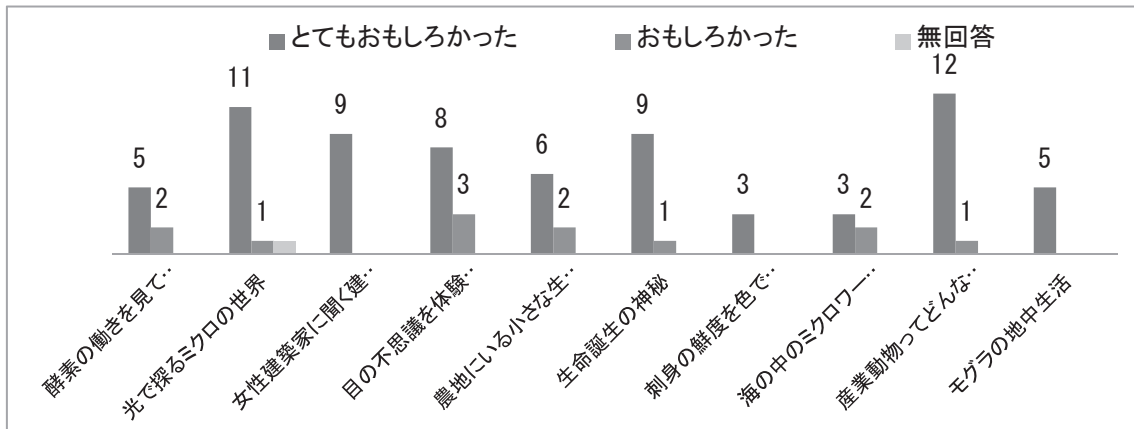
○参加者へのアンケート結果

女子中高生からは、「今回の体験を通じてさらに興味が深まった」「今まで学んだことのないことに挑戦できて刺激になった」などの声が聞かれ、各学部での実験や女子大学生との交流等を通じて、科学の世界への関心を深め、また学生生活、卒業後の進路情報を得るなどして進路選択を考える有意義な機会となったものと思われる。参加者へのアンケート調査結果は以下のとおりであった。

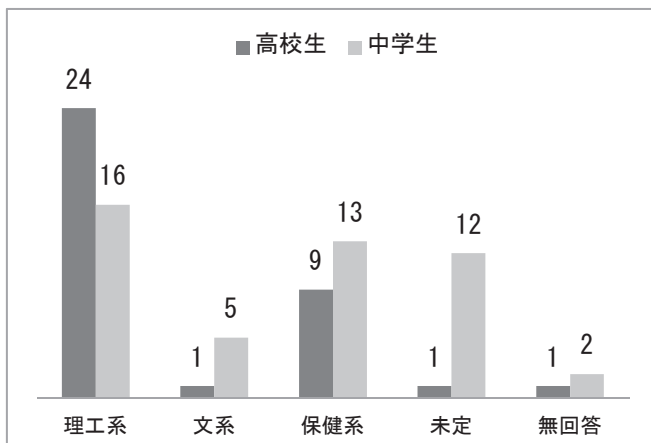
コース別参加者内訳



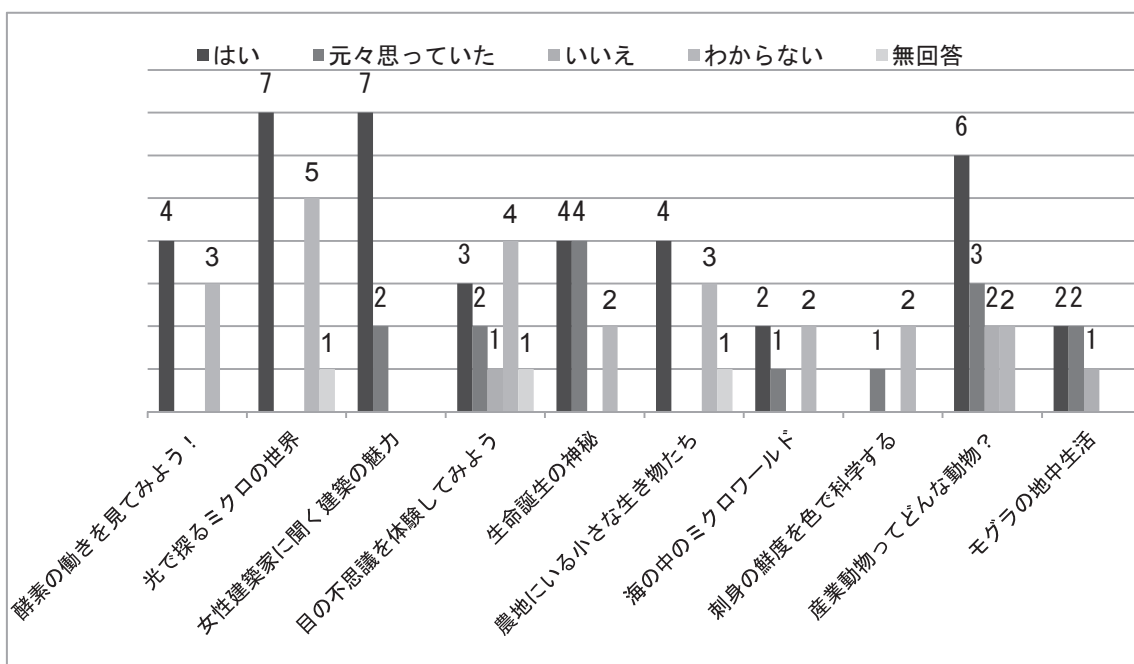
参加者の感想



参加者の進路希望分野



今回参加して理工系へ入学を希望する又は選択肢のひとつとして考えるか



【資料 I-7-(3)】

(女子中高生のための鹿大科学体験塾広報ポスター)



国立大学法人
鹿児島大学
KAGOSHIMA UNIVERSITY

女子中高生のための鹿大科学体験塾

理系女子(リケジョ)って カッコイイ!



女子中高生のみなさん、様々な実験を通じて科学の楽しさに触れ、学生と交流しながら、理系の魅力について聞いてみませんか!!

申込期間: 10月15日(月)～10月31日(水)

※応募者多数の場合は先着順

10コース
(各学部2コース)

定員 各10名

無料
(事前申込必要)

※保護者、教諭の方の見学可

水産学部 日時 11/11(日) 10:00～15:00

海のプロフェッショナルになろう!



コース1
海の中の
マイクロワールド
～顕微鏡による
プランクトンの観察と
海洋調査の紹介～

コース2
刺身の鮮度を
色で科学する
～タンパク質の
抽出と分析～



コース1
酵素の働きを
見てみよう!
～体の中は「化学工場」
主役は酵素～

コース2
光で探る
ミクロの世界!
～薩摩切子に潜む金の
ナノ粒子を作ろう～

共同獣医学部 日時 11/17(土) 13:30～16:30

動物おもしろ発見!



コース1
産業動物って
どんな動物?
～獣医さんになって
動物を触ってみよう～

コース2
潜入!モグラの
地中生活
～身近な生き物の知られざる
世界を観察してみよう～



コース1
女性建築家に聞く
建築の魅力&
身近な生活空間を
デザインしよう!

コース2
目の不思議を
体験してみよう
～だまし絵から
ファッションまで～

農学部 日時 11/24(土) 13:30～16:30

農ガールになろう!
～食料生産を支えるミクロの世界～



コース1
農地にいる
小さな生き物たち
～微生物や小動物の
顕微鏡観察～

コース2
生命誕生の神秘
～家畜の卵子や
精子の観察と体外
受精の実験～

各コースの詳細い内容や申込方法は裏面へ!

詳細は男女共同参画推進センター
WEBサイトをご覧ください

<http://atsumime.kuas.kagoshima-u.ac.jp/>

鹿大 男女共同参画

お申込・お問合せは 

鹿児島大学男女共同参画推進センター
TEL:099-285-3012 FAX:099-285-7062
E-mail: gender@kuas.kagoshima-u.ac.jp
WEBサイト: http://atsumime.kuas.kagoshima-u.ac.jp/

後援: 鹿児島県教育委員会、鹿児島市教育委員会

(4) 出前授業

男女共同参画推進センターでは、平成 23 年度から高大連携による出前授業に「自分のライフプランニング」「研究者への道」の 2 つの科目を提供している。

24 年度は、鹿児島市の志學館高等学校 1 年部からの申込があり、水産学部の女性研究者を講師として実施した。

日 時：平成 24 年 11 月 9 日（木） 15:30～16:30

対象者：志學館高等部 1 年生 118 人（女子 69 人、男子 49 人）、教員 7 人

講 師：水産学部 久賀みず保 助教（水産流通学）

演 題：「研究者への道－食への情熱－」

内 容

食の現状と、季節に応じた多様な水産物の魅力を伝え、消費者が問題意識を持ち、正しい食の選択をする必要性や、豊かな食生活を維持させ、日本の水産業を守るために、流通における問題点を改善していく研究をしていることを説明した。

また、高校時代からのキャリアについてその時々のエピソードや考え方を紹介し、高校時代に「人間にとって最も大切な食べ物に関する仕事がしたい」という気持ちを持ち続けたことが、農学部進学や留学経験につながり、日本の食生活を維持し、水産を守り社会貢献したい自身の情熱を伝えるとともに、「成し遂げる何か」を見つけることで努力ができ道が拓け自己実現できると、進路選択や職業選択への視点を持たせながらエールを送った。



生徒のアンケートからは、「水産や食に興味をもった」「水産学部も視野にいれたい」「職業ではなく、成し遂げる何かを見つけたい」などの感想が多くあった。また、「働く女性の姿も見ることができよかった」「研究者が何をしているのかが分かった」など、ロールモデルとして生徒のライフプランニングの一助になったことが伺えた。

8 他大学・自治体との連携活動

(1) 九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワーク (Q-wea)

平成 24 年度には、新たに Q-wea に福岡大学、沖縄科学技術大学院大学の 2 大学が参加し 10 校となり、九州・沖縄の女性研究者支援のネットワークがさらに広がった。

① 第 4 回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム in 大分

平成 24 年 12 月 15 日 (土)、大分市において、「つづけること、つながること九州・沖縄の絆のちから～研究者が能力を発揮していくために～」のテーマのもと、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」採択 8 大学 (一部事業終了) が参加してのシンポジウムが行われた。基調講演・特別講演に続き、「女性研究者支援を『続ける』ために必要なこと」というテーマで独立法人科学技術振興機構科学技術システム改革事業プログラム主管の山村康子氏をコメンテーターに迎え、パネルディスカッションが行われた。8 国立大学法人担当理事・センター長から各大学の取組報告があり、事業終了後における男女共同参画推進の体制作りや事業内容の精選等における意見も多く出され、本学における今後の取組への参考になった。



② Q-wea 担当者会議・学習会

○平成 24 年 9 月 7 日 (金) 14:30～16:00

福岡大学において、6 大学 (佐賀大学・九州大学・宮崎大学・長崎大学・大分大学・鹿児島大学) のセンター長もしくはコーディネータ・室員による各大学の近況報告後、情報交換を行った。

○平成 24 年 12 月 15 日 (土) 11:30～12:30

九州・沖縄アイランドシンポジウム開催日に合わせ Q-wea 担当者会議を開催し、各大学男女共同参画推進センター長、コーディネータ、室員、事務担当職員の参加があり、平成 24 年度の主な取組について報告や意見交換があった。その中で、保育支援や介護支援、学童保育等の取組の成果や女性研究者増への積極的な取組に対する合法性の確認と、その推進の必要性などが多く出された。また、研究支援員制度については、事業終了後における、大学独自のスタイルが求められることなども話題となった。加えて、男女共同参画を継続して推進するため、トップセミナーや部局長との意見交換等が効果的であると先行大学からアドバイスがあった。

○平成 25 年 2 月 15 日（金）11:00～15:00

Q-wea 学習会が琉球大学で行われ、各大学の男女共同参画担当者が参加した。今回は、「広報」に関しての実務担当者のスキルアップを目的に、「となりの広報をのぞいてみよう！成果も課題もシェアリング編」と題して、佐賀大学の男女共同参画推進室コーディネータがファシリテーターとなりワークショップスタイルでの学習会となった。

各大学の担当者が、持ち寄った Newsletter・ポスター・クリアファイル・ちらし・グッズ等の広報媒体をもとに、それぞれの広報活動を現状報告したほか、限られた予算の中で工夫した広報事例として、琉球大学から、ポスター等の作成上のソフトの紹介、沖縄科学技術大学院大学から、学内ウェブサイト上での情報提供システムによる教職員・学生への情報発信の紹介、宮崎大学からは、自主制作で月 1 回発行している“かわら版”の紹介があった。

一方、各大学における課題として、予算上の制約、実務担当者の広報スキル不足、学内外に向けた各種広報の周知徹底やマスコミとの連携の困難さ等について意見が出された。

今後の事業終了後を見据え、限られた予算の中で、いかに学内外に向けて効果的に大学における男女共同参画の取組を周知し、男女共同参画や女性研究者支援に対する理解を求めることができるかといった広報・意識啓発活動をはじめとする男女共同参画推進事業に係る課題やグッドプラクティス等について、今後も大学間連携を図りつつ、情報を共有していくこととしている。



学習会の様子（平成 25 年 2 月 15 日）

(2) 自治体との連携

① 鹿児島市「サンエールフェスタ」への参画

平成23年度から、鹿児島市男女共同参画フェスティバル事業の参加型イベントに関連事業として参加しており、24年度には、改称された鹿児島市男女共同参画推進事業である「サンエールフェスタ」の男女共同参画ワークショップに参画した。

日 時：平成25年2月3日（日）10:00～12:00

場 所：鹿児島市サンエールかごしま3階交流サロン

ワークショップ事業名：「muse カフェ」～女子大学院生に聞く、鹿大ナウ！～

実施内容：女子大学院生6人によるポスター発表、学生生活や進路選択を話題とするカフェの実施

参加者：中学校教諭 1人 学生 2人 一般 5人

参加した教員からは、「リケジョを増やせるように、女子大学院生の研究を伝え、直接聞くことができた学生生活等のことを進路指導やキャリア学習に活かしたい」とコメントがあった。また、他の参加者からは、「研究は面白く、多くの人に聞かせたい」との感想もあった。今後、入試や学年度末試験等との重なりのためか、中高校生の姿がなかったこと等の課題について鹿児島市と話し合い、25年度につなげていきたいと考える。



② 鹿児島市男女共同参画情報誌への女性研究者紹介

鹿児島市が年2回発行している男女共同参画情報誌「すてっぷ」第36号（平成25年3月発行）に、鹿児島大学女性研究者1人のロールモデル紹介及び鹿児島大学男女共同参画推進センター長のインタビュー記事が紹介された。本紹介は、国の第3次男女共同参画基本計画及び鹿児島市第2次男女共同参画計画の「あらゆる分野における男女共同参画の促進」に掲げられている、活躍する女性のロールモデルの発掘や活動事例の収集、提供を行うこととしたもののひとつである。鹿児島市との連携を図っている中で、鹿児島市側から提案された企画であり、女性研究者支援活動をはじめとする男女共同参画の取組紹介を通じて、地域における大学の取組の広報とともに女性研究者支援の意義など男女共同参画に係る意識啓発に大きく寄与したと思われる。

配布数：25900部 配布先：鹿児島市公共施設、町内会、医療機関、企業等

(鹿児島市男女共同参画情報誌「すてっぷ」第 36 号)



(鹿児島市男女共同参画情報誌「すてっぷ」第36号)

特集

「研究者」として 活躍する女性たち



男女雇用機会均等法の施行以降、社会のさまざまな分野で女性の進出が進んできましたが、それでもまだ研究分野での女性の割合は少ないのが現状です。特に理系分野の女性研究職は非常に少なくなっています。

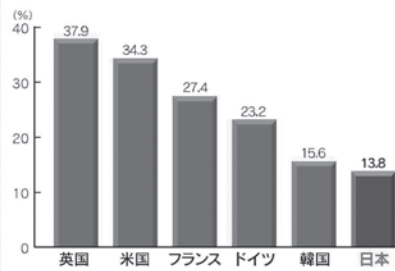
国では、平成18年度から大学等を対象に支援事業をスタートし、女性研究者の育成に取り組んでいます。

今号では鹿児島市で活躍する女性研究者や鹿児島大学の取組取材し、「研究職で働く女性の今」を紹介します。

全体に占める割合は1割強

主要先進国の中でも、日本の女性研究者数は非常に少ないです。その大きな原因の一つに「研究環境整備の遅れ」が挙げられています。欧米では研究者が研究に専念できるよう、周辺業務に従事するスタッフを配置するなど手厚いサポート体制が整っているケースが多いのに対して、日本では研究者が一人で幾つもの仕事をこなさなければならないことが多く、男女を問わず研究の障害になっています。特に女性は出産・育児などのライフイベント期に研究との両立が困難なことが、女性研究者が育ちにくい要因の一つと考えられます。

主要先進国における女性研究者の割合



〔総務省科学技術研究調査報告〕(日本) 平成23年
〔出典例〕〔NSF Science and Engineering Indicators 2006〕(米国)

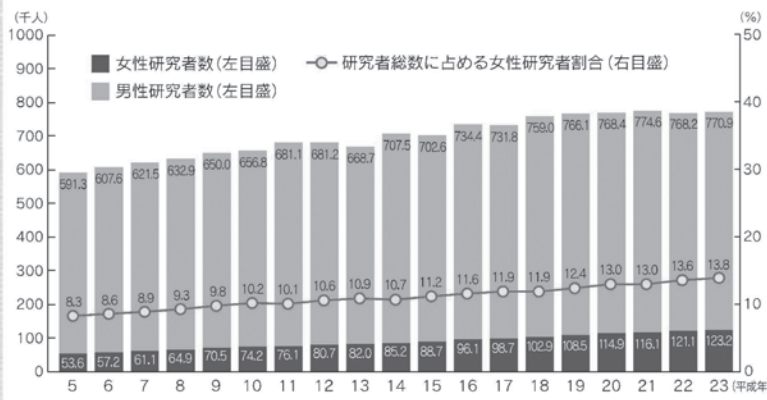
「理系女子(リケジョ)」の育成

最近よく見聞きする「リケジョ(=理系女子)」…理系に進んだ女性の愛称です。結婚や子育てをしつつ、第一線で活躍する女性の科学者や宇宙飛行士の姿が注目を集めています。しかしまだ、理系学部や研究者における女性の割合はかなり低く、科学技術分野の研究職における女性の割合が約12%、大学教員における女性の割合が約15%、理系学部における女子学生の割合が約20%と、先進各国の中で最低レベルとなっています。

国は第三次男女共同参画基本計画と第4期科学技術基本計画を推進中で、自然科学分野の女性研究者の採用目標として早期に25%を達成し、さらに30%にまで高めることが計画中に明記されています。(平成21年度24.2%)

女性研究者数及び研究者に占める女性割合の推移

総務省「科学技術研究調査報告」より作成



まだまだ少数ながら、女性の研究者の数は年々増えています。次ページからは、鹿児島大学で研究職として働く先生方にお話を伺いました。



かごしまのジェンダー博士「幸せの青い鳥」のすてっぷさん

(鹿児島市男女共同参画情報誌「すてっぷ」第36号)

活躍する女性研究者 interview



大学院医歯学総合研究科
医歯学教育開発センター教授センター長
田川 まさみ さん
千葉大学大学院卒業
医学博士 平成20年より現職

現在の研究活動【医療者教育学、医歯学教育、内科学】

平成20年から医歯学教育開発センター教授として赴任し、教育プログラムの提案と評価、試験の実施と解析、教育運営等、医学教育全般の業務を行っています。

これまでの医学教育は、医学・医療の専門家である医学部の教員に全ての裁量が委ねられてきました。大学教員は自分の専門領域を、自分が教わった経験や先輩教員の指導のもとに、学生や後輩医師を教えることとなります。しかし、医学の発展とともに学生が修得すべき内容は多岐にわたり、患者の皆様にも信頼され社会に貢献する医師のもつべき責任感、対人関係、行動も、プロフェッショナリズムと呼ばれて修得を目指すようになりました。医学部には、大学が目指す医療者育成の理念を実現するための一貫した教育カリキュラムと個性豊かな学生に対応する教育方法が必要とされており、学ぶ学生を支援し、学生や研修医の指導にあたる教員や病院職員をサポートするシステムが必要となってきました。現在は直接学生指導を行うだけでなく、医療者教育の専門家として教育を評価するためのデータを集めて解析し、国内外の情報を収集して鹿児島大学の教育に還元する提案を行い、また教員の教育技能向上を目指した活動を通して、医学教育の改善に取り組んでいます。学生の学習や学習成果の評価に関する研究も行っていきます。

制約はあっても最先端の仕事を

千葉大学医学部を卒業して臨床研修をしていましたが、病気の原因を解明し新しい治療方法を生み出す研究に興味を持ち、大学病院で肝炎ウイルスの研究を開始しました。医学研究は国際的な競争も激しく社会からのニーズも大きいので、一刻も早く研究成果を挙げなければなりません。素晴らしい恩師にもめぐり会い、深夜、週末を問わず実験する日々となりましたが第一線の研究をする機会に恵まれ、スタンフォード大学の留学も経験して国際学会や論文発表も行いました。帰国後は大学で研究を続けながら大学病院での臨床業務や学生教育も担当しました。ふたりの子供を育てながら、身近にいつでも頼れる身内がいるわけでもなく、さらに一人でたくさんの作業をこなさなければならぬ日本の大学の研究環境は、非常に厳しいものがありました。

制約はあっても大学教員として最先端の仕事を続けていたと思っていた時に、医学教育というテーマに出会いました。医学生、若い医療者を育てる、そして彼らの望ましいロールモデルとなる指導者を育てることを自分の専門とし、2回目の留学を経て今に至っています。日本ではまだ新しい分野で、鹿児島大学でもこの領域の最初の教授となりました。

後輩への メッセージ

「女性」であるからできないことがあると考えたことはありませんでしたが、やはり育児は嫌でも「女性であることの制約」という現実を突きつけました。育児休業制度の有無に関わらず、休むことが研究者である自分にとってマイナスになることははっきりわかりましたので、なんとかデータを出そうと食いしばったこともありました。それが必ずしもよいことだとは思いませんが、少なくとも「優れた研究とは厳しいもの」であることは知っておいてほしいです。そして同時に、志す人にとっては「必死になってしまう程魅力的でやり甲斐がある」ということも。

「(私は)自分の好きな場所で、好きなことをマイペースでやっていられればそれでいい。昇進したいとは思わない」と言う人もたまにいますが、それはとても甘い考えだと思います。研究者は世界と競争しながら少しでも良い成果を誰よりも早く出すことができ、初めて評価されるものです。そのような研究者を目指さなければ研究者としての仕事の場も、研究をするための費用も得られません。素晴らしい成果を論文として発信できたときの喜びは、自分のアイデアで研究を行い、時間を費やした結果です。必ずしも長時間の実験をするということではなく、常に最先端に身に置いて、研究のリーダーシップを図ることが何よりも重要です。そしてそのような研究者は男女を問わず世界から認められます。

もちろん、研究者がより研究しやすい環境を整えていくことは重要で緊急の課題です。その支援に鹿児島大学も力を注いでいます。ですから研究者を志す皆さんには、その学問が好きということに加えて「研究者としてあり続ける」という自覚を持って進んでほしいと思います。



(鹿児島市男女共同参画情報誌「すてっぷ」第 36 号)

女性研究者の支援と育成に取り組む 国立大学法人鹿児島大学

鹿児島大学では「一人ひとりが伸びやかに、自分らしく輝くために」という目標を掲げ、男女共同参画の推進に取り組んでいます。

鹿児島大学男女共同参画推進室副室長で、鹿児島大学教育学部教授の田島真理子先生にご自身の経験も交えて、お話を伺いました。

田島 真理子 さん

鹿児島大学男女共同参画推進室
副室長・教育学部教授
お茶の水女子大学
大学院卒業・博士(農学)



大学を あげての 取組



男女共同参画社会の実現は現在、国の最重要課題と位置づけられています。現在鹿児島大学(以下: 鹿大)は、女性研究者の割合が高いとはいえません。そのため、この課題解決に向けて、子育てや介護を必要とする教職員が働きやすい環境の整備、女性教員・研究者の増員などの男女共同参画を推進するために、平成 21 年度に「男女共同参画推進室(現 男女共同参画推進センター)」を設置しました。

平成 22 年度には「男女共同参画に係る長期(10 年)及び短期(3 年)行動計画」を策定し、さらに平成 23 年度文部科学省科学技術人材育成補助事業「女性研究者活動支援事業」に採択され、女性研究者を増やすためのさまざまな取り組みを行っています。

男女共同参画推進センターでは、広報や意識啓発に努め、一人でも多くの女性が研究者としての道を切り開けるよう支援や環境整備を推進しています。現在は 15%の鹿大女性研究者比率を本学の目標である 20%まで 1 日も早く達成させたいですね。

研究支援員 制度



出産・育児、あるいは親の介護などのいわゆる「ライフイベント期」にある女性研究者の研究活動を支援する制度です。

具体的にはライフイベント期の女性研究者(研究者を配偶者に持つ男性研究者を含む)に対し、その研究を補助する支援員を配置します。例えばデータの分析とか実験のものを支援員にフォローしてもらうことで、育児や介護の時間を確保するとともに、自身の研究への影響を最小限にすることができます。

支援員は大学院生、又は大学院課程修了者等ですが、研究者のサポートをすることでより見識を広め自身の学びにも生かれます。支援する側・される側、どちらにも良い制度ですね。23 年度に始まって毎期約 10 人ほど利用しています。もっと多くの人に使ってもらえるように PR していきたいと思っています。



メンター 制度



もう一つの大きな柱が「メンター制度」です。これは女性研究者や女子大学院生の相談に、経験豊富な先輩研究者(メンター)が助言をしてくれる制度です。相談する側のメンティーは女性ですが、メンターは男性の場合もあります。

キャリア形成していく上でのノウハウや生活と研究の両立の仕方などメンターから具体的なアドバイスが受けられるのが特徴です。



大学を挙げて
女性研究者支援に
取り組んでるね!

自身の経験を 振り返って

国の施策として女性研究者、特に理系の研究者を増やすことが大きな課題になっています。私自身も理系で、大学に入るとき数学と食物学のどちらに進むか迷いました。父が「せっかく(女性が)学ぶのなら、生活に結びつくことをテーマにしたら?」と助言してくれて食物学の世界に入りました。入ってみたらそれはもう、想像以上に奥行きが深く面白い分野です。先生方は「後進の女性研究者を育てねば!」ととても熱心に指導してくださりありがたかったですね。

ただ、育児と研究の両立は大変でした。育児休業制度もない時代ですから 0 歳から学内保育所に預けて研究に復帰。保育所が 3 歳までだったのでその後、一般の保育所に入れようにもどこもいっぱい入れず結局、お預かり保育をしてくれる幼稚園を頼ってお世話になりました。いろいろな経験が、若い研究者の皆さんの研究環境を良くすることに活かされればと思っています。

研究職は自分が興味のあるものに向き合える仕事です。ステップを踏んで研究対象を突き詰めていけることは本当に楽しいです。興味のある人はぜひ、研究職の道を目指してみてください。

(鹿児島市男女共同参画情報誌「すてっぷ」第 36 号)

女性研究者の活躍促進のために

日本が国際競争力を維持・強化し、多様な視点や発想を取り入れた研究活動を活性化するためには、女性研究者の能力を最大限に発揮できるような環境を整備し、その活躍を促進していくことが不可欠です。

国では、そのために、科学技術・学術分野における政策・方針決定過程への女性の参画の拡大を図り、女性研究者が研究と出産・育児・介護等とを両立し、研究を継続するための保育支援、研究支援、復帰支援、慣行の見直しなどの環境整備の充実など、女性研究者が働きやすい環境を醸成するとともに、女子学生・生徒の理工系分野への進路選択を支援に取り組んでいます。

科学技術・学術分野における女性の参画拡大



女性研究者の採用拡大

研究機関の取組状況等の公表や研究機関における採用・登用及びその活躍を促進するよう働きかける

女性研究者を支援する環境づくり



女性研究者研究活動支援事業

女性研究者が出産・子育て等と研究を両立するための環境整備を支援

将来の進路を考える女子中高生へ



女子中高生の理工系進路選択を支援

科学技術分野で活躍する女性研究者・技術者、大学生等と女子中高生の交流等、女子中高生の理工系進路選択を支援

まとめ



今回、研究者として歩んでこられた3人の女性をご紹介します。
2月のサンエールフェスタ2013では、鹿児島大学と連携してワークショップ「[Museカフェ]～女子大学院生に聞く、鹿大ナウ！～」を開催し、6人の女子大学院生が自分の研究や学生生活について発表しました。水産学部の実習船での研修やナノ粒子の研究などいきいきとして説明する女性たちのこれからの活躍が楽しみです。
研究を続けることには、様々な困難はあるものの、喜びや達成感など得難い魅力があることを感じました。また、少しずつ環境が整ってきています。学生の皆さん、自分らしく活躍する身近なモデルを参考に、「リケジョ」を目指してませんか！



9 広報活動

(1) Newsletter の発行

男女共同参画推進センターでは、本学の教職員や学生に対する男女共同参画に関する様々な取組や育児・介護制度等に係る各種案内等を行うため、平成 23 年 3 月から Newsletter を発行（年 2 回）しており、24 年度末までに 5 号発行した。学内教職員への配付・回覧用、関係国立大学及び自治体、報道機関等への送付用として 4 号（24 年 10 月号）が 2800 部、5 号（25 年 3 月号）が 6900 部である。平成 24 年度においては、「部局等における男女共同参画推進に係る方針等」の策定を受け、新たに各部局の男女共同参画推進の取組を毎号取り上げることとし、工学部と理学部の取組を紹介した。

(2) ホームページ

ホームページでは、男女共同参画推進センターの取組や男女共同参画に係る様々な情報の発信、両立支援制度の概要紹介、各種相談受付のほか、「女性研究者研究活動支援事業」の概要をはじめとする女性研究者支援に係る事業の紹介を行っている。

男女共同参画推進センター主催のイベント等の取組終了後、迅速にトピックを掲載するとともに、その他男女共同参画関連情報や他大学等のシンポジウム・セミナー等についても案内している。

また、平成 24 年度に作成した女性研究者ロールモデル集「輝く女性研究者たちー鹿児島大学ロールモデル集ー」で紹介した女性研究者について、より広く紹介するためにホームページ上にも掲載した。

(3) 男女共同参画推進センターリーフレット

男女共同参画推進センターの各種取組や支援内容を紹介するリーフレットを作成した。これは、教職員や学生等に対して、女性研究者研究活動支援事業をはじめとする各種支援制度や取組を紹介するとともに、男女共同参画に対する意識啓発を推進するものである。また、本リーフレットを教員公募書類に同封あるいはホームページ上に併せて掲載することにより、女性研究者の積極的な応募を促す契機とするものである。

なお、リーフレットは、学内の教職員全員約 2600 人に配布したほか、平成 25 年度入学の学部学生及び大学院学生・新任教職員等にも配布する予定である。

(4) 男女共同参画学協会連絡会第 10 期シンポジウム資料集への活動報告掲載

男女共同参画学協会連絡会第 10 期シンポジウム（平成 24 年 10 月 7 日 開催場所：東京慈恵会医科大学）の資料集において、男女共同参画推進センターの女性研究者支援事業を中心とする活動報告を掲載した。

(5) 「育児・介護支援制度案内」リーフレット

教職員に対する育児や介護等に係る各種制度をより広く周知することを目的として、平成 23 年度に作成した「育児・介護等支援ガイド」のダイジェスト版として、「育児・介護支援の案内」のリーフレットを 5000 部作成し、教職員全員約 2600 人に配布した。

(6) 新聞報道等

男女共同参画推進センターの活動については、これまでも広報センターを通じて、マスコミへのプレスリリース等により積極的に広報している。平成 24 年度にスタートした女性研究者キャリア形成セミナーの第 1 回目では、神戸大学特別顧問の相馬芳枝先生の特別講演会を開催するにあたり、新聞・ラジオで取り上げてもらうなどした。また、「女子中高生のための科学体験塾」では、事前に告知してもらったことで、参加者の確保だけでなく、女子生徒の理工系進路選択支援事業の意義等について広く地域に周知できたことは成果である。また、内閣府男女共同参画情報誌「共同参画」や鹿児島市の男女共同参画情報誌「すてっぷ」等において、男女共同参画推進センターの取組を全国や地域に向けて情報発信することができた。引き続き、様々な取組等について学外へ広報するため、マスコミ等への働きかけをより積極的に行う必要がある。

○新聞等

No	紹介事業	新聞社名等	日付
1	メンター研修 ～コミュニケーション能力向上セミナー～	文教速報	平成 24 年 7 月 27 日
2	オープンキャンパス企画 「muse カフェ」“ガールズ☆Talk”	文教速報	平成 24 年 9 月 10 日
3	第 1 回女性研究者キャリア形成セミナー	毎日新聞 文教ニュース	平成 24 年 9 月 19 日 平成 24 年 10 月 8 日
4	女子中高生のための鹿大科学体験塾	読売新聞 毎日新聞 南日本新聞 文教速報	平成 24 年 10 月 13 日 平成 24 年 10 月 25 日 平成 24 年 11 月 13 日 平成 24 年 12 月 26 日
5	「373 ワイド フォーカス」 水産学部 袁 春紅 准教授	南日本新聞	平成 24 年 11 月 22 日
6	国立大学における男女共同参画の取組 「一人ひとりが伸びやかに自分らしく輝く鹿児島大学を目指して」	内閣府男女共同参画 情報誌「共同参画」	平成 25 年 1 月
7	「輝く女性研究者たち～女性研究者ロールモデル集～」	読売新聞 南日本新聞	平成 25 年 2 月 13 日 平成 25 年 2 月 19 日
8	特集「研究する女性たち」 医歯学総合研究科 田川まさみ 教授 インタビュー/田島男女共同参画推進センター長	鹿児島市男女共同参画 情報誌「すてっぷ」 ※	平成 25 年 3 月

※については、「I-8-他大学・自治体等との連携活動」で誌面紹介

○テレビ・ラジオ

No	紹介事業	局名等	日付
1	オープンキャンパス企画 「muse カフェ」“ガールズ☆Talk”	FM かがしま 「μ's Café un deux trois!」	平成 24 年 8 月 3 日
2	第 1 回女性研究者キャリア形成セミナー	南日本放送ラジオ 鹿児島テレビ	平成 24 年 9 月 5 日 平成 24 年 9 月 24 日
2	女子中高生のための鹿大科学体験塾	JFN 系列全国ネット番 組「JAPAN FLOWERS NETWORK」(14局ネット)	平成 24 年 10 月 29 日

【資料 I -9-(1) a】

(Newsletter4 号-1 面)



鹿児島大学 男女共同参画推進センター

Newsletter

Vol.4
2012.10

編集・発行

国立大学法人鹿児島大学男女共同参画推進センター 〒890-8580 鹿児島市郡元1-21-24
TEL 099-285-3012 E-mail : gender@kuas.kagoshima-u.ac.jp http://atsumi.kuas.kagoshima-u.ac.jp/

▶ 「museカフェ」特集

※「muse」(ムゼ)とは男女共同参画推進センターの愛称の一部。「むぜ」は鹿児島弁で“かわいい”の意。

■ オープンキャンパス企画「museカフェ」“ガールズ★Talk”を開催

約230人の女子高校生が来場、女子大学院生とのトークで盛り上がる!

8月4日、女子高校生や保護者約250人が来場した会場では、18人の女子大学院生が、自ら作成したポスターによる研究活動や学生生活の紹介のほか、進路相談に対応。女子高校生は、学部プログラムとはひと味違った内容と雰囲気の中、女子大学院生から研究の醍醐味や、学生生活の様子を熱心に聞いていました。

参加した生徒からは、「進路選択の参考になった」「様々な研究活動の説明を受けたことで自分の視野が広がった」「研究内容がわかりやすかった」と好評で、女子大学院生からは、「研究を端的に説明するプレゼン力が鍛えられた」「他分野の大学院生との交流を通じて研究活動の刺激になった」といった感想がありました。



企画に学生が参画

本企画に学生の声を反映しようと、女子学生を交えた企画会議を6月7日に開催。今回のイベント名の“ガールズ★Talk”や『シール・ラリー』の導入などの提案を採用したほか、7月11日に開催した当日協力予定の女子大学院生による「museカフェ」では、“女子高校生目線”に立った提案が積極的に出されました。



当日の運営にボランティア学生がフル回転

16人の学生ボランティア(男女共同参画サポーター・ピア・サポーター・手話サークル)が、受付、会場への案内や今回初めて導入した『シール・ラリー』などで精力的に運営に協力してくれました。



大学院理工学研究科 博士前期課程1年
岩井田 早紀 さん

高校生が目を輝かせて私の話を聞いてくれて、大変嬉しく思いました。また、同世代の女子大学院生が研究を頑張っている姿に刺激を受け、私自身も頑張ろうと思いました。



教育学部2年 是枝 菜里奈 さん

今回自分自身の進路についての不安や悩みなども大学院生の方に相談できる貴重な機会でした。私自身も高校の時に来ればよかったなとすらやましく思ったほど素敵な企画ですので、来年もボランティアとして参加し、少しでも力になればと思います。

■ 研究支援員制度利用研究者・研究支援員間「museカフェ」を開催

研究支援員制度の検証と異分野間の研究者及び大学院生等間の交流を図るため、「museカフェ」を開催しました。

女性研究者とその研究支援員、田島真理子男女共同参画推進センター長らが参加して、研究支援活動状況の現状等について意見交換。研究者から「子どもの入院時も研究が滞りなく進められた」「実験がスムーズに進み予定より早く学会発表ができた」との声が聞かれ、研究支援員からは「基礎の実験手法が臨床でも応用できる」「統計処理の手法が研究に役立つ」など支援を通じて自身のスキルアップにつながっている現状が報告されました。

一方で研究者から、大学院生の研究スキルが支援効果を左右すること

や他分野の大学院生等による支援における論文投稿前のデータ流出への懸念などの問題点のほか、本制度の改善提案として、研究支援員の対象を学部学生に拡げること、大学院入学時の研究支援員制度の案内や実態に即した制度設計の必要性などが指摘されました。



〈郡元地区〉

〈桜ヶ丘地区〉

(Newsletter4号-2面)

▶ 女性研究者キャリア形成支援

■ メンター制度スタート

女性研究者や女子大学院生が抱える悩み等について、先輩研究者(メンター)が自身の経験、知識やネットワーク等を活かして助言を行う「メンター制度」を創設しました。「メンター」とは、良き助言者、指導者、親身になって支援してくれる人という意味で、仕事やキャリア形成上の“お手本”や人生のよき相談相手になってくれる人のことです。助言を受ける人を「メンティ」と呼びます。現在「女性研究者研究活動支援事業」の一環として、女性を対象にしています。

📌 メンター12人に委嘱状を交付、メンター制度について意見交換

12人のメンターへの委嘱状交付式を開催しました。式では、委嘱状の交付が行われた後、島 秀典男女共同参画推進室長(理事・総務担当)が、「みなさんの経験を生かして、若手の女性研究者や女子大学院生に対するキャリア継続やキャリア形成支援にご協力いただきたい」と激励の挨拶。引き続き、意見交換会では、メンターの役割の再確認のほか、男女共同参画推進センターとメンター間での活動における情報共有や、メンター・メンティへのヒアリング等による制度の検証、メンター制度の意義の周知徹底などについて意見がありました。

📌 メンター研修「コミュニケーション能力向上セミナー」を開催

7月4日、「コミュニケーション能力向上セミナー～よき相談相手となるために～」をメンター及びその他関心のある教職員・大学院生を対象として開催し、都元と桜ヶ丘の双方のキャンパスで計46人が参加しました。

セミナーでは、講師の(株)インソースの大驛郁子氏がメンターの心構えや、傾聴力・質問力などのメンターに必要な資質等についてグループ・ワークを交えながら解説。大驛氏は、メンティへの支援活動はメンターにとっても成長の場であるとした上で「メンターは自らの経験をもとに“様々な引き出し”を用意し、自らの人生観を語ることでメンティの自立を側面支援してほしい」と述べました。

参加者からは、「メンタリングの基礎がわかった」「自身を振り返る機会となった」「メンターとしてのスタンスを今後のコミュニケーションに活かしたい」といった感想が聞かれました。



■ 第1回女性研究者キャリア形成セミナーを開催

～相馬先生(神戸大学特別顧問)が2011世界化学年女性化学賞受賞までの軌跡を語る～



9月14日、2011世界化学年女性化学賞を受賞された神戸大学特別顧問の相馬芳枝先生を講師として、特別講演会を開催し、教職員、学生及び一般市民約140人が参加しました。

相馬先生は、活性の高い触媒を活かした省エネかつ環境に優しい合成プロセスやCO₂の再資源化に関する研究の紹介を通じて、自身の研究のモットーである“シンプルケミストリー”についてわかりやすく説明。さらに、研究者としての成功の秘訣として、良きロールモデルを見つけること、研究資金獲得や研究者間のネットワークの形成の必要性のほか、女性研究者としてのハードルを乗り越えるために協力者を数多く持つことの重要性について指摘しました。

講演に続いて、相馬先生を囲んでの「museカフェ」を開催し、女性研究者や女子大学院生11人が参加。相馬先生は時折ユーモアを交えながら、女性研究者支援を巡る課題への助言や女性研究者自身の意識改革の必要性を述べた上で、「困難にぶつかっても、自分の研究の意義を見失わず、強い意志をもって“バイオニア”精神でがんばってほしい」とエールを贈りました。



■ スキルアップセミナー「英語論文の書き方セミナー」を開催

6月27日、東京大学等で英語論文の指導に当たっているミリンダ・ハル氏を講師として、カクタス・コミュニケーションズ(株)の協力を得て「英語論文書き方セミナー」を開催し、研究者や大学院生約150人が参加しました。

ハル氏は、英語論文を書く際の心構えやスタイル・フォーマット、構成方法、日本人が犯しやすいクセや誤りについて、クイズなどを交えながらわかりやすく解説。参加者からは、「漠然としていたことが論理的に整理された」「日本語論文の作成にも参考になった」「犯しがちなミスを再認識できた」などの声が聞かれ、これまでの論文執筆に対する考え方を見直す有意義な機会となりました。



*当日参加できなかった方のために部局等に貸出用DVDを配布しております。詳細は総務担当係におたずねください。

(Newsletter4 号-3 面)

▶ 部局等における男女共同参画推進に係るロードマップ策定・女性研究者支援体制の整備充実

■ 部局等における男女共同参画推進に係る目標・行動計画を策定

平成23年3月に策定した全学の「男女共同参画推進に係る長期(10年)及び短期(3年)行動計画」の着実かつ計画的な推進を図るため、14部局・13学内共同利用施設等が「男女共同参画推進に係る方針等」(「部局等方針」)を策定しました。「部局等方針」は、男女共同参画推進体制の整備、女性研究者増に向けた具体策(在職・採用比率増に係る目標・取組、女性研究者支援及び次世代女性研究者の育成等)、就業環境等の整備、意識啓発の推進、その他の取組について各部局等が目標・計画を掲げています。部局等は、今後「部局等方針」について、大学運営評価システムにおいて進捗管理をしていくことになります。

■ 男女共同参画推進体制の整備充実

平成24年度から、女性研究者支援や次世代女性研究者育成に係る様々な企画立案・実施を行う中核的組織として新たに男女共同参画推進センターに「女性研究者支援事業本部」を置き、そのコアとなるコーディネータを配置しました。



男女共同参画推進センター
コーディネータ
山口 眞理

人は、それぞれに幸せを求めて生きています。多くの先生方が、研究に向き合う姿からそれを強く思います。研究の世界には性別は関係ないということも分かりました。ライフイベント期の女性研究者に対応し、女性研究者が増えるための環境や制度を整えることで、より多様性のある職場の実現に向け、当センターの事業を推進しています。

「自分を大切にすることが、周りへの思いやりのある言動につながる」「人は人が支える」という信念の下、当センターのシンボルマークである若葉に、本学の教職員や学生の方々の、男女共同参画の意識という栄養分や水を注いでいただきながら、「一人ひとりが伸びやかに、自分らしく輝く花を咲かせる」ためのお手伝いが少しでもできたらと思います。「つぶやきたい」「相談したい」時にはご連絡ください。スタッフ一同お待ちしております。一緒に考え、前に進んでいきましょう。

《 工学部における男女共同参画推進の取組 》 《 女性教員ゼロの解消を目指した取組 》



工学部副学部長
内山 博之

理工学研究科工学系には、現在117人の教員が在籍していますが、平成19年来5年間女性教員ゼロの状態が続いています。

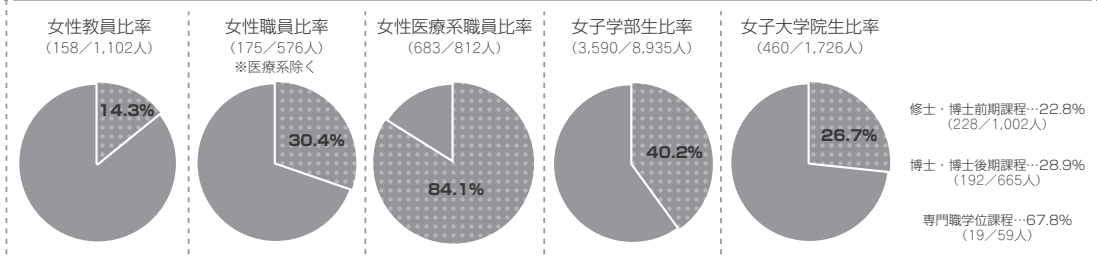
この女性教員ゼロの状態の大きな原因として、元来国内の工学系の女性研究者や大学教員が非常に少ないということがあります。例えば、私の所属する電子情報通信学会の平成17年時点の一般会員の女性比率はわずか2.2%に過ぎません。私たち自身もこの極端な男女比は決して好ましいとは思っていません。工学といっても様々な分野があり、女性の優れた感性が活かされる領域が数多くあります。たくさんの方々が工学部に入學し、その中から多くの研究者や大学教員が輩出されることを目指して努力するべきです。しかし興味分野などの性差を考えると、工学系の女性研究者が今後飛躍的に増加するとは思えません。

さて女性教員ゼロの状態の解消を目指した理工学研究科工学系の取組を紹介します。第一に、女性に限定した教員選考というポジティブ・アクションです。住吉工学部長のリーダーシップの下、助教ポストに一つの女性限定枠を設け、全学科の研究分野を対象に今年7月から公募を開始しました。10月から選考に入り、来年4月の着任を目指して年内に決定する予定です。また、職階によらず女性教員を採用すると、学科毎の採用枠を計算する際に女性教員一人につき0.3人分の枠を付与するという優遇策も合わせて実施し、各学科の積極的な女性採用を促します。さらに、英語教育を行う特任の女性教員採用も計画しており、これらの取組により5年ぶりに女性教員ゼロ状態の解消が確実となり、近い将来複数名の女性教員が同時に在籍することも期待できるようになりました。

また、福井研究科長の方針で女性研究者の裾野拡大策の一環として、技術者教育の重要なサポート役である6人(25人中)の女性技術職員の研究職へのキャリア・アップを支援しており、早速10月に博士前期課程修了者の3人が本学理工学研究科博士後期課程へ社会人入学します。

本学工学系の女性教員が急速に増え続けることを期待することは残念ながらできませんが、少数であっても女性教員が男性教員と共に活き活きと活躍できる職場となるように願っています。

鹿大の男女共同参画の現状 (平成24年5月1日現在)



(Newsletter4 号-4 面)

鹿大の女性研究者に Close-up!

鹿児島大学で研究している女性研究者を紹介します。



郡山 千早 准教授 (医歯学総合研究科)

Profile

1991年3月 鹿児島大学医学部卒業
1991年5月 医師免許取得
1995年3月 鹿児島大学大学院医学研究科博士課程修了、博士(医学)学位取得
1995年4月 鹿児島大学医学部公衆衛生学講座助手
1996年5月 同 講師に昇任
2002年6月 同 助教授に昇任
(2003.4~ 大学院医歯学総合研究科助教授 2007.4~同准教授)

もが小さいときは無我夢中でしたが、無理しすぎないことも大事ですね。現在「研究支援員制度」を利用して、血中不飽和脂肪酸測定前の血液試料の調整とデータ整理を研究支援員に手伝ってもらっています。おかげで、私自身はデータ解析等に集中して取り組むことができ、それまで停滞気味だった研究の進展が図られ、助かっています。

○研究者を目指そうとする方へのメッセージ

自分の能力を生かす道として研究者という職も是非、選択肢に入れてほしいですね。期待どおりの答えが出ないことも多いのですが、自らの仮説に基づいてそれを実証できたときの達成感というのは、何事にも代えがたいものがあります。それから、視野を広く持って、一度は国外で学ぶ機会を求めてもいいですね。今振り返ってみると、私のロール・モデルは留学時代に指導して頂いた女性研究者でした。

とにかく様々なことに関心を持ち、好きなことの中に自分なりに意義を見いだし、自ら「楽しみ」ながら挑戦してみてください。



研究支援員による血中不飽和脂肪酸測定用試料の調整作業

○がん発症の因果関係を疫学的に追究

主専門はがん疫学で、発がんリスクに関わる環境要因(食生活、喫煙・飲酒状況等)やウイルス側の要因および発がんのメカニズムの研究です。Epstein-Barrウイルスやヒトパピローマウイルス関連がんの分子疫学的研究を行ってきました。また最近では、日本でも増加傾向にある乳がんの疫学的研究を行っており、現在、血液中の不飽和脂肪酸レベルと乳がん発症リスクとの関連を中心に検討を進めています。

○予防医学研究を目指すきっかけは指導教員のアドバイス

医学部では、学部生の頃に自習研究で配属された研究室(ウイルス学)で、研究の真似ごとをスタートしたわけですが、先生や先輩と様々な議論の中で自ら仮説を立て課題を解決するという研究の醍醐味を知りました。その当時の指導教授の「これからは予防医学が重要となる」という言葉が卒業後の道標となりました。

○病気を予防する研究に関わる責任

病気とある要因との因果関係を解明するには、定量的・客観的なエビデンスを積み上げることが必要で、疫学研究者の役割もその点につきます。しかしながら、病気の予防を目指す場合、自分たちの出した結果が、即病気の予防に役立つとは限らないし、治療効果のように目に見える成果を短期間で得られないところが悩ましい。ただ様々な研究スタイルの中から自ら選び、それにより新たな知見を導き出すことにやりがいを感じています。

○家族や周囲に支えられての育児と研究の両立

これまで育児と研究を両立してこられたのは、家族や周囲の皆さんの理解と協力があったことだと思っています。特に子ど

Information

《これからの予定》

▶ 11月	「女子中高生のための鹿大科学体験～理系女子(リケジョ)ってかっこいい～」(水産学部11/11、理学部11/17、共同獣医学部11/17、工学部11/18、農学部11/24)
▶ 11月 9日	出前授業(志学館高等部1年生対象)
▶ 12月 3日～21日	中央図書館企画「男女共同参画に係る図書紹介・貸出サービス」及び男女共同参画推進センターポスター展(仮称)
▶ 12月 6日	第2回 女性研究者キャリア形成セミナー(桜ヶ丘キャンパス)
▶ 12月 15日	第4回 九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム(大分)
▶ 2月	平成25年度第1期研究支援員制度利用者募集開始



《お知らせ》

●メンター制度のご案内&メンター募集

制度を利用したい又は利用を考えている方は、お気軽に男女共同参画推進センターへご連絡ください。また、メンターになっていただく教員(男性の教員のほうが歓迎)の方を随時募集していますので、男女共同参画推進センターへご連絡ください。

●《女性研究者ロール・モデル誌》発刊します!

学内及び卒業生の女性研究者16人のそれぞれのキャリアや研究活動のほか、パーソナリティを紹介するロール・モデル誌を12月発行予定です。

●大学入試センター試験時学内託児サービスを実施します。

平成25年1月19日と20日の実施を予定しています。おって利用希望照会をします。

●ベビーシッター費用割引券発行事業のご案内

教職員の皆様が就労のためにベビーシッターによる在宅保育を利用される際の料金の一部を補助する事業を行っています。詳細はホームページをご覧ください。

編集後記

「女性研究者研究活動支援事業」も折り返しを迎えました。部局等における目標・計画も策定され、全学的に推進していく基礎が整ったところです。今後事業終了後を見据え取組を加速していかなければなりませんので、皆様の一層のご理解ご協力をよろしく申し上げます。

【資料 I -9-(1)b】
(Newsletter5 号-1 面)



鹿児島大学 男女共同参画推進センター

Newsletter

Vol.5
2013.3

編集・発行

国立大学法人鹿児島大学男女共同参画推進センター 〒890-8580 鹿児島市市元1-21-24
TEL 099-285-3012 E-mail : gender@kuas.kagoshima-u.ac.jp http://atsumi.kuas.kagoshima-u.ac.jp/

■ 女子中高生のための鹿大科学体験塾～理系女子(リケジョ)ってカッコイイ!～を開催

～85人の女子中高生が実験や女子学生との交流を体験～

11月に理工系5学部による「女子中高生のための鹿大科学体験塾」を開催し、10コース(各学部2コース)に女子中高生計85人(中学生47人、高校生38人)が参加しました。理工系に進む女子が少ない現状を踏まえ、女子中高生を対象に、理工系学部が実験等を通じた科学の体験機会やロールモデルとなる女子大学院生との交流機会を提供することで、理工系への関心を持ってもらう契機とすることを目的としたものです。

理学部 おいでよ!理学部へ! ～楽しい理科体験実験への招待～

体の中で働いている酵素の動きを観察したり、金や銀のナノ粒子を作って、光の手法によりミクロの世界を体験しました。



酵素の動きを見てみよう



光で探るミクロの世界

工学部 工学女子になってみる!

女性建築家から建築の魅力の話や、生活空間を設計したり、洋服のコーディネートを通じて目の錯視がファッションなどにどう応用されているかを体験しました。



女性建築家に関く建築の魅力&身近な生活空間をデザインしよう



目の不思議を体験してみよう

農学部 農ガールになろう! ～食料生産を支えるミクロの世界～

家畜の体外受精の実験で受精の瞬間を確認したり、様々な土壌微生物を顕微鏡で観察しました。



生命誕生の神秘



農地にいる小さな生き物たち

水産学部 海のプロフェッショナルになろう!

顕微鏡を用いて水温や餌などの環境によって異なる様々なプランクトンを観察したり、プリを用いて鮮度や食感を左右するタンパク質を取り出す実験を行いました。



海の中のマイクロワールドを体験しよう



刺身の鮮度を色で科学する

共同獣医学部 動物おもしろ発見!

モグラの生態観察・標本作りを通じて野生動物が生息する環境を考えたり、ウマ・ウシの観察や飼育・診療を体験しました。



モグラの地中生活



産業動物ってどんな動物?

女子中高生からは、「今回の体験を通じてさらに興味が深まった」「今まで学んだことのないことに挑戦できて刺激になった」などの声が聞かれ、各学部での実験や女子大学院生との交流等を通じて科学の世界への関心を深め、学生生活や卒業後の進路情報を得るなどして、進路選択を考える有意義な機会となったようです。



学生や教員との交流会

(Newsletter5号-2面)

■ [museカフェ]を開催

📌 農学部 渡部准教授が女子学生にロールモデル講話

11月13日、女子学生を対象とした「museカフェ」で、農学部の渡部由香先生によるロールモデル講話と交歓会を開催し、女子学生15人が参加しました。渡部先生は、キャリアを続ける上での秘訣として「完璧主義者にならない」「他人に頼ることをためらわないこと」と助言しました。また、研究者を目指している学生からの「研究者には、性別で向き不向きがあるか?」の質問には、「性別に関係なく、自分が研究が好きなのか、その分野や対象物が好きなのか、考えることが大事」と応えるなど、今回の交流は、学生にとって今年度スタートしたメンター制度のメンター登録者でもある渡部先生との集団メンタリングにもなったようです。



📌 女性研究者間ランチミーティングを開催

11月28日、「museカフェ」(郡元地区女性研究者間ランチミーティング)を開催し、女性研究者と理工学研究科の技術職員10人が参加しました。

参加者の自己紹介に続き、女性研究者の生き方についてフリートークしました。「女性研究者が少ない分野では、性別を意識することはなかった。研究に性別は関係ない」「自分の立ち位置を考え、グローバルな視野を持つべき」「積極的に外部資金獲得に向けた申請をしたほうがいい」など女性研究者自身の意識の持ち方が大事との意見が多く出され、博士後期課程に在学中の女性技術職員には女性研究者ロールモデルの生の声を聞く有意義な機会となりました。



■ 第2回女性研究者キャリア形成セミナーを開催



12月6日、長崎大学男女共同参画推進センター長の大井久美子先生を講師として、女性研究者キャリア形成セミナーを開催し、研究者、看護師や学生等35人が参加しました。

大井先生は、歯科麻酔医師になるまでの経緯、長崎大学での研究活動や副院長、副学長としてのキャリアにおいて看護師等の支援が支えになったことや、その過程で困難にぶつかりながらも副学長として、女性研究者支援をはじめとする男女共同参画を精力的に推進してこられた経験を披露しました。

また、女性医師の復帰支援プログラムの整備充実や育児期の女性医師に対する勤務のシフトチェンジなどの配慮が男女ともによりよい就業環境の創出につながることや、女性であることのメリットを活かして自然体でいることの重要性について指摘しました。参加者は、大井先生のユーマアを交えながらの経験に裏打ちされた話に熱心に聞き入っていました。



■ 附属図書館・男女共同参画推進センター連携企画「知ってますか? 男女共同参画」を開催

附属図書館と男女共同参画推進センターは12月3日から21日にかけて、附属図書館1階ギャラリーアトリウムにおいて、(独)日本女性教育会館の図書パッケージ貸出サービスによる男女共同参画関連図書200冊の貸出と男女共同参画推進センターの活動を紹介するポスター展を実施しました。貸出サービスは、後期開講の共通教育科目「男女共同参画とキャリアデザイン」受講学生の参考文献にもなったほか、27枚のパネルを用いて男女共同参画推進センターの取組や、オープンキャンパス時に女子大学院生により女子高校生に向けて紹介された研究活動のポスターなどが展示されました。



■ 鹿児島市「サンエールフェスタ」に参画

2月3日、鹿児島市の男女共同参画のイベントである「サンエールフェスタ」において、ワークショップ事業に参画しました。会場となった鹿児島市サンエールの交流サロンで、女子大学院生6人の協力による「museカフェ」～女子大学院生に聞く、鹿大ナウ!～を実施。6人の女子大学院生が、来場者に対して、ポスターを使って、研究対象物や研究の意義など研究活動内容について紹介したり、カフェをしながら、学生生活などについて話題提供したりして、市民と交流しました。参加者からは、「研究の多様さや着眼点に驚いた」といった声が聞かれました。



(Newsletter5号-3面)

理学部における男女共同参画推進の取組 《女性研究者の裾野拡大に向けたロールモデル講話の開催》



理工学研究科
横川 由起子 講師
(男女共同参画推進委員会委員)

理学部では、9月に策定しました「部局等における男女共同参画推進に係る方針等」(部局等方針)において、女性研究者の研究環境の整備や女子学生のキャリア形成支援などを掲げ、理学部男女共同参画推進委員会において定期的に協議しています。部局等方針の取組の一環として、理学部化学科の卒業生で、(株)TRLテクノの代表取締役社長 長野悦子氏を講師にお招きして、昨年12月に第1回ロールモデル講話を開催しました。教員8人・学生29人の計37人が聴講しました。

講話では、女性が結婚・出産とともに退職し家庭に入るという風潮が一般的であった時代に、上司の理解や家族、両親、保育園仲間の協力が不可欠であったことや、一時期がんばっても会社での評価が低くネガティブ思考に陥った時に、仕事・家庭・育児を総合的にとらえることでプラス志向に変わったことなど、育児をしながら仕事を継続されてきた長野氏の豊富な経験談を聞くことができました。女性が育児をしながら働き続けることの難しかった時代に、パイオニアとして仕事と生活の両立、さらに社長までキャリア・アップされてきたという経験に裏打ちされた話は、学生にとって説得力のあるものでした。

また、今回のロールモデル講話は、これから社会に出ていく女子学生だけでなく、男子学生に対する男女共同参画への意識醸成に大きく寄与したと思います。

大学での女性の理系教員はまだ少ない中で、理学部においても女性研究者の増を図ることを目標にしています。現在女性教員は3人ですが、大学院も女子学生が増えてきていますし、今回のロールモデル講話をはじめ、取組を積極的に推進していくことで、女性教員の増加や研究職志望の女子学生の増加につなげていければと考えています。



ロールモデル講話する長野(株)TRLテクノ社長

理工学研究科(工学系)で女性教員着任へ

平成20年度から女性教員が不在だった理工学研究科(工学系)に平成25年4月女性教員(助教)が着任します。理工学研究科(工学系)がポジティブ・アクションとして助教ポストに一つの女性限定枠を設けて全学科の研究分野を対象として公募し、10人の応募者の中から選考されました。この女性教員が4月の着任後直ちに研究を立ち上げられるように、平成24年度の工学部長裁量経費と所属予定専攻の予算を用いて、スタートアップ支援を行っています。

女性医師等支援センターを設置

医学部・歯学部附属病院では、女性医師や看護師等の臨床現場着や復帰支援、子育てとキャリアアップの両立を目指した女性医師や看護師等を育成する拠点として、女性医師等支援センターを平成25年1月に設置しました。今後、勤務環境の改善、復帰トレーニング支援、さくらっ子保育園と連携した子育て支援やその他ワークライフバランス支援等を展開していく予定です。

出前授業「研究者への道」を開催

11月9日、水産学部の久賀みず助教が鹿児島市の志学館高等学校において出前授業を行いました。久賀先生は、「『食』への情熱」という演題で、1年生118人(女子69人、男子49人)に対して、自身の研究テーマの水産流通学の観点から、豊かな食生活の維持と日本の水産業の保全に係る行動の意義等について説明した後、海外留学や民間企業等での経験談や今に至るまでのキャリアについて披露し、「『成し遂げたい何かを見つけること』で、人は自然に努力でき道が拓け、自己実現できる」と力強く語りました。

生徒からは、「職業ではなく、まず成し遂げる何かを見つけたい」「働く女性の姿を見ることができてよかった」「研究者とはどんなものかわかった」などの声があり、生徒のライフプランニングの一助となったことが伺えました。



学生サークル「さんサポ」(男女共同参画サポーター)

さんサポは、教育学部の学生が共通教育科目「男女共同参画とキャリアデザイン」の受講をきっかけに男女ともに活躍できる暮らしやすい社会づくりに貢献したいとの思いから、ボランティア・サークルとして平成23年8月に結成したものです。これまでに、入試時の保育支援やオープンキャンパス「museカフェ」など、男女共同参画推進センターの様々な企画運営に参加しています。

社会的には仕事と家庭が両立できる制度は整備されてきてはいるものの、まだ十分に活用されているとはいえ、大学内でも男性の育児休業の取得率や女性研究者の数は少ないのが現状のようです。私たちは、活動を通して得られた経験を糧に、卒業後、男女共同参画社会の実現に向けた役割を果たしていきたいと思っています。



「お父さんと作るクリスマスケーキ」での様子

(Newsletter5号-4面)

鹿大の女性研究者に
Close-up!
鹿児島大学で研究している女性研究者を
紹介します。



清水 香 講師 (教育学部 美術科)

Profile
 2000年 3月 倉敷芸術科学大学芸術学部 卒業
 2002年 3月 信楽窯業技術試験場 素地焼成科・釉薬科 修了
 陶芸家 森正氏に師事
 2010年 3月 金沢美術工芸大学大学院博士後期課程修了 博士号(芸術)取得
 2010年10月 教育学部講師
 2013年 4月 同 准教授(予定)
 ▶主な受賞… 国際陶磁器展美濃陶芸部門 銀賞、セラミックアートFujii国際ビエンナーレ 奨励賞、
 長野県美術展 八十二文化財団賞、キリンアートコンクール 特別賞 ほかに入選多数

— 土の素材を活かし、土との“対話”の中で表現
 陶芸には様々な技法がありますが、私は土そのものの美を探求しながら、自分の観念を土に投影して表現することを研究課題としています。この研究に至ったきっかけは、ろくろで制作中、手についた余分な泥を桶の縁でこそぎ落としたときに、そこにできた小さな土の造形美でした。残るのか捨てられるのか生と死の瀬戸際である小さな土の塊に、はかない美しさや強いエネルギーを感じました。それこそが、長年私の中で蠢いていて表に出したかった「何か」だったのです。そこから、現在の制作へとつながっています。

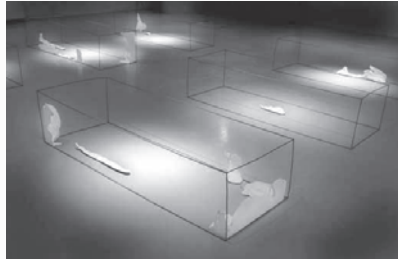
写真に収めています。これらがいつか制作で必要になったときに、自然と引き出しから出てくるのです。



— 制作する自分の存在理由を突き詰める
 大学院の時、内面的なものを表現したい欲求がありつつも、その技法を見い出せず試行錯誤の日々でした。あるとき、制作した作品を人の真似だと酷評され、挫折を味わいました。そこで自分とは何か、なぜつくるのか、自分の人生を見つめ直していく過程で、自分には死へのトラウマがあることに気づいたのです。自分の心の内を土によってさらけ出すことで、死への恐怖から「生」を伝えるべく作品を生み出すことができました。生と死を同一の場面に表すことで生の確かさを初めて明確にできたのは、まさにこのときでした。

— これから社会に出て行く若者、研究者を目指すとうする方へのメッセージ
 何をやりたいのかわからないと悩んでいるよりも、できるだけいろいろなものに興味をもって、とにかくすべてやってみる。自分の「引き出し」が多いほど、本当に自分の好きなことを見つけるときに役立つし、人生の幅を拡げてくれます。

— 制作に必要な「引き出し」を増やすために…
 私にとって陶芸は、生きることそのものですのでオンとオフをあまり明確に切り替えてはいないです。例えば、旅行が好きですが、五感を使ってそれぞれの土地の自然、食、人、建物、においや風など、すべてのものを体感し体に記憶させています。また、制作の素材として気になった物のラインや様々な物の質感など、必



<生08-1>
 2008年 / 第8回国際陶磁器展美濃陶芸部門 銀賞受賞作品シリーズ
 実物大の棺を模した針金の枠の中に、土の流動性を活かして生の象徴とした白い磁土を配置することで、隣り合わせにある生と死を表現

Q-wea情報 Q-wea九州・沖縄アイランド 女性研究者支援ネットワーク

● 第4回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウムを大分で開催

九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワーク(Q-wea)は、12月15日に女性研究者支援シンポジウムを開催しました。本学からは鳥 秀典理事・男女共同参画推進室長がパネリストとして登壇。女性研究者研究活動支援事業終了後の体制や予算など、持続的な女性研究者支援のあり方をめぐって、パネルディスカッションがありました。



男女共同参画推進センター短信

*お父さんと子どもがクッキー作りに挑戦

12月22日、教職員のお父さんと子どもの交流を深める企画として「お父さんと作るクリスマスケーキ」を試行的に実施し、教職員3組の親子がクリスマスケーキ作りを楽しみました。ラウンドケーキに生クリームを塗ったり、作ったクッキーやフルーツで飾り付けをしたりして父子で楽しい時間を過ごしました。



*大学入試センター試験時保育支援を実施

大学入試センター試験時に試験監督等に従事する乳幼児や学童を持つ教職員に対する保育支援を1月19日・20日に実施しました。今回、鹿児島市内の保育施設と桜ヶ丘地区のさくらっ子保育園での一時保育支援に変更し、教職員3人が利用。利用者からは「日曜日は利用可能な施設が少ないので助かった」「安心して入試業務に従事できた」と好評でした。



Information

「輝く女性研究者たち -鹿児島大学ロールモデル集-」

▶16人の女性研究者(卒業生2人を含む)の研究活動をはじめ、これまでのキャリア形成の軌跡を紹介したロールモデル集を刊行しました。(男女共同参画推進センターホームページにも掲載予定)



「育児・介護支援制度案内」

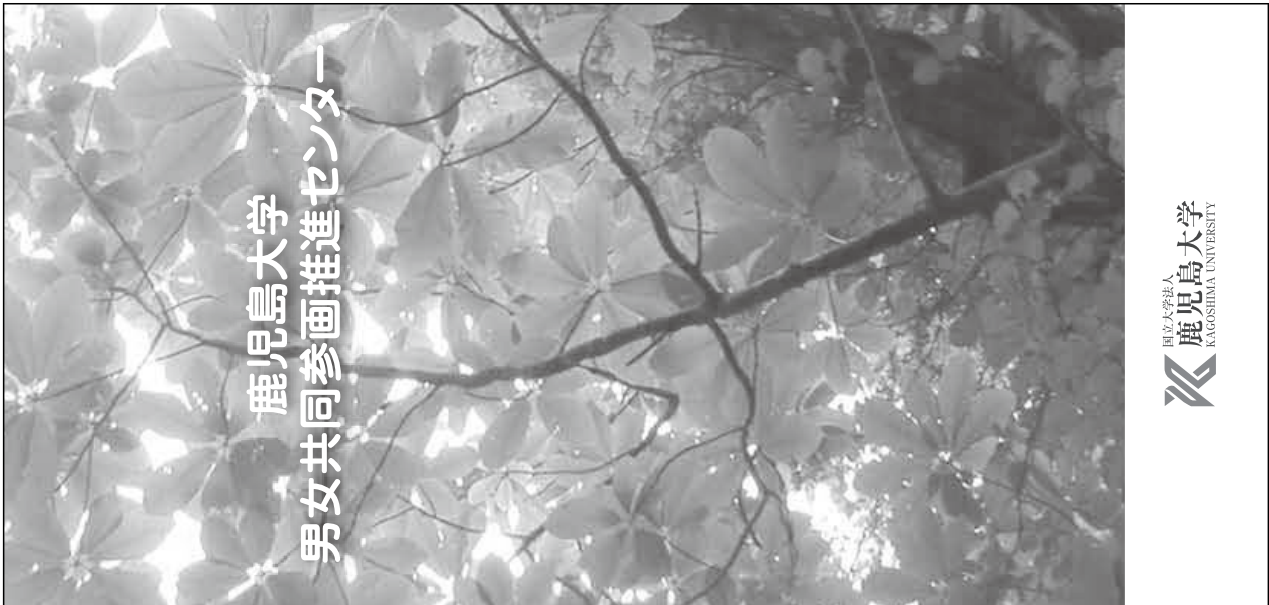
▶平成24年3月に刊行した「育児・介護支援ガイド」のダイジェスト版を作成し、教職員のみならずに配布する予定です。

編集後記

平成24年度、女性研究者支援体制の整備充実や「部局等における男女共同参画推進に係る方針等」の策定など、本学の男女共同参画を推進していく新たな基盤ができました。今後センターと部局が一体となった取組が広がっていくことが期待されます。

【資料 I-9-(3)】

(男女共同参画推進センターリーフレット)



男女共同参画推進センターへのアクセス



JR鹿児島中央駅南口バスのゆいぽう(東15)から市営バス(10号車:鶴池港)、「10号車:冷水」又は「10号車:鶴池港」を利用し、「鹿大正門前」下車、徒歩1分。



鹿児島大学男女共同参画推進センター

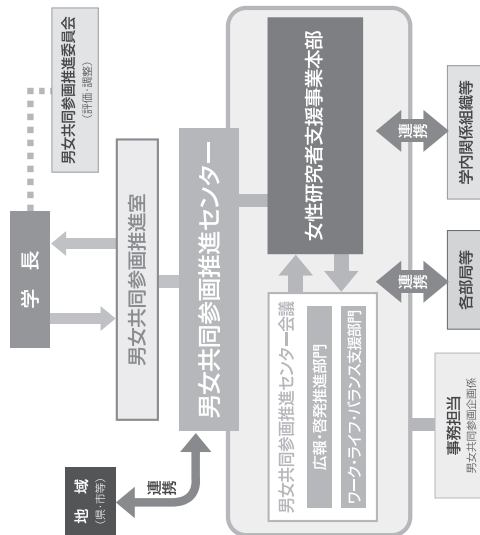
〒890-8580 鹿児島市郡元1丁目21番24号
TEL (099) 285-3012 FAX (099) 285-7062
E-Mail : gender@kuas.kagoshima-u.ac.jp
HP : http://atsumime.kuas.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学男女共同参画推進センター 検索

男女共同参画推進センターの取組

鹿児島大学では、一人ひとりが伸びやかに、自分らしく輝くために、男女共同参画を推進しています。
平成28年8月に策定した「男女共同参画推進に係る長期(10年)及び短期(3年)行動計画」を計画的に推進し、男女共同参画推進に係る広報・意識啓発活動、教職員のワーク・ライフ・バランス支援、女性研究者支援、次世代育成支援等を行っています。
また、平成28年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者活動支援事業」に採択され、女性研究者層に向けた具体的な取組を行っています。
平成24年9月には、「部局等における男女共同参画推進に係る方針等」が策定されました。

鹿児島大学男女共同参画推進体制



(男女共同参画推進センターリーフレット)

一人ひとりが伸びやかに 自分らしく輝くために

男女共同参画推進に係る広報・意識啓発

- Newsletterの発行(年2回)
- ホームページによる各種案内活動紹介
- 共通教育科目
- 「男女共同参画とキャリアデザイン」
- 「男女共同参画トップセミナー・シンポジウム」の開催
- 自治体・関係機関との連携・協力



ホームページ

教職員のワーク・ライフ・バランス

- 大学入試センター試験時保育支援
- ベビーシッター費用割引券発行事業
- 「育児・介護等支援ガイド」の発行



くるみマーク

次世代育成支援対策法に基づく認定事業主(平成22年)に認定

各種相談

本学の教職員・研究員・学生の皆さんを対象として、各種相談を受け付けています。

学内保育所

さくらっ子保育園(桜ヶ丘キャンパス)

利用対象者: 本学職員の子どもで、0歳児(生後8週間以上)から小学校。就学の始期に達するまでの乳幼児。一時保育・事後児保育にも対応しています。

あおぞら保育園(郡元キャンパス)

利用対象者: 本学職員の子どもの乳児(生後8週間以上)から3歳になる年の3月までの乳幼児。



女性研究者支援

平成23年度～25年度 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究支援事業」

研究支援員制度

妊娠、出産、育児や介護等による研究活動への影響を最小限にすることで、女性研究者のキャリア形成及びキャリア継続の支援を図るために、大学院生等の研究支援員を配置しています。研究支援員にとっては、支援する研究者がロールモデルとなり、研究者へのキャリアパス支援にもなっています。また、研究者と研究支援員との交流会を開催し、利用者との声を踏まえつつ、本制度の周知徹底及び整備充実を図っています。



キャリア形成支援

- 女性研究者キャリア形成セミナー「museカフェ」(女性研究者・女子大学院生間等の多様な交流会)
- スキルアップセミナー
- ロールモデル誌発行



若手研究者及び女性研究者に対する研究助成金(学長裁量経費による研究支援)

1年間に学術論文・著書に筆頭著者または共著者として発表した研究業績数に応じて研究助成を行っています。

メンター制度

女性研究者や女子大学院生が抱えるキャリア形成上の悩みに、経験豊かな先輩研究者(メンター)から助言を受けることができます。また、メンター制度をより機能的に運用するため、メンターの心得、メンタリング手法等に関するメンター研修を開催しています。



九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワーク(Q-wea)

九州・沖縄地区の10大学がシンポジウムや学習会等情報交換を行っています。



女子中高生進路選択支援

- オープンキャンパス企画「museカフェ」
女子高校生向け女子大学院生による研究紹介及び進路相談
- 出前授業の実施
「自分のライフプランニング」「研究者への道」の2科目を提供
- 「女子中高生のための鹿大科学体験塾～理系女子(リケジョ)ってカッコイイ!～」



muse(むぜ):ギリシヤ神話「ムーサ」の英語名と鹿児島弁むぜか・むじょか(かわいい)をもじった表現。

【資料 I-9-(4)】

(男女共同参画学協会連絡会第 10 期シンポジウム資料集掲載原稿)

輝け！鹿大の女性研究者

鹿児島大学男女共同参画推進センター(鹿児島市郡元1丁目21番24号)

Shine! Woman Researchers of Kagoshima University!*Center for Promotion of Gender Equality, Kagoshima University
(1-21-24, Korimoto Kagoshima 890-8580, Japan)*

At the Center for Promotion of Gender Equality, we are engaged in activities for the promotion of awareness of and public broadcasting about gender equality, the preparation and enrichment of educational, research, and working environments which take into consideration the need for a balance between work and life of an educator, education which supports the formation of a career for students, as well as a project to support the choice of life path for middle and high school students; all based upon “The Short Term (3 year) and Long Term (10 year) Action Plans for the Promotion of Gender Equality” at Kagoshima University which were adopted in March of 2011.

Additionally, in the fiscal year of 2011, our activities was adopted as “Supporting Positive Activities for Female Researchers”, Grants-in-Aid for Developing Human Resource in Science and Technology of The MEXT, and the Center is developing an initiative of meetings and seminars, the operation of the mentor system and the system for research assistants, with an eye toward aggressively increasing the employment of female researchers and expanding the range of activities of the next generation of female researchers.

女性研究者支援・次世代研究者育成支援等**【研究支援員制度】**

ライフイベント期にある女性研究者への研究活動支援を行っている。大学院生や大学院課程修了者を研究支援員として配置し、育児や介護期でも、研究活動を中断することなく続けることができる。

**【メンター制度】**

女性研究者や女子大学院生が抱える諸問題について、経験豊かな先輩研究者(メンター)からの助言を受けることができる制度を4月に運用開始した。7月にはメンター研修を開催した。

【muse(むぜ)カフェ】

女性研究者や・女子大学院生だけでなく男性研究者も交えての交流会を随時開催し、異分野間の交流推進やロール・モデル情報の提供の場としている。



※muse(むぜ)はギリシャ神話の女神の英語名と鹿児島弁「むぜ(かわいい)」を掛けた表現

【女性研究者キャリア形成セミナー】

平成 24 年度の第 1 回目は、講師である相馬芳枝先生(神戸大学特別顧問)から、研究紹介や研究者としての心得、具体的な取組、女性研究者としての生き方など、男女に関わらず自分の生き方を問い、多様な視点を持てる講話をいただく予定。

【女子中高生の理系進路選択支援事業】**オープンキャンパス企画「ガールズ☆Talk」**

カフェスタイルで、女子大学院生が、研究発表、学生生活紹介および女子高校生の進路相談等に応じた。

女子中高校生のための鹿大科学体験塾

～理系女子(リケジョ)ってかっこいい～

理系 5 部局(10 コース)による科学体験教室を 11 月に実施する。

広報・意識啓発

- ・『男女共同参画キャラバン』を実施
各部長との意見交換を行った。
- ・ロール・モデル誌の刊行(12 月予定)
- ・Newsletter やホームページによる広報
- ・出前授業の実施や共通教育科目の開講

保育支援等

ベビーシッター費用割引発行事業や入試時学内一時託児サービスの実施を行っている。



本学の女性研究者比率は 15.0%(2012.5.1 現在)と、行動計画に掲げている目標に向かって伸びてきており、更に、女性研究者のニーズの掘りおこしと、次世代女性研究者の裾野拡大や、環境整備・意識啓発に努めているところである。



一人ひとりが伸びやかに、自分らしく輝くために

【資料 I -9-(5)】

(育児・介護支援制度等の案内リーフレット)



育児支援制度(妊娠・出産・育児期)

種 別	組 要	取得可能期間	所定労働時間		育児休業期間	
			常勤労働時間	非常勤労働時間	育児休業期間	育児休業期間
①妊娠中の過勤緩和	妊娠中の職員が通勤に利用する交通機関の混雑の程度が母体又は胎児の健康保持に影響があるため勤務しないことを承認する制度	勤務時間の定め又は終わりにおいて1日を通じて1時間を超えない範囲内	○	○	○	○
②妊娠中の保健指導・健康診査	妊娠中のある職員が保健指導・健康診査のため勤務しないことを承認する制度	妊娠中及び産後1年を経過しない期間	○	○	○	○
③妊娠中の休息・療養の必要の時間	妊娠中の職員が休息又は療養のため勤務しないことを承認する制度	所定の勤務時間の始前から連続する時間又は終わるまで連続する時間	○	○	○	○
④妊娠中の業務軽減等	妊娠中である職員が業務を軽減し、又は軽々な業務に就かせることを認める制度(該当なし)	-	○	○	○	○
⑤産前休業	6週間以内(多胎妊娠の場合は14週間以内)に出生予定の女性職員が申し出た期間(産前休業)を認めること	分娩予定日から起算して6週間(多胎妊娠の場合は14週間)以内で、出生の日までに申し出た期間	○	○	○	○
⑥産後休業	出生した女性職員の休暇	出生日の翌日から6週間(産後を調整経理し、就業希望するまで医師が支障ないとした期間を控く)	○	○	○	○
⑦配偶者出産に伴う入居の付添等休業	妻が出産する場合、付添のために男性職員に与えられる休暇	入院等の日から産後2週間を経過する日までのうち2日の範囲内	※	○	○	○
⑧夫の育児参加休業	職員の妻の産前産後休業期間中に当該出産に係る子どもが小学校就学の始期に達するまでの子を養育する場合の休業	出生予定日から6週間前(多胎妊娠は14週間)産後9週間の期間において5日の範囲内	※	○	○	○
⑨育児休業	3歳(非常勤職員は1歳)に満たない子を養育する場合、休業することができる制度(期間を定めて雇用される職員は、引当き雇用された期間が1年以上あり、子が1歳に達する年齢を超えて引き続き雇用されることが見込まれること)	子が3歳(非常勤職員は原則1歳)に達するまで	※	○	○	○
⑩育児部分休業	子が小学校就学の始期に達するまで原則5時間50分の短時間勤務、又は、1日の勤務時間の始め又は終わりにおいて2時間を超えない範囲内で30分単位で勤務時間を短縮できる制度	子が小学校就学の始期に達するまで	※	○	○	○
⑪保育休暇	授乳等の保障のために1日2回それぞれ30分以内(男性にあっては、それぞれ30分から勤務者が取得している時間を差し引いた時間)の休暇	子が1歳に達するまで1日2回それぞれ30分以内	※	○	○	○
⑫子の看護休暇	小学校就学の始期に達するまでの子を養育する(予防接種、健康診断等を受ける場合を含む)するための休暇	子が小学校就学の始期に達するまで1年以内(6日、子が2人以上の場合は10日の範囲内)	○	○	○	○
⑬育児のための深夜勤務・時間外勤務の制限、所定外勤務の免除	小学校就学の始期に達するまでの子を養育する場合、深夜勤務(午後10時から午前5時5分まで)、時間外勤務(所定外勤務の免除を受けることができる制度)	子が小学校就学の始期に達するまで(1月について2時間以内、1年について150時間以内)、所定外勤務の免除(1回につき1か月以上1年以内)	※	○	○	○
⑭超過勤務及び休日勤務の免除	妊娠中である女性職員が請求した場合は、超過勤務、休日勤務が免除される制度	妊娠中、産後1年まで	○	-	-	-

【関連先】各部署等の人事担当



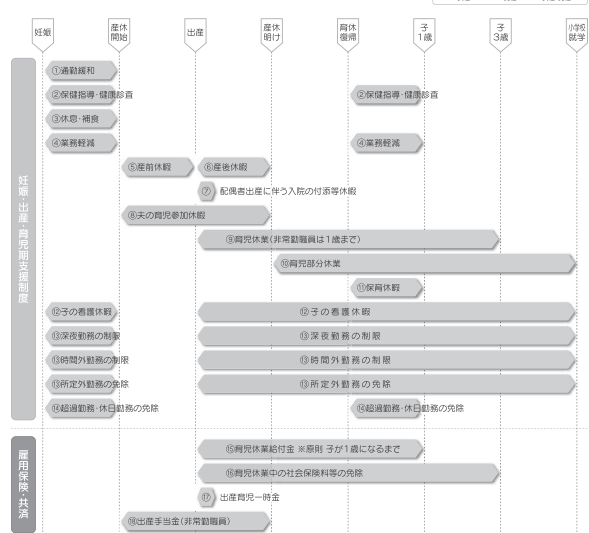
出産・育児休業に係る手当等について

- ①育児休業給付金又は育児休業手当金
1歳又は1歳2ヶ月(UVママ育児プラス制度の場合)未満の子を養育する休業期間、保育所に預けていない場合は1歳9ヶ月まで支給
- ②育児休業中の社会保険料等の免除
申請を出した日の属する月から育児休業が終了する翌月の属する月の前月まで
- ③出産一時金
出産費42万円(産科医療補償制度)に加入していない医療機関で出産した場合は、39万円を支給
- ④出産手当金(非常勤職員)
産前休業 産後休業の期間を対象として給料の支払を受けなかった場合に支給

【関連先】

育児休業給付金、社会保険料等免除、出産手当金(非常勤職員) 総務部人事課給与管理係 TEL 099-285-3350 内線 3350
育児休業手当金、共済給付金免除、産前産後一時金 総務部人事課共済係 TEL 099-285-7175 内線 7175

妊娠・出産・育児期支援制度



ベビーシッター費用割引券発行事業

教職員に対する育児支援の一環として、社ごども未来財団のベビーシッター利用券割引制度(1回当たり1,700円の補助)を実施しています。同財団の認定した事業者を利用した場合で、以下の条件等を満たす場合に補助が受けられます。

詳細は、男女共同参画推進センターへ問合せください。

利用対象者	対象となる子の年齢	使用条件
本等に勤務する教職員(非常勤職員は本等の社会保険加入者に限る)で、就労のためにベビーシッターサービスを利用予定日が決まっている方	0歳～小学校3年生の乳幼児・児童、その他健全な成長の過程を必要とする小学6年生までの児童	就労のための家庭内での保育(児童用)での利用不可)家庭と保育園・幼稚園等との間の送迎

【問合せ、申込先】

総務部人事課男女共同参画企画係 TEL 099-285-3012 内線 3012

【資料 I-9-(6)】

1 メンター研修 (平成 24 年 7 月 27 日 文教速報) ※官庁通信社承諾済 無断転載・複写不可

鹿児島大でメンター研修
コミュニケーション能力を向上

鹿児島大学男女共同参画推進センターでは、科学技術人材育成補助事業「女性研究者研究活動支援事業」の一環として、メンター研修「コミュニケーション能力向上セミナー」を去る7月4日に開催した。メンター及びその他関心のある教職員・大学院生を対象としたもので、郡元地区Ⅱ写真右Ⅱと桜ヶ丘地区Ⅱ同左Ⅱの2会場を実施し、計46人が参加した。

セミナーでは、講師を務めた御インソースの大塚郁子氏が、メンター(助言者)の心構えや、傾聴力・質問力などのメンターに必要な資質などについてグループワークを交えながら解説した。

大塚氏は、メンティ(相談者)への支援活動は、メンターにとっても成長の場であるとした上で、「メンターは自らの経験をもとに『さまざまな引き出し』を用意して、自らの人生観を語ることでメンティの自立を側面支援してほしい」と述べた。

参加者からは、「メンタリングの基礎がなかった」「自身を振り返る機会となった」「メンターとしてのスタンスを、今後のコミュニケーションに活かしたい」といった感想が聞かれるなど、コミュニケーションの重要性を再認識する研修となった。



2 オープンキャンパス企画「muse カフェ」(平成 24 年 9 月 10 日 文教速報)

※官庁通信社承諾済 無断転載・複写不可

女子高校生と女子大学院生が気軽にトーク(鹿大)
オープンキャンパス企画「muse カフェ」が好評

鹿児島大学男女共同参画推進センターでは、オープンキャンパス企画「muse カフェ」#ガールズ★Talk を去る8月4日に開催したⅡ写真Ⅱ。

この事業は、女子高校生に、大学院で学び研究している女子大学院生がロールモデルとなり、大学での研究活動や授業など学生生活の現状を学生目線で紹介するとともに、意見交換することで、進路選択に役立てることを目的としたもの。

女子高校生や保護者約250人が来場した会場では、18人の女子大学院生が自ら作成したポスターによる研究活動や学生生活の紹介をはじめ、進路相談に対応した。女子高校生は、学部のプログラムとはひと味違った内容と雰囲気のほか、女子大学院生から研究の醍醐味や、学生生活の様子を熱心に聞くなどの様子が見受けられた。

参加者へのアンケートでは、「進路選択の参考になった」「さまざまな研究活動の説明を受けたことで自分の視野が広がった」「ポ



スター等により研究内容がわかりやすかった」と好評で、女子大学院生も「自分の研究を端的に説明するプレゼン力が鍛えられた」「他分野の大学院生との交流を通じて自分の研究活動の刺激になった」といった感想があった。

同センターでは、実施に先立ち今回学生の声企画を反映しようと、女子学部生や女子大学院生を交えた企画会議を開催。今回のイベント名の「ガールズ★Talk」や「シール・ラリー」の導入などの高校生目線に立った提案を採用した。



3 第 1 回女性研究者キャリア形成セミナー

(平成 24 年 9 月 19 日 毎日新聞 鹿児島版) ※毎日新聞掲載承諾済

「女性研究員増員を」

男女参画 相馬芳枝さんが講演 鹿児島大

大学の女性研究者を増やす試みとして、鹿児島大でこのほど、2011 年世界化学年女性化学賞を受賞した相馬芳枝・神戸大特別顧問が「女性研究者のキャリア形成とライフデザイン」と題して講演した。

相馬さんは、神戸大理学部化学科を卒業。触媒や二酸化炭素再資源化の研究で知られ、86 年に自然科学分野の女性科学者を対象とした猿橋賞や、11 年に世

界で 23 人が選ばれた女性化学賞などを受賞している。相馬さんは約 150 人の学生らを前に、キャリア形成には「3 年後、10 年後にどうなっていたか目標を決めること、手本や相談相手を見つけないと必



女性参加の必要性を講演する相馬・神戸大特別顧問

要」と解説。家族や保育所、ベビーシッターを活用して「出産子育てを上手に乗り越えてほしい」とアドバイスした。また「女性の採用に積極的な企業は業績がいい」と話し、大学側の変革も必要と強調した。講演は鹿児島大男女共同参画推進センター主催。同センターは、来年度までに学内の女性研究員の比率を 17% に引き上げることが目標にしており、啓発活動の一環で今回初めて講演会を開いた。

【村尾哲二

(平成 24 年 10 月 8 日 文教ニュース) ※文教ニュース社承諾済 無断転載・複写不可

世界化学年女性化学賞受賞の相馬芳枝先生特別講演会

鹿児島大学

2011 年世界化学年女性化学賞を受賞した化学者の相馬芳枝先生による「女性研究者のキャリア形成とライフデザイン」と題した講演会が、9 月 14 日、郡元キャンパス共通教育棟であり、学生や教職員、一般市民約 140 人が聴講した。大学の女性研究者を増やす試みとして、男女共同参画推進センターが企画。講話で相馬先生は「研究にほれ込み、よい

お手本や相談相手をつつけてください」と口癖を語り、出産子育てはベビーシッターの活用を勧めるなど女性研究者がハードルを乗り越えるための秘訣を自身の経験をもとに話した。相馬先生は神戸大理学部を卒業。カルボニル触媒の発見や二酸化炭素の再資源化研究で功績を認められ、昨年世界で 23 人が選ばれた女性化学賞を日本人で唯一受賞した。



セミナー会場の様子

講演後の質疑応答も活発に行われ、相馬先生は「まずは個人が能力を磨いて、人生を豊かに生かすこと。科学技術の発展には多様性が必須であり、男女共同参画が進んで、活気みなぎる大学、社会になることを望んでいます」と締めくくった。

4 女子中高生のための鹿大科学体験塾

(平成24年10月13日 読賣新聞 鹿児島版) ※読賣新聞掲載承諾済

鹿大に「リケジョ」集まれ

理系目指す女子中高生に講座

リケジョ、集まれ——。
鹿児島大は11月、理系学部への進学を目指す女子中高生を対象にした体験講座を初めて開催する。国際競争力の強化や男女共同参画社会への動きを背景に、全国的に注目を集める「リケジョ」（理系女子学生や女性研究者）。同大は「実験や女子学生との交流を通じて、理系の魅力を知ってほしい」とPRしている。

講座を実施するのは、同大の理系7学部のうち、水産、共同獣医、理、農、工の5学部。11月中の土日を使い、各学部2コースずつ計10コースを開講する。

「工学女子になってみる！」と題した工学部の講座では、女性建築家が仕事内容や建築家になるまで

工学部 女性建築家が講義

農学部 家畜の体外受精に挑戦

の道のりを講義。その後、女子学生と一緒に家具やキッチンデザインの考案する。

全国初の複数の大学による共同学部である共同獣医学部は、牛や豚、馬などと触れ合いながら、産業動物の魅力を知る講座を企画。

農学部では、家畜の生殖細胞を使って、受講生が実際に体外受精に挑戦する。

リケジョを巡っては、政府が昨年8月、自然科学系全体に占める女性研究者の採用目標を設定した第4期科学技術基本計画を閣議決定。東大は2020年までに女子比率30%を目標に掲げているほか、東京理科大や愛知教育大などがリケジョ向け講座を開いている。

鹿児島大によると、学部全体での女子学生の割合は40・2%。「農ガール」が注目を集めている農学部は44・4%で平均を上回っているが、工学部は13・3%にとどまるなど、分野によって偏りがあるという。

同大は「女性研究者を求め、企業も増えており、理系分野で女性が活躍する場は広がっている。特に進路選択前の中学生や高校1年生に受講してもらい、理系に興味を持つきっかけにしてほしい」としている。

受講料は無料で、定員は各コース10人（先着順）。申し込み期間は15～31日。問い合わせは同大男女共同参画推進センター（099・285・3012）へ。

4 女子中高生のための鹿大科学体験塾

(平成 24 年 10 月 25 日 毎日新聞 鹿児島版) ※毎日新聞掲載承諾済

「^{リケジョ}理系女子ってカッコイイ」
鹿児島大が体験塾

来月 中学～高一女子対象

鹿児島大学は11月、中学～高校1年の女子中高生を対象にした科学体験塾「理系女子(リケジョ)ってカッコイイ」を初めて開催する。理工系分野の女性研究者を増やすための試みで、同大男女共同参画推進センターは「理系の魅力に触れてほしい」と参加を呼び掛けている。

体験塾は、理系5学部(理▽工▽水産▽農▽共同獣医)の教員や女子大学院生が講師を務め、交流する機会がある。各学部2コースの計10コースあり、実験内容は「顕微鏡によるプランクトンの観察と海洋調査の紹介(水産学部)▽「薩摩切子に潜む金のナノ粒子を作ろう」(理学部)▽「女性建築家に聞く建築の魅力&生活空間をデザインしよう」(工学部)——など。

日程は、11月11日に水産学部▽同17日に理学部と共同獣医学部▽同18日に工学部▽同24日に農学部。郡元キャンパスと下荒田キャンパスの実験室で開催する。無料で、定員は各コース先着10人。メール、ファクスまたは郵送での事前申し込みが必要で今月31日まで。問い合わせは同センター(099・2805・3012)。

同大の女子学部生の割合は、全体で40%だが、工学部は13%、理学部は27%で、理工系に進学する女性は少ない状況。同センターは「体験塾を通して、裾野を広げていきたい」と話している。

【村尾哲】

(平成 24 年 12 月 26 日 文教速報) ※官庁通信社承諾済 無断転載・複写不可

日) 文 教 速 報 (第三種郵便物認可) 第7814号 -15-

鹿大で女子中高生向け科学体験塾

鹿児島大学男女共同参画推進センターでは、『女子中高生のための鹿大科学体験塾「理系女子(リケジョ)ってカッコイイ」』を去る11月11～24日の期間で開催した。


理工系に進む女子が少ない現状を踏まえ、女子中高生を対象に、理工系5学部が実験等を通じた科学の体験機会やロールモデルとなる女子大学院生との交流機会を提供することで、理工系への関心を持ってもらう契機とすることを目的としたもの。

イベントには、理工系5学部の10コースに計約90人の女子中高生が参加した。理学部では、体の中で働いている酵素の働きや金や銀のナノ粒子を作ってミクロの世界を光の手法で観察。工学部では女性建築家とともに生活空間を設計し、また、目の錯視がファッションなどにどう応用されているかを体験した。

農学部では、家畜の体外受精の実験や顕微鏡で身近な生き物を、水産学部では、ミクロなサイズのプランクトンが秘めている生き残るための技を観察。刺身の鮮度や食感を左右するタンパク質を取り出す実験を行った。

共同獣医学部では、モグラの生態観察・標本作りやウマ・ウシ・ブタの観察や飼育・診療を体験した。

女子中高生からは「今回の体験を通してさらに興味が深まった」「今まで学んだことのないことに挑戦できて刺激になった」との声が聞かれ、各学部の実験や女子大学院生との交流などを通して、科学の世界への関心を深め、学生生活や卒業後の進路情報を得るなど、進路選択を考える上で有意義な機会となった。



4 女子中高生のための鹿大科学体験塾

(平成24年11月13日 南日本新聞) ※南日本新聞掲載承諾済

「リケジヨ」獲得せよ

鹿大女子中高生に科学講座

理系学部への女子学生の進学を促そうと、女子中高生を対象にした鹿児島大学の科学体験塾「理系女子（リケジヨ）ってかっこいい」が11日、鹿児島市の同大で始まった。初日は水産学部の2コースに計8人が参加。24日までに開かれる理系5学

部の10コースで約100人が受講する。同大男女共同参画推進センターによると、2012年度の女子学生の比率は40.2%だったが、そのうち理工系学部は25.6%。また女性研究者は全体の14.3%にとどまり、特に工学系0%、理学系

5.6%と低かった。初日は水産学部の袁春紅准教授(38)が、カンパチの刺し身からタンパク質の一種ミオグロビンを抽出して、鮮度を比較する実験を実施。山本智子准教授(46)は実体顕微鏡を使ってプランクトンを観察。地域で異なる種や



数を計測した。山本准教授は「研究環境も整い、男女の体力的なハンディはなく

カンパチの身からタンパク質を抽出する中高生たち
＝11日、鹿児島大学

なりつつある。コミュニケーション能力も高い女性たちの活躍に期待している」と話した。受講した鹿大付属中3年の三牧英里奈さんは「先生や学生がかっこよかった。理科が大好きで、将来は研究者になりたい」と話した。
(犬塚政志)

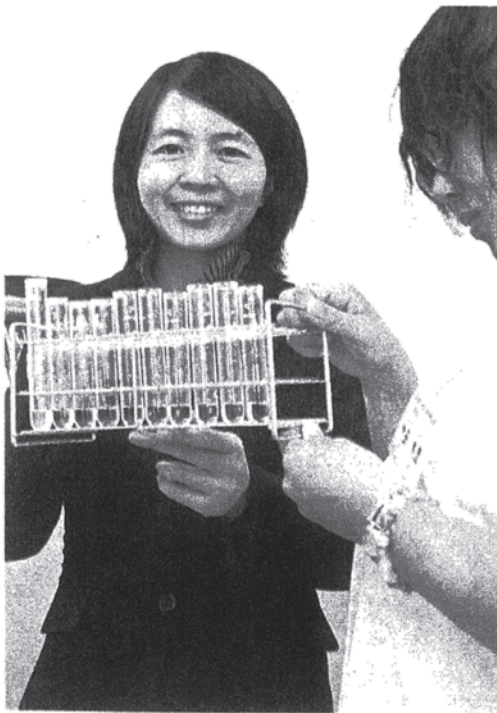
5 「373 ワイド フォーカス」 水産学部 袁 春紅 准教授

(平成 24 年 11 月 22 日 南日本新聞) ※南日本新聞掲載承諾済

373 ワイド

フォーカス

「鹿児島は上海と緯度が同じで快適。カンパチやブリ、タイなど魚もおいしい」と話す袁春紅准教授 ー鹿児島市の鹿児島大学



（文化部・大塚政志）

今年15日、東日本大震災で壊滅的な被害を受けた岩手県釜石市に飛んだ。三陸沖産のとれたてサバが目当てだ。安価なサバを旬に限らず常時刺し身で食べられる価値に高め、水産業復興につなげる計画。科学技術振興機構（JST）に本年度採択された復興促進プログラムの研究代表を務め、「鹿児島から東北を応援したい」と流ちょうな日本語

で語る。魚の鮮度を左右する魚肉タンパク質の変性を抑制させる技術がカギとなる。今

日中共同で漁業活性化図りたい

回釜石で採取した約60匹と鹿児島産コマサバと一緒に実験する。「大がかりな設備を必要としない革新的な冷凍技術の開発が目標。魚肉

中国上海出身。2002年に来日した。大学院生時代に参加した日本の農林水産省と中国の連携事業の縁で北海道大へ進学。06年に残りたかった。同じころ、(36)は環境を専門とする上海海洋大学の准教授。北大時

鹿児島大水産学部専任准教授

袁 春紅さん (38) 鹿児島市

キラリ

えん・しゅんこう 上海出身。上海海洋大学を経て北海道大大学院水産科学研究科博士後期課程修了。同大助教を経て2011年から現職。

6 内閣府男女共同参画に係る総合情報誌「共同参画」平成25年1月号 ※特集：「国立大学における男女共同参画の取組」 ※内閣府男女共同参画局掲載承諾済



国立大学における男女共同参画の取組

一人ひとりが伸びやかに、自分らしく輝く鹿児島大学を目指して

国立大学法人鹿児島大学
男女共同参画推進センター

鹿児島大学は、9学部10研究科、14教育研究施設等を有する総合大学です。これまで平成21年9月の男女共同参画推進室（現：男女共同参画推進センター）の設置を皮切りに、平成22年4月、男女共同参画担当学長補佐の任命、同年7月、総務部人事課男女共同参画企画係の新設などにより男女共同参画推進体制の基盤を作りました。平成23年3月には、鹿児島大学の男女共同参画を計画的に推進していくため、「男女共同参画推進に係る長期（10年）及び短期（3年）行動計画」を策定しました。また、女性研究者支援においては、平成23年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」の採択を機に、コーディネータの配置をはじめとする女性研究者支援体制の充実や教育・研究環境の整備のほか、意識啓発事業等を展開しながら、女性研究者の採用・登用や次世代の女性研究者の裾野拡大を図っています。ここでは主な取組について紹介します。

1) 部局等における男女共同参画推進に係る目標・行動計画を策定

全学的な男女共同参画の着実な推進を図るため、全部局・教育研究施設等が平成24年9月に「部局等における男女共同参画推進に係る方針等」を策定しました。各部局等は、男女共同参画推進体制の整備、女性研究者増に向けた具体策（女性の在職・採用比率増に係る目標の設定又は取組の推進、女性研究者支援及び次世代女性研究者の育成等）、就業

環境等の整備、意識啓発の推進、その他の取組について目標・計画を掲げています。今後これを基に担当理事・学長補佐と各部局長等との意見交換の場である「男女共同参画キャラバン」や大学運営評価システムにおいて進捗管理することになっています。

2) ライフイベント期の女性研究者の研究活動支援

ライフイベント期にある女性研究者（配偶者が研究者である男性研究者を含む。）に対する研究活動支援として「研究支援員制度」を設けています。昨年度のべ20人（うち2人が男性）、今年度のべ19人（うち2人が男性）に対して支援を行い、利用した研究者からは、「予定より早く学会発表ができた」「両立する上で精神的に余裕が出てきた」などの声があり、研究活動の進展に寄与しています。また、支援する側にとっても異なる研究手法や視点を学ぶことでキャリア形成支援にもつながっています。

3) 女性研究者や女子大学院生のキャリア形成支援

女性研究者や女子大学院生を主な対象として、「museカフェ」と称した交流会を開催し、先輩研究者の経験談を聞き、異分野の研究者・学生間のネットワーク構築を図る機会を提供しています。また、他大学等の研究者を講師に招いて「女性研究者キャリア形成セミナー」を開催しています。そのほか、経験のある先輩研究者が若手の女性研究者や女子大

学院生に対するロールモデルとして様々な助言や相談に応じることでキャリア形成支援を図るため、平成24年度に「メンター制度」を創設しました。

4) 学生の男女共同参画意識醸成

全学部学生対象の共通教育科目「男女共同参画とキャリアデザイン」を開講しています。男女共同参画に関する基本的知識を講義するほか、子育てや介護を経験又はその最中にある教職員によるロールモデル講話や関係教職員を交えたグループディスカッションを通じて、男女共同参画のあり方について理解を深めさせるとともに、男女共同参画社会実現への積極的な関与を促す契機とすることを狙っています。

5) “リケジョ”を増やす取組

女子中高生の理系進路選択支援事業として、理系5学部による「女子中高生のための鹿大科学体験～理系女子（リケジョ）ってカッコイイ～」を今年度初めて開催しました。また女子大学院生によるオープンキャンパス企画“ガールズTalk”や男女共同参画に係る出前授業も実施しています。

そのほかには、保育支援として、「ベビーシッター費用割引券発行事業」や大学入試センター試験時の保育支援を行っています。また、自治体等との連携も少しずつ広がっており、今年2月には鹿児島市主催の「男女共同参画フェスタ」に参画することとなっています。

7 女性研究者ロールモデル集

(平成25年2月13日 読賣新聞 鹿兒島版) ※読賣新聞掲載承諾済



鹿兒島大が発行した「輝く女性研究者たち」

輝く女性の理系研究者

鹿大卒業生らの活躍を一冊に

鹿兒島大男女共同参画推進センターは、卒業生や同大に所属する女性研究者のキャリアや研究活動を紹介する「輝く女性研究者たち」鹿兒島大学ロールモデル集

集」(A5判、39ページ)を発行した。

理系への進学や研究者を目指す女子生徒、学生が少ない傾向にあることから、研究の魅力を伝えることでキャリア形成を支援し、理系を希望する学生を増やそうと製作した。

臨床心理学や看護学の研究者、宇宙航空研究開発機構(JAXA)の職員など16人が登場。その道を目指したきっかけや研究内容のほか、趣味や育児方法、一日のタイムスケジュールなども紹介している。同センターは「研究内容だけでは硬い読み物になるので、日常の様子が分かる写真も多く取り入れた」という。

県内の全中学、高校のほか、市町村教委などに配布している。同センターの山口真理コーディネーターは「どんな分野でも女性が活躍している時代。女性の視点やパワーを研究に生かしてほしい」と話している。

(平成25年2月19日 南日本新聞) ※南日本新聞掲載承諾済



鹿兒島大学男女共同参画推進センターが、同大の女性研究者や卒業生のキャリア、研究内容を紹介する冊子「輝く女性研究者たち」写真集を出した。

同大の研究者(研究員含む)1119人中、女性性は168人で約15%(2012年5月現在)。

身近に働く女性研究者や理系分野で活躍する卒業生の姿を見てもらい、研究者や理系を目指す女子学生を増やすのが狙い。

冊子には看護学や焼酎製造学、海洋学、生命科学、医学などの分野で研究に打ち込む女性や、宇

女性研究者の活躍紹介

同大の研究者(研究員含む)1119人中、女性性は168人で約15%(2012年5月現在)。

身近に働く女性研究者や理系分野で活躍する卒業生の姿を見てもらい、研究者や理系を目指す女子学生を増やすのが狙い。

冊子には看護学や焼酎製造学、海洋学、生命科学、医学などの分野で研究に打ち込む女性や、宇

同センターの山口真理コーディネーターは「生活に根付いた女性研究者の視点が今、必要とされている。多彩な分野で女性が活躍していることを知ってもらい、学生たちの参考になればうれしい」と話す。

冊子は県内の中・高校、市町村教委に配布している。A5判、40ページ。問い合わせは同センター(099)(285)3012。

II 活動記録

II 活動記録

1 活動日誌

平成 24 年 4 月 1 日	女性研究者支援事業本部設置 男女共同参画推進センターコーディネータ配置 男女共同参画推進センターホームページの充実 (「女性研究者支援」及び「育児・介護制度等の案内」を充実)
4 月 2 日～	研究支援員制度第 1 期支援開始 (研究支援員の対象に大学院課程修了者等を追加) 女性研究者 6 人
5 月 10 日	「男女共同参画キャラバン」 法文学部・教育学部
5 月 16 日	「男女共同参画キャラバン」 農学部・共同獣医学部
5 月 18 日	「男女共同参画キャラバン」 司法政策研究科、理工学研究科 (理学系)
5 月 23 日	「男女共同参画キャラバン」 医学部・歯学部附属病院
5 月 24 日	「男女共同参画キャラバン」 水産学部
5 月 30 日	「男女共同参画キャラバン」 医歯学総合研究科、医学部
6 月 1 日	「男女共同参画キャラバン」 理工学研究科 (工学系) 研究支援員制度第 1 期第 2 次募集分 支援開始 女性研究者 3 人及び男性研究者 1 人 ※第 1 期については、女性研究者 9 人、男性研究者 1 人 計 10 人の支援
6 月 6 日	「男女共同参画キャラバン」 臨床心理学研究科
6 月 14 日	メンター制度運用開始 メンター 12 人に委嘱状交付
6 月 21 日	「muse カフェ」～郡元地区研究支援員制度利用者及び研究支援員間～ 3 人の女性研究者と 3 人の研究支援員が参加
6 月 27 日	スキルアップセミナー「英語論文書き方セミナー」を実施 147 人の研究者・大学院生が参加
7 月 4 日	メンター研修「コミュニケーション能力向上セミナー～よき相談相手となるために～」を実施 郡元地区及び桜ヶ丘地区で 46 人が参加
7 月 9 日	「muse カフェ」～女子大学院生間～ 14 人の女子大学院生が参加
7 月 19 日	「muse カフェ」～桜ヶ丘地区研究支援員制度利用研究者及び研究支援員間～ 4 人の女性研究者と 4 人の研究支援員が参加
8 月 4 日	オープンキャンパス企画「muse カフェ」 “ガールズ☆Talk” を開催 高校生 232 人、保護者等 22 人が参加
9 月 7 日	「福岡大学女性研究者支援セミナー」及び九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワーク (Q-wea) 近況報告会参加 (参加者：山口コーディネータ)
9 月 14 日	女性研究者キャリア形成セミナー及び「muse カフェ」を開催 講師： 神戸大学特別顧問 相馬芳枝 氏 教職員、学生、一般 134 人が参加
9 月 20 日	「部局等における男女共同参画推進に係る方針等」策定
10 月 1 日	研究支援員制度第 2 期支援開始 女性研究者 7 人及び男性研究者 1 人の支援を開始
10 月 5 日	共通教育科目「男女共同参画とキャリアデザイン」開講 受講者 31 人
10 月 15 日	「muse カフェ」を開催～女子大学院生間～ 6 人の女子大学院生が参加
10 月 18 日	Newsletter4 号刊行

II 活動記録

1 活動日誌

11月	「女子中高生のための鹿大科学体験塾～理系女子（リケジョ）ってカッコイイ！～」の実施 11日：水産学部8人 17日：理学部20人 共同獣医学部18人 18日：工学部21人 24日：農学部19人
11月9日	出前授業を実施（志學館高校1年生） 講師：水産学部 久賀みず保 助教 演題：「食」への情熱 1年生118人（男49人、女119人）が参加
11月13日	「muse カフェ」～女性研究者ロールモデル講話～ 講師：農学部 渡部由香 准教授 女子大学院生等14人が参加
11月15日	研究支援員に関する取扱要項改正 研究支援員の対象に農学部獣医学科5年次・6年次生を追加
11月20日	「女性研究者支援合同公開シンポジウム」参加 （参加者：田島センター長、山口コーディネータ）
11月28日	「muse カフェ」～女性研究者間交流会～ 女性研究者等10人が参加
11月29日・30日	独立行政法人国立女性教育会館 「大学等における男女共同参画推進セミナー」 （山口コーディネータ）
11月29日	岡山大学訪問調査 （東人事課男女共同参画企画係長）
11月30日	第4回中国四国男女共同参画シンポジウム参加 （参加者：東人事課男女共同参画企画係長）
12月3日～21日	附属図書館・男女共同参画推進センター連携企画 「知ってますか？男女共同参画」開催
12月6日	第2回女性研究者キャリア形成セミナーを開催 講師：長崎大学男女共同参画推進センター長 大井久美子氏 女性研究者等35人が参加
12月11日・12日	静岡大学・岐阜大学訪問調査 （田島センター長、東人事課男女共同参画企画係長）
12月15日	「第4回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム in 大分」参加 （参加者：島理事、田島センター長、山口コーディネータ、東人事課男女共同参画企画係長）
12月17日	研究支援員制度2期第3次募集分 支援開始 女性研究者1人 ※第2期については、女性研究者8人、男性研究者1人 計9人の支援
平成25年 1月19日・20日	大学入試センター試験時保育支援を実施 教職員3人（子ども4人）が利用
1月21日	男女共同参画推進センターリーフレットを刊行 全学教職員、平成25年度新入生等に配布
1月31日	「輝く女性研究者たち－鹿児島大学ロールモデル集－」刊行
2月3日	鹿児島市サンエールフェスタに参画 「muse カフェ」～女子大学院生に聞く、鹿大ナウ！～ 女子大学院生6人が参加
2月7日	「男女共同参画キャラバン」 理学部、工学部、理工学研究科
2月8日	「男女共同参画キャラバン」 法文学部、連合農学研究科
2月14日	琉球大学 キックオフシンポジウム参加 （山口コーディネータ、東人事課男女共同参画企画係長）
2月15日	Q-wea 学習会参加 （山口コーディネータ、東人事課男女共同参画企画係長）
2月18日	「男女共同参画キャラバン」 農学部、共同獣医学部
2月21日	「男女共同参画キャラバン」 水産学部
2月28日	「男女共同参画キャラバン」 司法政策研究科、臨床心理学研究科
3月1日	「男女共同参画キャラバン」 教育学部

3月8日	「男女共同参画キャラバン」 医歯学総合研究科、医学部、医学部・歯学部附属病院
3月8日	Newsletter5号刊行
3月15日	「育児・介護支援制度の案内」リーフレット刊行
3月	男女共同参画推進センターホームページ改修 女性研究者ロールモデル集ページの作成及び一部カテゴリのレイアウトの変更等)の追加

2 会議

○男女共同参画推進室会議

(第1回)

平成24年4月10日(火)

議 事

- 1 女性研究者支援事業本部の設置について
- 2 「部局等における男女共同参画の推進に係る方針等(仮称)」の策定要領について
- 3 女子中高生理工系進路選択支援事業について
- 4 郡元地区保育所設置に向けた提案書について
- 5 その他
 - (1) 平成24年度男女共同参画推進センター行動計画ロードマップについて
 - (2) 研究支援員制度の整備充実について
 - (3) 平成23年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」報告書について

(第2回)

平成24年4月18日(水)

議 事

- 1 平成23年度計画に係る実績報告書(理事素案)について
- 2 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に係る平成23年度実績報告書について
- 3 メンター委嘱式について
- 4 メンター研修について
- 5 スキルアップセミナーについて
- 6 女性研究者キャリア形成セミナーについて
- 7 女性研究者ロールモデル誌について
- 8 その他
 - (1) 第1回男女共同参画推進センター会議について
 - (2) 「部局等における男女共同参画の推進に係る方針等(仮称)」策定スケジュールについて
 - (3) 九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワークシンポジウムについて

(第3回)

平成24年4月24日(火)

議 事

- 1 「部局等における男女共同参画の推進に係る方針等(仮称)」の策定について
- 2 平成23年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」実績報告書について
- 3 女子中高生理工系進路選択支援事業について
- 4 メンター委嘱について

(第4回)

平成24年5月8日(火)

議 事

- 1 「部局等における男女共同参画の推進に係る方針等(仮称)」の策定について
- 2 メンターについて
- 3 男女共同参画キャラバンについて
- 4 研究支援員に関する取扱要項の一部改正について

II 活動記録

2 会議

- 5 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に係る取組について
 - (1) メンター研修について
 - (2) スキルアップセミナーについて
 - (3) 女性研究者ロールモデル誌について
 - (4) 女性研究者キャリア形成セミナーについて
- 6 その他
 - (1) 男女共同参画推進センター委員の変更について
 - (2) 平成24年5月1日現在女性研究者数（速報値）について
 - (3) 平成24年度第1期（第2次募集分）応募状況について

（第5回）

平成24年5月16日（水）

議 事

- 1 平成24年度第1期第2次募集分研究支援員配置に係る審査について
- 2 平成24年5月1日現在女性研究者数について
- 3 その他
 - (1) 「部局等における男女共同参画の推進に係る方針等」の策定について
 - (2) メンターの委嘱について

（第6回）

平成24年5月22日（火）

議 事

- 1 平成23事業年度に係る業務の実績に関する報告書（理事素案）について
- 2 オープンキャンパス企画「muse カフェ」について
- 3 メンター委嘱について

（第7回）

平成24年5月29日（火）

議 事

- 1 オープンキャンパス「muse カフェ」企画について
- 2 メンター委嘱式・交流会について

（第8回）

平成24年6月11日（月）

議 事

- 1 男女共同参画キャラバン実施状況について
- 2 保育所設置に係る提案書について
- 3 女子中高生理系進路選択支援事業ワーキング・グループについて
- 4 その他
・女性研究者ロールモデル誌の推薦状況について

（第9回）

平成24年6月20日（水）

議 事

- 1 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」平成24年度第1四半期課題管理報告書について
- 2 第1回女子中高生理系進路選択支援事業ワーキング・グループについて
- 3 女性研究者キャリア形成セミナーについて
- 4 保育所設置に係る提案書について

（第10回）

平成24年6月26日（火）

議 事

- 1 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」平成23年度事業実績報告書について
- 2 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」平成24年度第1四半期課題管理報告書について

（第11回）

平成24年7月3日（火）

議 事

- 1 平成24年度第2期研究支援員配置申請要領について

- 2 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」平成24年度第1四半期課題管理報告書について
- 3 スキルアップセミナー「英語論文書き方セミナー」の実施報告について

(第12回)

平成24年7月10日(火)

議事

- 1 郡元地区における保育所設置に係る提案書について
- 2 平成23年度年度計画実績報告書ヒアリング対応について

(第13回)

平成24年7月17日(火)

議事

- 1 女子中高生理系進路選択支援事業計画について
- 2 男女共同参画推進センターNewsletter第4号(10月刊行)について

(第14回)

平成24年7月24日(火)

議事

- 1 女子中高生理系進路選択支援事業について
- 2 第13回男女共同参画フェスティバル市民企画ワークショップについて

(第15回)

平成24年7月31日(火)

議事

- 1 部局等における男女共同参画推進に係る方針等について
- 2 「国立大学における男女共同参画推進の実施に関する第9回追跡調査」について
- 3 女子中高生理系進路選択支援事業について

(第16回)

平成24年8月28日(火)

議事

- 1 部局等における男女共同参画推進に係る方針等について
- 2 国立大学における男女共同参画推進の実施に関する調査(第9回)について
- 3 女子中高生理系進路選択支援事業について
- 4 女性研究者キャリア形成セミナーについて
- 5 男女共同参画学協会シンポジウム資料集への活動報告の掲載について
- 6 その他
 - ・オープンキャンパス企画「museカフェ」について

(第17回)

平成24年9月4日(火)

議事

- 1 平成24年度第2期研究支援員の配置について
- 2 国立大学法人鹿児島大学研究支援員に関する取扱要項の一部改正及び平成24年度第2期研究支援員(第2次募集)配置申請要領について
- 3 平成24年度第2回女性研究者キャリア形成セミナーについて
- 4 共通教育科目「男女共同参画とキャリアデザイン」について
- 5 その他
 - ・平成24年度第1回女性研究者キャリア形成セミナーについて

(第18回)

平成24年9月11日(火)

議事

- 1 「部局等における男女共同参画推進に係る方針等」について
- 2 平成24年度第2期(第1次募集)研究支援員の配置について
- 3 平成24年度第2期(第2次募集)研究支援員制度の募集について
- 4 国立大学法人鹿児島大学研究支援員に関する取扱要項の一部改正について
- 5 その他
 - (1) 平成24年度第1回女性研究者キャリア形成セミナーについて
 - (2) 第4回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウムについて

II 活動記録

2 会議

(第 19 回)

平成 24 年 9 月 19 日 (水)

議 事

- 1 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」平成 24 年度第 2 四半期課題管理報告書について
- 2 「部局等における男女共同参画推進に係る方針等」について
- 3 国立大学法人鹿児島大学研究支援員に関する取扱要項の一部改正について
- 4 第 2 回女性研究者キャリア形成セミナーについて
- 5 その他
 - ・男女共同参画推進委員会について

(第 20 回)

平成 24 年 9 月 25 日 (火)

議 事

- 1 第 2 回女性研究者キャリア形成セミナーについて (理事懇提案)
- 2 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」課題管理報告 (アウトリーチ活動報告) について
- 3 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」平成 24 年度第 2 四半期課題管理報告書について
- 4 第 1 回男女共同参画推進委員会について
- 5 その他
 - ・国立大学法人鹿児島大学研究支援員に関する取扱要項の一部改正について

(第 21 回)

平成 24 年 10 月 9 日 (火)

議 事

- 1 第 1 回男女共同参画推進委員会について
- 2 出前授業について
- 3 国立女性教育会館女性教育情報センターパッケージ貸出サービス及び男女共同参画推進センターポスター展について
- 4 第 4 回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム資料について
- 5 国立大学法人鹿児島大学研究支援員に関する取扱要項の一部改正について
- 6 その他
 - ・文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」合同シンポジウムについて

(第 22 回)

平成 24 年 10 月 16 日 (火)

議 事

- 1 国立大学法人鹿児島大学研究支援員に関する取扱要項の一部改正について
- 2 第 2 回女性研究者キャリア形成セミナーについて
- 3 その他
 - ・研究支援員に係る勤務時間管理等について

(第 23 回)

平成 24 年 10 月 23 日 (火)

議 事

- 1 大学入試センター時学内一時託児サービスの実施について
- 2 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」合同シンポジウム要旨集・ポスターについて
- 3 鹿児島市「サンエールフェスタ 2013」への参画について
- 4 その他
 - (1) 「女子中高生のための鹿大科学体験塾」の応募状況について
 - (2) 第 4 回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウムについて

(第 24 回)

平成 24 年 11 月 6 日 (火)

議 事

- 1 大学入試センター試験時保育支援について
- 2 鹿児島市「サンエールフェスタ 2013」への参画について
- 3 鹿児島市男女共同参画情報誌「すてっぷ」特集について
- 4 その他

- (1) 「女子中高生のための鹿大科学体験塾」の参加申込受付状況について
- (2) 平成24年度第1期研究支援員制度成果報告について

(第25回)

平成24年11月13日(火)

議事

- 1 平成25年度年度計画(理事素案)について
- 2 平成24年度第2期研究支援員制度第3次募集について
- 3 その他
 - (1) 内閣府男女共同参画に関する総合情報誌「共同参画」1月号への投稿について
 - (2) 「museカフェ」～女子大学院生間～について
 - (3) 出前授業(志学館高等部)について

(第26回)

平成24年11月27日(火)

議事

- 1 平成25年度年度計画(理事素案)について(継続)
- 2 Newsletter5号編集計画について
- 3 その他
 - (1) 内閣府男女共同参画に関する総合情報誌「共同参画」1月号掲載原稿について
 - (2) 「museカフェ」～女性研究者間～(11月28日)の開催について
 - (3) 「museカフェ」～女子大学院生間～(11月13日開催)について
 - (4) 鹿児島市男女共同参画情報誌「すてっぷ」に係る女性研究者の推薦について
 - (5) 文部科学省主催女性研究者研究活動支援事業合同シンポジウム(11月20日開催)について

(第27回)

平成24年12月4日(火)

議事

- 1 部局等における男女共同参画推進に係る方針等に基づくマネジメント等に関する諸検討事項について
- 2 平成24年度第2期(第3次募集)研究支援員の配置について
- 3 その他
 - (1) 女子中高生のための鹿大科学体験塾(11月11日～11月24日)について
 - (2) 「museカフェ」～女性研究者間～(11月28日)について

(第28回)

平成24年12月11日(火)

議事

- 1 平成24年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」事業報告書について
- 2 その他
 - ・女性研究者キャリア形成セミナー(12月6日)について

(第29回)

平成24年12月18日(火)

議事

- 1 部局等における男女共同参画推進に係る方針等の変更・修正について
- 2 平成24年度年度計画第3四半期の実績等について
- 3 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」課題管理実施報告書(平成24年10月～12月)について
- 4 その他
 - ・女子中高生のための鹿大科学体験塾(11月11日～11月24日)について

(第30回)

平成24年12月25日(火)

議事

- 1 男女共同参画キャラバン実施計画について
- 2 女性研究者支援シンポジウムについて
- 3 女子中高生のための鹿大科学体験塾ワーキング・グループ会議(メール会議)について
- 4 平成24年度第2期研究支援員配置時間の増について
- 5 大学入試センター試験時保育支援申込状況について
- 6 男女共同参画推進センターリーフレットについて

II 活動記録

2 会議

(第 31 回)

平成 25 年 1 月 8 日 (火)

議 事

- 1 男女共同参画キャラバン実施計画等について
- 2 鹿児島市サンエールフェスタについて
- 3 附属図書館連携企画「知ってますか？男女共同参画」(12月3日～21日)について

(第 32 回)

平成 25 年 1 月 15 日 (火)

議 事

- 1 男女共同参画推進体制の見直しについて

(第 33 回)

平成 25 年 1 月 22 日 (火)

議 事

- 1 男女共同参画推進体制の見直しについて
- 2 平成 25 年度女性研究者研究活動支援事業計画等について
- 3 平成 25 年度研究支援員制度について

(第 34 回)

平成 25 年 1 月 29 日 (火)

議 事

- 1 男女共同参画キャラバン実施計画について
- 2 その他
 - (1) 第 3 回女性研究者支援事業本部 (1 月 31 日開催) について
 - (2) 女子中高生のための鹿大科学体験塾ワーキング・グループメール会議について
 - (3) 育児・介護支援制度案内リーフレットの作成について

(第 35 回)

平成 25 年 2 月 5 日 (火)

議 事

- 1 男女共同参画推進センター運営体制の強化等について
- 2 国立大学法人鹿児島大学研究支援員に関する取扱要項の一部改正及び平成 25 年度第 1 期研究支援員制度の募集について
- 3 平成 25 年度男女共同参画推進センター経費について
- 4 その他
 - (1) 第 3 回女性研究者支援事業本部 (1 月 31 日開催) について
 - (2) 鹿児島市サンエールフェスタ (2 月 3 日開催) について

(第 36 回)

平成 25 年 2 月 12 日 (火)

議 事

- 1 平成 25 年度第 1 期研究支援員制度利用者の募集について
- 2 国立大学法人鹿児島大学研究支援員に関する取扱要項の一部改正について
- 3 女性研究者支援シンポジウム (仮称) について

(第 37 回)

平成 25 年 2 月 19 日 (火)

議 事

- 1 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」平成 24 年度事業報告書について
- 2 国立大学法人鹿児島大学研究支援員に関する取扱要項の一部改正について
- 3 第 5 回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム in 福岡について

(第 38 回)

平成 25 年 2 月 26 日 (火)

議 事

- 1 国立大学法人鹿児島大学男女共同参画推進センター要項の一部改正について
- 2 平成 25 年度出前授業について

(第 39 回)

平成 25 年 3 月 5 日 (火)

議 事

- 1 国立大学法人鹿児島大学男女共同参画推進センター要項の一部改正について
- 2 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」訪問調査について
- 3 研究支援員制度に係る審査要領等について

(第 40 回)

平成 25 年 3 月 12 日 (火)

議 事

- 1 研究支援員制度に係る審査要領等について
- 2 平成 25 年度第 1 期研究支援員制度利用者第 2 次募集について

○男女共同参画推進委員会

(第 1 回)

平成 24 年 10 月 12 日 (金)

議 事

・議題

- 1 「部局等における男女共同参画推進に係る方針等」について
- 2 第 2 回女性研究者キャリア形成セミナーについて
- ・報告事項
- 1 研究支援員制度について
- 2 メンター制度について
- 3 女子中高生のための鹿大科学体験塾～理系女子（リケジョ）ってカッコイイ!～
- 4 共通教育科目「男女共同参画とキャリアデザイン」について
- 5 出前授業について
- 6 国立女性教育会館女性教育情報センターパッケージ貸出サービス及び男女共同参画推進センターポスター展について
- 7 平成 24 年 4 月～9 月 活動報告

○男女共同参画推進センター会議

(第 1 回)

平成 24 年 4 月 23 日 (月)

議 事

- 1 平成 23 年度男女共同参画推進室活動報告について
- 2 平成 24 年度男女共同参画推進センター行動計画ロードマップについて
- 3 女性研究者支援事業本部の設置について
- 4 「部局等における男女共同参画推進に係る方針等（仮称）」の策定について
- 5 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に係る事業について
 - (1) 研究支援員制度の整備充実について
 - (2) メンター制度について
 - (3) メンター研修について
 - (4) 女性研究者キャリア形成セミナーについて
 - (5) 女性研究者スキルアップセミナーについて
 - (6) 女性研究者ロールモデル誌について
- 6 女子中高生女子理系進路選択支援事業について

○女性研究者支援事業本部会議

(第 1 回)

平成 24 年 7 月 9 日 (月)

議 事

- 1 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」平成 23 年度実績報告及び平成 24 年度事業計画について

II 活動記録

2 会議

- 2 研究支援員制度について
- 3 メンター制度について
- 4 女性研究者支援事業本部の体制について
- 5 その他

(第2回)

平成24年8月24日(金)

議 事

- 1 部局等における男女共同参画推進に係る方針等について
- 2 第2回女性研究者キャリア形成セミナー(案)について
- 3 その他
 - (1) 第1回女性研究者キャリア形成セミナーについて
 - (2) 女子中高生理系進路選択支援事業の実施
 - (3) 事業報告
 - ・桜ヶ丘地区支援員制度利用者間交流「muse カフェ」
 - ・オープンキャンパス「muse カフェ」“ガールズ☆Talk”
 - (4) 鹿児島市男女共同参画フェスティバル
 - (5) 国立女性教育会館、女性教育情報センターのパッケージ

(第3回)

平成25年1月31日(金)

議 事

- 1 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」平成24年度実績報告及び平成25年度事業計画(案)
- 2 男女共同参画推進体制について
- 3 研究支援員制度について
- 4 その他
 - (1) 平成25年度女性研究者支援シンポジウム(仮称)について
 - (2) 女子中高生のための鹿大科学体験塾ワーキング・グループメール会議について

3 他大学シンポジウム等への参加

平成 24 年 11 月 20 日に開催された文部科学省科学技術人材育成費補助事業女性研究者研究活動支援事業合同シンポジウムに、田島男女共同参画推進センター長及び山口男女共同参画推進センターコーディネータが参加したほか、以下のとおり参加し、他大学の担当者等との情報交換やネットワーク構築を図った。

○平成 24 年度 他大学シンポジウム等参加状況

月 日	シンポジウム等名	参加者
9 月 7 日	福岡大学女性研究者支援セミナー、九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワーク (Q-wea) 近況報告会	山口コーディネータ
11 月 20 日	女性研究者研究活動支援事業合同シンポジウム	田島センター長 山口コーディネータ
11 月 29 日 ～30 日	独立行政法人国立女性教育会館 「大学等における男女共同参画推進セミナー」	山口コーディネータ
11 月 30 日	第 4 回中国四国男女共同参画シンポジウム	東人事課男女共同参画企画係長
12 月 15 日	第 4 回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム in 大分、Q-wea 担当者会議	島理事 田島センター長 山口コーディネータ 東人事課男女共同参画企画係長
2 月 14 日	琉球大学うない研究者支援センターキックオフシンポジウム	山口コーディネータ 東人事課男女共同参画企画係長
2 月 15 日	Q-wea 学習会	山口コーディネータ 東人事課男女共同参画企画係長

4 他大学訪問調査

本学の女性研究者研究活動支援事業における取組を推進していく上で、先行大学（旧モデル育成事業採択大学：事業終了大学を含む）の取組事例や様々な課題等への対応等について参考にするため、静岡大学、岐阜大学及び岡山大学を訪問調査した。

各大学の調査項目は以下のとおり。

【岡山大学／平成 24 年 11 月 29 日（木）】

- ・男女共同参画推進体制
- ・全学の目標・行動計画と部局における目標・行動計画の進捗管理
- ・ポジティブ・アクション（ウーマン・テニュアトラック）
- ・研究支援員制度
- ・メンター制度
- ・意識啓発・スキルアップ支援活動
- ・学童保育等
- ・相談室

【静岡大学／平成 24 年 12 月 11 日（火）】

- ・男女共同参画推進体制
- ・全学、部局等における男女共同参画に係る目標・行動計画等の進捗管理
- ・独自の女性研究者採用加速システムについて
- ・研究支援員制度（人材バンクを含む）
- ・メンター制度
- ・学会時託児費用支援、学会参加旅費・論文等投稿費支援（男女とも）
- ・一時保育（多目的保育所「たけのこ」、学童保育）、学童保育（浜松キャンパス）
- ・地域との連携
- ・学生の活用
- ・法定を上回る福利厚生制度
- ・事業遂行上の留意事項と終了後の体制・事業のあり方

【岐阜大学／平成 24 年 12 月 12 日（水）】

- ・男女共同参画推進体制
- ・大学・部局等における男女共同参画に係る行動計画等の進捗管理
- ・教員を対象とした男女共同参画推進に係る FD
- ・ポジティブ・アクション
- ・研究支援員制度（「人財バンク」を含む）
- ・メンター制度
- ・「かもみーるカフェ」
- ・テレワークシステム在勤
- ・休憩室等の整備
- ・女子大学院生による出前授業「サイエンス夢追い人」
- ・「キッズサイエンススクール」（学童保育の試行）
- ・事業終了後の体制・予算等の見通し

○3 大学訪問調査を終えて

学長・担当理事のリーダーシップのもと、男女共同参画室長を副学長とすることで、男女共同参画に係る定期的な意見表明や情報発信が可能になっていること、男女共同参画推進室が部局の現状・ニーズや課題を踏まえつつ、必要な事業を展開することの重要性が再認識された。

また、女性研究者研究活動支援事業終了後の持続的な推進体制のあり方や企画立案・実施に係る部門別の分業体制及び全学行動計画に基づく各部局ごとの目標・行動計画の進捗管理（モニタリング）のあり方について参考になった。

さらに、事業終了後を見据え、平成 25 年度の早いうちから、事業期間終了後の体制、予算措置に向けた検討作業について、学長を交えながら開始していく必要があること、事業計画の評価（効果の検証等）や女性研究者等のニーズ調査等を踏まえつつ、事業終了後の体制の在り方の検討や予算積算を行うことが求められる。同時に成果の可視化作業をより意識するとともに成果の上がらなかったものの要因等の分析を行うことも重要である。

Ⅲ 資料編

Ⅲ 資料編

【鹿児島大学「女性研究者研究活動支援事業」事業計画概要】

支援体制の更なる整備充実を図るため、女性研究者支援の目的に特化した組織として、新たに「女性研究者支援センター」（「女性研究者支援事業本部」として平成24年4月設置）を「男女共同参画推進センター」（全学経営・管理体制の見直しに伴い「男女共同参画推進室」を平成24年4月改称）の下に設置し、女性研究者支援策の実施に係る企画・立案と運営を行う。「女性研究者支援センター」には、男女共同参画担当学長補佐の下、女性研究者支援業務の中核的役割を担う「コーディネータ」（特任専門員）を配置し、総務部人事課男女共同参画企画係と連携協力しながら、ライフイベント期にある女性研究者に対する「研究支援員制度」による研究活動支援事業や、「メンター制度」の新たな構築を含む相談体制の整備充実のほか、女性研究者の裾野拡大に向けた取組等を図っていく予定である。

なお、以下に掲げた主な女性研究者支援策は、いずれも本学が平成22年度に策定した「男女共同参画推進に係る長期（10年）行動計画及び短期（3年）行動計画」に基づくものであり、平成23年4月から順次、実施又は検討している。

1 事業における主な取組

(1) 「研究支援員制度」の充実

妊娠・出産・育児・介護に直面している女性研究者の研究継続及び研究環境の改善を目的として平成23年4月に創設した「研究支援員制度」における研究支援員にこれまでの大学院生に加え、大学院課程修了者等も対象とし、より質の高い支援を図る。同時に今後は、当該研究者の研究活動の進展状況を検証するとともに、利用者のニーズや研究支援員の意見等を踏まえ、より実質的な女性研究者の研究活動支援につなげる。また、研究支援員のキャリアパスの方針については、支援対象となる研究者を大学院生・大学院課程修了者等のロールモデルやメンターとして、「研究支援員制度」において明確に位置付ける。

(2) 「メンター制度」の構築

女性研究者のニーズを踏まえ、若手女性研究者のキャリア形成及びキャリア継続を支援するために、身近なロールモデルの提供機会であり、必要に応じて助言等を行う者として、先輩女性研究者等をメンターとする「メンター制度」を平成24年度に構築する。

「メンター制度」をより機能的に運用するために、メンターとなる研究者に対して、心得や面談スキルの向上等に寄与する研修会を平成24年度と平成25年度に実施する。また、女性研究者・女子大学院生等の交流会「museカフェ」（後に詳述）を、メンターとメンティ（女子大学院生を含む）との情報交換の場としても活用し、分野を越えたメンター及びメンティ間のネットワークの構築を推進することで、女性研究者のキャリア継続及びキャリア形成の支援、女性研究者の裾野拡大につなげる。

(3) 「女性研究者支援シンポジウム(仮称)」の開催

事業最終年度である平成25年度に、「女性研究者活動支援事業」の総括として、本学における女性研究者の拡大と支援に関して「女性研究者支援シンポジウム(仮称)」を開催する。本事業による女性研究者比率の向上、研究環境の整備充実、女性研究者の裾野拡大等について総括するとともに、更なる効果的支援や体制について考える機会とするため、ポジティブ・アクションを導入して積極的な女性研究者比率の向上策に取り組んでいる大学などからパネリストを迎え、女性研究者の採用や登用の促進及び女性研究者の裾野拡大(特に理工系)に係る対応等について学び、本学の実状にマッチした女性研究者支援の企画・立案・実施に資するものとする。加えて、部局長をはじめとする全学教員や女子大学院生等に対する意識啓発を目的として開催する。

(4) 「男女共同参画トップセミナー」「女性研究者キャリア形成セミナー」等の実施

「男女共同参画トップセミナー」では、女性研究者支援、特に部局ごとの女性研究者比率向上に向けた取組(インセンティブの付与など)や女子大学院生のキャリア形成に係る支援の在り方について考える機会として、役員、部局長、副部局長等を対象として開催(平成23年度及び25年度)し、各部局の女性研究者支援に向けた意識醸成の促進を図る。

「女性研究者キャリア形成セミナー」では、女性研究者のロールモデル情報の提供の機会として、可能な限り幅広い分野の他大学・他機関・企業の研究者を講師として、女性研究者及び女子大学院生を対象に、講演や懇談会等を平成24年度及び25年度に開催する。

(5) 女性研究者等間の交流会「museカフェ」の実施

平成23年度から、様々な部局の女性研究者・女子大学院生等の交流会「museカフェ」を開催し、ロールモデル情報の提供や相談の機会とするほか、教育研究に関する情報の交換などを通じて、キャリア継続及びキャリア形成の支援を図るとともに、教育研究上必要なスキルを学び、共同研究等の契機につなげる。さらに、「museカフェ」に、メンターなど女性研究者支援に関心を持つ男性研究者も交えることで、女性研究者支援のためのネットワークの裾野拡大を目指す。

(6) ロールモデル誌等の発行

平成24年度にロールモデル誌を制作し、若手の女性研究者や女子大学院生・学部学生向けに、研究者としてのキャリアを積んできた先輩女性研究者の歩みを紹介するロールモデル情報の提供によって、キャリア継続及びキャリア形成の側面的支援を実施する。

なお、引き続き女性研究者支援における広報・啓発の一環として、「男女共同参画推進センターNewsletter」により、女性研究者支援に関する様々な情報や活動等の広報とともに、ライフイベント期にある女性研究者に対する支援制度等の紹介を積極的に行う。

2 達成目標

全学を挙げて男女共同参画を推進するため、平成22年度に策定した「男女共同参画推進に係る長期(10年)行動計画及び短期(3年)行動計画」において、柱の一つとして「女性研究者支援・次世代研究者育成支援」を掲げた。その長期行動計画の中で、「女性研究者の

在職比率 20%以上（2015 年までに年 1%ずつ引き上げつつ、18%を目指す）及び自然科学系での女性研究者採用比率 25%を目指す」こととした。

これまで、本学の女性研究者の在籍比率は、年に平均約 0.3%ずつ増加しており、近年の人員費抑制の状況を踏まえると、1%ずつの増加には各部局の細かな目標設定等の必要がある。今後、各部局への「男女共同参画キャラバン」等を通して積極的に個別の目標設定を図っていく予定である。

事業期間終了時の女性研究者在籍目標数は、190 人（割合 17%）であり、また、取組終了時の各職位の在籍者目標数は教授相当 20 人（5.5%）、准教授・講師相当 71 人（17.5%）、助教相当 88 人（27%）、研究員 14 人（50%）である。この目標達成のため、事業期間中の女性研究者の採用目標数を 34 人（事業期間終了時点での女性研究者の採用割合の設定目標は 30%）とした。なお、自然科学系においては、採用率 25%を目指す。

離職者をみると、平成 23 年度末から平成 25 年度末での女性の定年退職予定者は 3 人であり、研究員を除いた女性離職者（定年退職者を含む）は、近年の平均で 13.7 人（女性研究者の約 10%）である。引き続き、「研究支援員制度」、相談体制等の活用促進により、ライフイベント期にある女性研究者のキャリア継続及びキャリア形成の支援を積極的に図る予定である。

また、各部局等における女性研究者比率の増加及び男女共同参画推進のための施策の具体化が図られるよう、「男女共同参画キャラバン」を定期的実施しながらニーズや課題等の把握を行うとともに、全学的及び各部局の女性研究者支援体制の整備を図り、着実な女性研究者の増加に努める。

3 事業期間のロードマップ（平成 23 年度～25 年度）

平成23年6月作成

科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」年次計画表（平成23年度～25年度）

取組内容	1年度目	2年度目	3年度目	4年度目以降
女性研究者支援体制の整備充実	「女性研究者支援センター（仮称）の設置	女性研究者支援体制の整備充実		
	「コーディネータ」の公募・選考・採用	「コーディネータ」の配置 ・ 女性研究者支援業務の整備充実		
ライフイベントの期間中の「研究支援員」の配置	本格的導入・効果の調査・改善点の検討	本格的実施・効果の調査・改善点の検討		
相談体制の整備充実（『メンター制度』の構築）	『メンター制度』の検討	メンター委嘱等 本格的導入・効果の調査・改善点の検討		
管理職及び女性研究者・女子大学院生向け意識啓発に係る事業等の実施	「男女共同参画トップセミナー」の開催		「男女共同参画トップセミナー」の開催	
		「museカフェ」（女性研究者等間の交流会）の開催		
		「女性研究者キャリア形成セミナー」等の開催		
		「Newsletter」の発行		
		ロール・モデル誌制作		
			「女性研究者支援シンポジウム（仮称）」の開催	

【鹿児島大学「女性研究者研究活動支援事業」概要（ポスター）】



平成23年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」

輝け！ 鹿大の女性研究者

～ 一人ひとりが伸びやかに 自分らしく輝くために ～

男女共同参画推進体制



研究支援員制度の整備充実【H23～】

ライフイベント期にある女性研究者（配偶者が研究者である男性研究者を含む）に対する「研究支援員制度」を実施

実績	H23	第1期	8人(9人)	
		第2期	12人(12人)	*2人
	H24	第1期	10人(12人)	*1人
		第2期	9人(11人)	*1人

※()は研究支援員数 *は男性研究者を内数で示す。



広報

- 男女共同参画推進センターHP
- Newsletter（年2回）



女性研究者等の相談体制の整備充実

- メンター制度創設【H24～】
- メンター研修【H24～】



保育支援

- ベビーシッター費用割引券発行事業【H23～】
- 大学入試センター試験時学内一時託児サービス【H23～】
- 郡元地区保育所設置に係る提案書作成【H24】
- 「育児・介護等支援ガイド」作成【H23】



意識啓発・スキルアップ支援

- 「museカフェ」の開催【H22～】
- 女性研究者キャリア形成セミナー【H24～】
- 「英語論文書き方セミナー」【H24】
- 男女共同参画トップセミナー【H23～】
- 女性研究者ロールモデル誌発行【H24】
- 女性研究者支援シンポジウム【H25】



他大学・自治体等との連携

- 自治体等主催イベントへの参画
- 九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワークにおけるシンポジウム、学習会等

裾野拡大

- オープンキャンパス企画「museカフェ」【H22～】
- 「女子中高生のための鹿大科学体験塾」【H24】
- 出前事業【H23～】



鹿児島大学の女性研究者増に係る目標・計画

2012.5.1現在
女性研究者
(研究員含む)
在職比率
15.0%

2015年度までに
年々増引を上げつつ20%を目指す

鹿児島大学の女性研究者増に向けた長期行動計画

「2020年までに女性研究者在職比率20%を目指す」
～鹿児島大学男女共同参画推進に係る長期(10年)及び短期行動計画(平成23年策定)～

「女性研究者研究活動支援事業」における達成目標

女性研究者
在職比率年1%増



「部局等における男女共同参画推進に係る方針等」の策定

部局等(14部局・1学共施設等)における男女共同参画推進に係る目標・計画について、平成24年9月に策定した。

- 主な観点は以下のとおり。
 - ・ 男女共同参画推進体制の整備
 - ・ 女性研究者増に向けた具体策(在職・採用比率増及び上位職女性研究者の増に係る目標・取組)
 - ・ 女性研究者支援及び次世代女性研究者の育成等)
 - ・ 就業環境等の整備
 - ・ 意識啓発の推進
 - ・ その他の取組

「男女共同参画セッション」

部局長等と男女共同参画推進室との意見交換を通して、部局等における現状や課題の把握とともに、意識啓発を図っている。





鹿児島大学男女共同参画推進センター

Tel. 099-285-3012 FAX 099-285-7062 E-mail : gender@kuas.kagoshima-u.ac.jp http://atsumime.kuas.kagoshima-u.ac.jp/

【鹿児島大学男女共同参画推進センター取組紹介（チラシ）】

男女共同参画推進センターの取組

鹿児島大学では、一人ひとりが伸びやかに、自分らしく輝くために、男女共同参画を推進しています。

平成23年3月に策定した「男女共同参画推進に係る長期（10年）及び短期（3年）行動計画」を計画的に推進し、男女共同参画推進に係る広報・意識啓発活動、教職員のワーク・ライフ・バランス支援、女性研究者支援、次世代育成支援等を行っています。

また、平成23年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者活動支援事業」に採択され、女性研究者増に向けた具体的な取組を行っています。

平成24年9月には、「部局等における男女共同参画推進に係る方針等」が策定されました。

男女共同参画推進に係る広報・意識啓発

- ・Newsletterの発行（年2回）
- ・ホームページによる各種案内・活動紹介（随時）
- ・共通教育科目「男女共同参画とキャリアデザイン」
- ・男女共同参画トップセミナー・シンポジウムの開催
- ・自治体・関係機関との連携・協力



ホームページ



共通教育科目「男女共同参画とキャリアデザイン」

教職員のワーク・ライフ・バランス支援

- ・大学入試センター試験時保育支援
- ・ベビーシッター費用割引券発行事業
- ・「育児・介護等ガイド」の発行



女性研究者支援・次世代女性研究者育成

- ・研究支援員制度 ※裏面参照
ライフイベント期にある女性研究者（配偶者が女性研究者である男性研究者を含む）への研究活動支援制度
- ・メンター制度 ※裏面参照
経験豊かな先輩研究者（メンター）から助言を受けることができる制度
- ・「museカフェ」の開催
女性研究者間・女性研究者と女子大学院生間等の交流会
- ・女性研究者キャリア形成セミナーの開催
- ・スキルアップセミナーの開催



「museカフェ」



研究支援員制度

女子中高生進路選択支援

- ・オープンキャンパス企画「museカフェ」
女子高校生向け女子大学院生の研究紹介及び進路相談
- ・出前授業の実施
「自分のライフプランニング」「研究者への道」の2科目を提供
- ・「女子中高生のための鹿大科学体験塾～理系女子（リケジョ）ってカッコイイ!～」



オープンキャンパス



鹿大科学体験塾

相談事業

- ・本学の教職員・研究員・学生の皆さんを対象として、各種相談を受け付けています。



鹿児島大学男女共同参画推進センター

<http://atsuhime.kuas.kagoshima-u.ac.jp/> 鹿児島大学男女共同参画推進センター

【鹿児島大学男女共同参画推進センター取組紹介（チラシ）】

一人ひとりが伸びやかに 自分らしく輝くために

研究支援員制度とは

育児や介護期にある女性研究者等の研究活動を支援するため、大学院生・大学院課程修了者等（常勤についていない者に限る）を研究支援員として配置することによって ライフイベントにおける研究活動の進展を図る制度です。

*文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」のコア事業

申請資格等

本学の女性研究者（教員、研究員）又は配偶者が研究者である男性研究者（教員、研究員）で、次の各号に掲げるいずれかの事項に該当する者とする。ただし、産前産後休暇中、育児休業中又は介護休業中の方は除く。

(1) 妊娠中の方 (2) 小学6年生までの子を養育している方 (3) 家族（配偶者、子、親等）に要介護又は要看病者がいる方

業務内容

研究支援員の業務内容は、研究支援員の配置を認められた研究者の管理下における利用者の研究活動上必要な次の補助業務とし、研究支援とみなされない業務（例えば、会計事務や学会事務、授業代行）には従事できない。あくまでも女性研究者等の研究活動支援のみ。

業務内容：研究データの統計処理・解析、実験補助、文献調査補助、発表用資料作成補助等

雇用条件

(1) 給与

学部学生（農学部獣医学部5年次及び6年次）…1,100円 / 修士・博士課程前期課程及び専門職学位課程の学生…1,100円

博士・博士後期課程及びそれに準ずる者…1,300円 / 博士・博士後期課程修了者及びそれに準ずる者…1,500円

(2) 勤務条件

学部学生・大学院生の場合、週10時間以内（ただしTA、RA等に従事している者は合わせて20時間未満）

大学院課程修了者等の場合、週30時間未満（ただし諸条件を勘案し、時間は査定する）

女性研究者の声

・「予定より研究が進展し、学会の発表につながった。」
 ・「赴任間もない慣れない環境の中で、データの収集や解析を補助してもらったおかげで研究活動が軌道に乗った」

研究支援員の声

・「文献検索やレビューに係る手法や助言は、今後の研究活動に活かせる」
 ・「実験やデータ解析のノウハウを会得できた」
 ・「研究支援を通じて、研究者の研究に触れ、研究に対する視野が広がった」

研究支援員対象のみならず、研究支援員に関心のある方は、男女共同参画推進センターまでご連絡ください。

メンター制度とは

女性研究者や女子大学院生が抱える諸問題について、経験豊かな先輩研究者（メンター）からの助言を受けることができる制度です。

「メンター」とは、良き助言者、指導者、親身になって支援してくれる人という意味で、仕事やキャリアの“お手本”や人生のよき相談相手になってくれる人です。指導者とメンター、指導を受ける人をメンティーと呼びます。

相談事例

- * 大学院修了後、研究者の道をめざしたいけれど不安だ。
- * 研究者間のネットワークをどうやって築いていけばいいかわからない。
- * 研究助成費の獲得のためのアドバイスが欲しい。
- * 育児と研究の両立がうまくいかない。キャリアをそのまま継続していいのか。
- * 突然介護が必要になったので、経験者の話を伺いたい。 など

メンター募集しています!

ご協力いただける方は、電話又はe-mailにより男女共同参画推進センターまでご連絡ください。
 (6月現在 登録メンター 12名)

*メンターについては、男女共同参画推進センターHPに掲載しております。

メンター制度の利用手続き

メンター制度の申込等は原則として以下のフローによります。

①メンター制度の申込

メンティーは、原則として、相談の内容等について、「メンター制度申込書」（別記様式；男女共同参画推進センターホームページよりダウンロード）により、男女共同参画推進センター（以下「センター」という。）へ提出します。

②メンター選定

センターは、メンティーからの申込があった場合は、メンティーの希望やプロフィール等をもとに、センターに登録されたメンターのうちから候補適任者を選定させていただき、当該メンターに相談者情報を入れ、承諾を得た上で最終的に選定します。（ただし、メンティーが指名し、メンターが承諾した場合を除く。）

③メンタリング（相談）

センターにおいて選定されたメンターは、メンティーに連絡をとり相談の日時・場所や相談の頻度等について協議した上で、定期的又は随時相談に応じるものとします。

<メンター制度の検証>

センターは、定期的にメンター活動の成果や課題について、メンターやメンティーの方と情報共有し、メンター制度の改善に資することとしています。

<申込先・お問い合わせ先>



鹿児島大学男女共同参画推進センター

電話 099-285-3012 Ex. 3011 / 3012
 E-mail gender@kuas.kagoshima-u.ac.jp

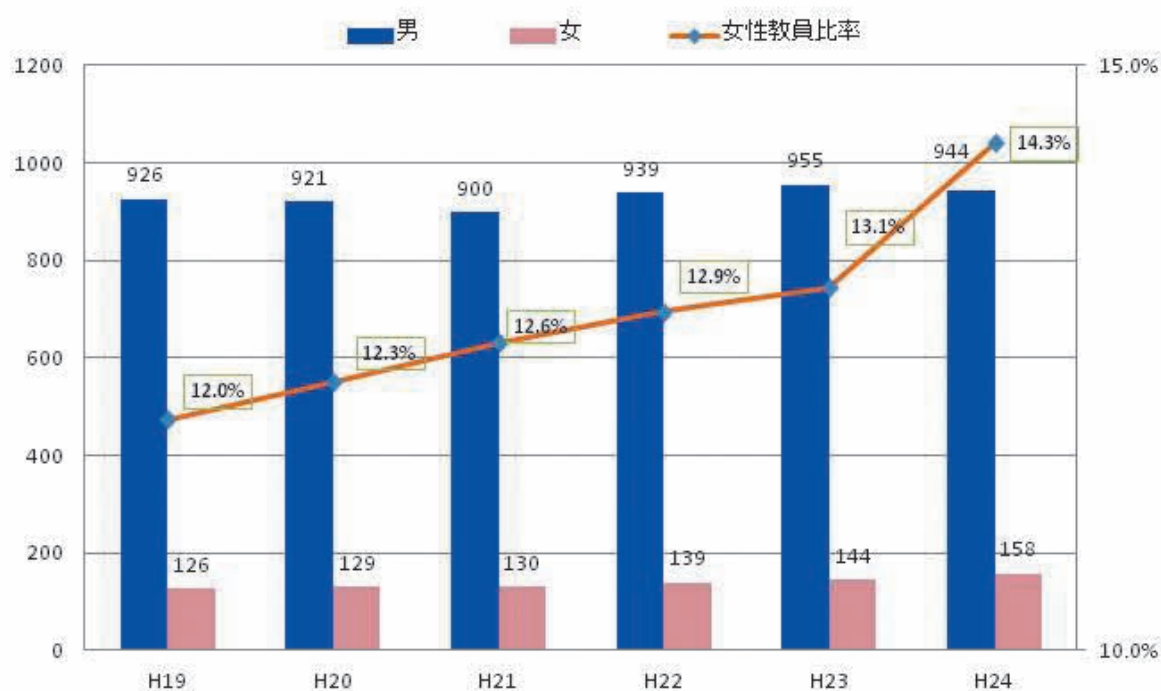
【鹿児島大学の男女共同参画の現状(平成 24 年 5 月 1 日)】

鹿児島大学における女性研究者に係るデータ

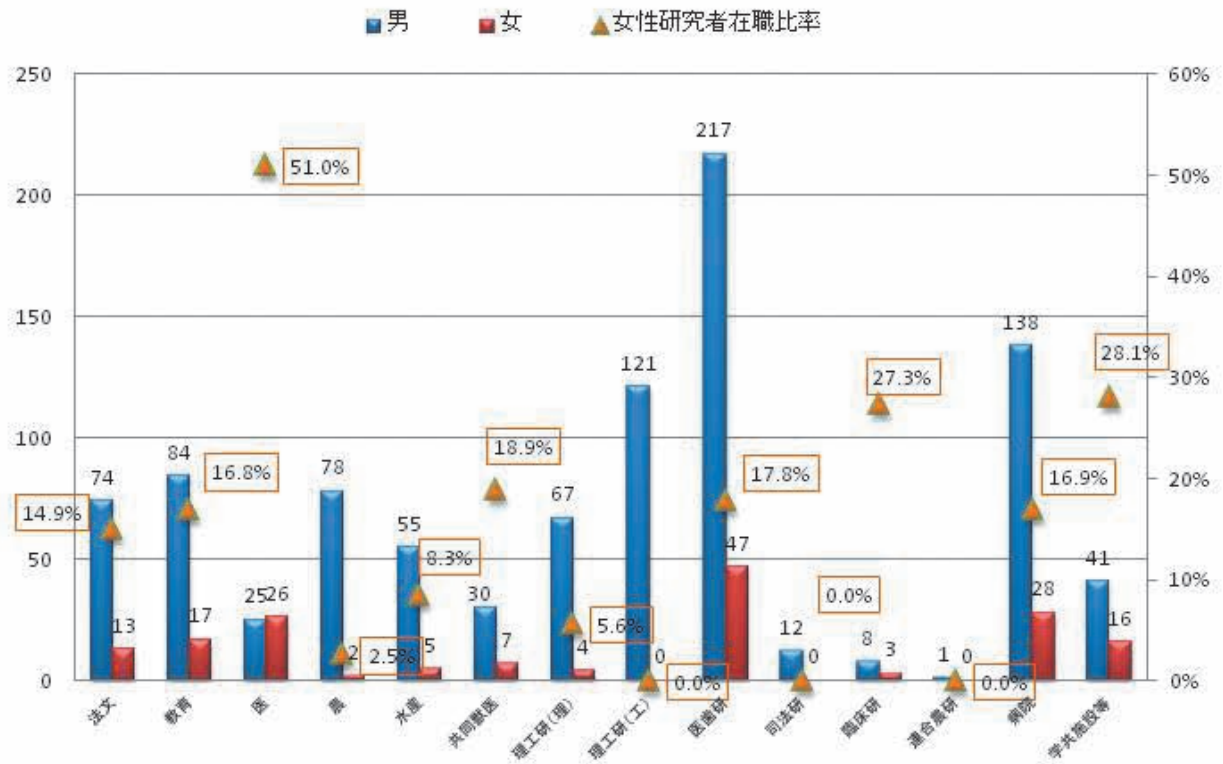
女性研究者比率推移 (H19-24)



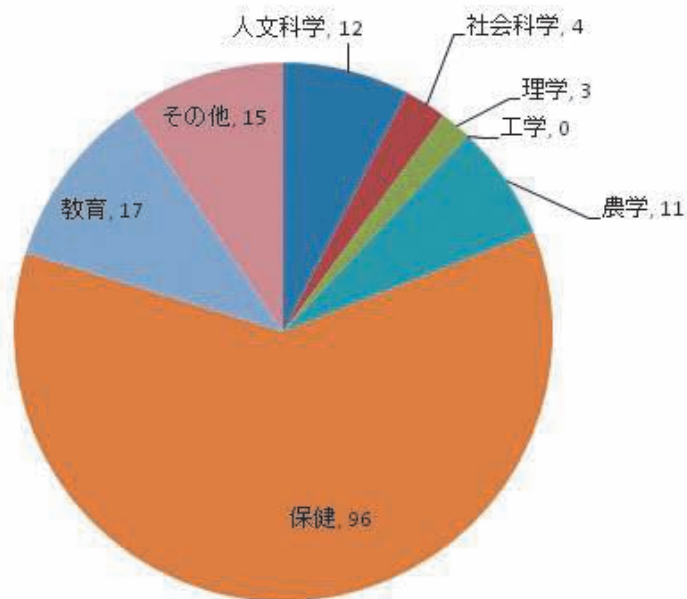
教員数・女性教員在職比率推移(H19-H24)



部局別教員数・女性教員比率(平成24年5月1日現在)

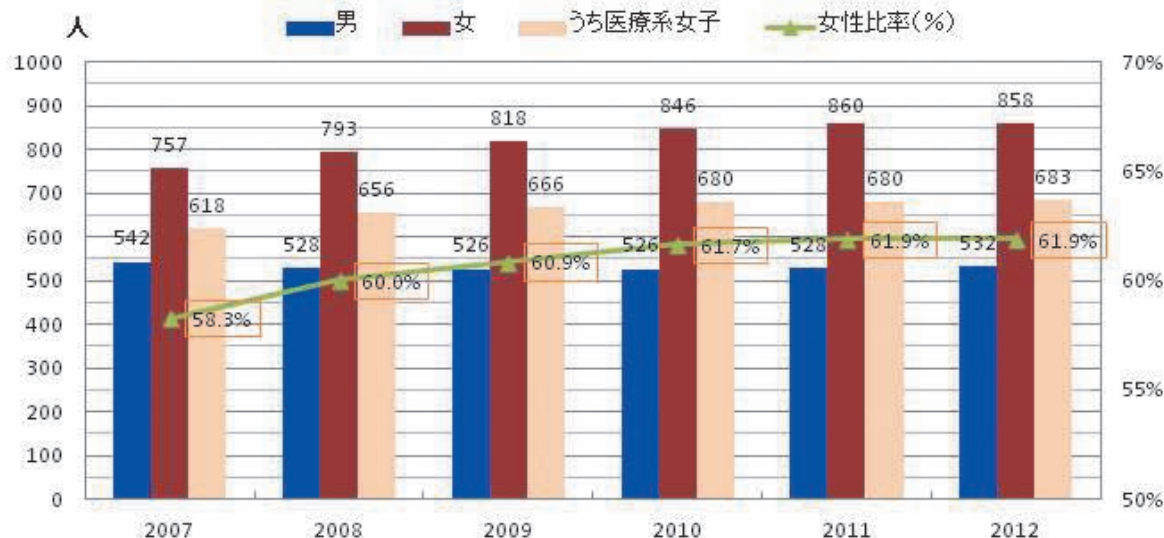


女性教員158人 分野別内訳(平成24年5月1日現在)



鹿児島大学における職員に係るデータ

職員の男女数・女性職員比率推移 (平成19-24年度)



職員職種別男女数・女性比率(平成24年5月1日現在)

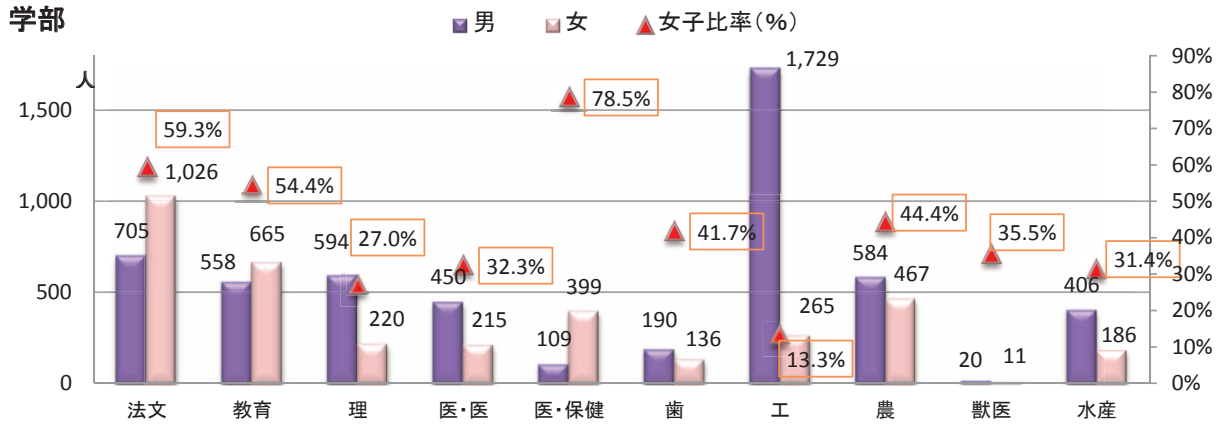


職員職階別男女数・女性比率(平成24年5月1日現在)

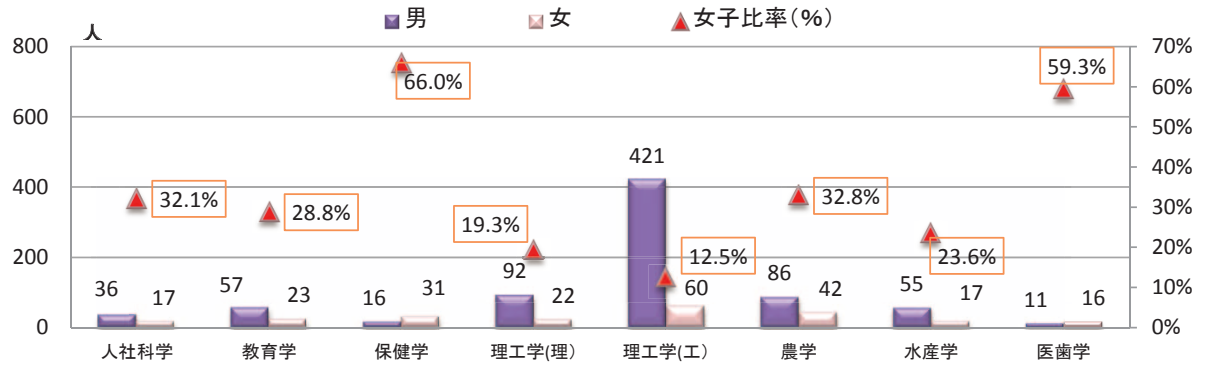


鹿児島大学における学生に係るデータ

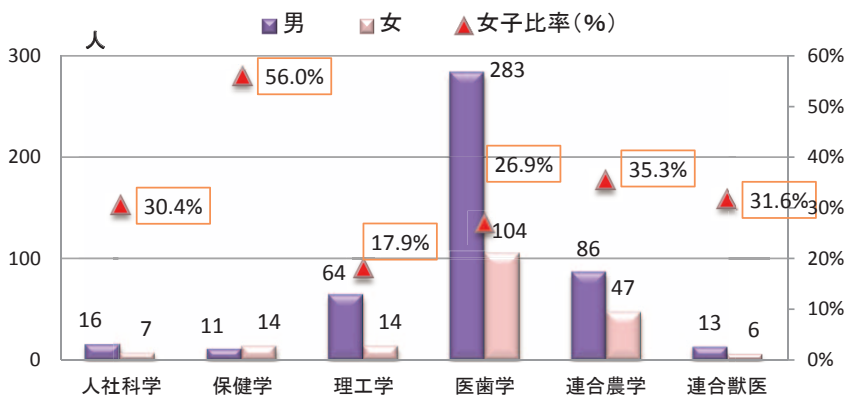
学部・大学院別学生数・女子学生比率(平成24年5月1日現在)



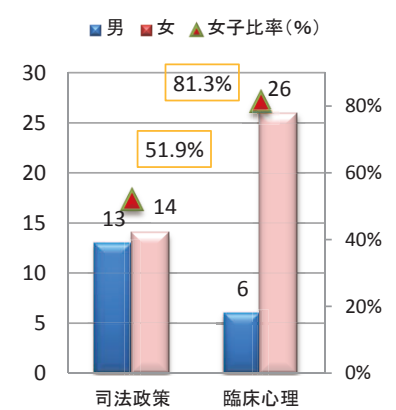
大学院(修士課程・博士前期課程)



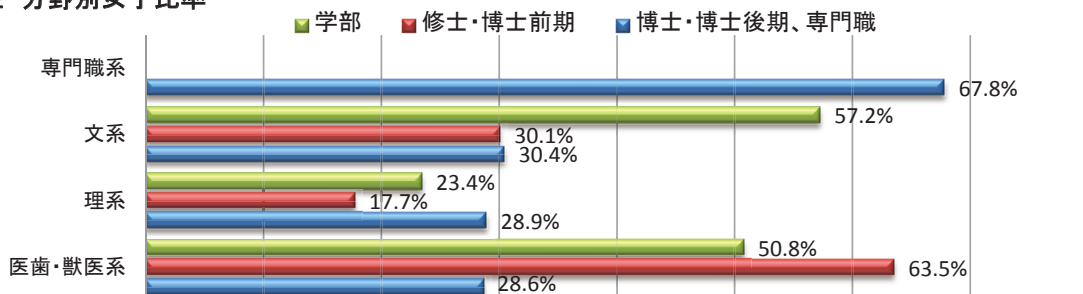
大学院(博士課程・博士後期課程)



大学院(専門職学位課程)



学生 分野別女子比率



文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」
平成 24 年度 事業報告書

<平成 25 年 3 月発行>

発行 国立大学法人鹿児島大学
男女共同参画推進センター女性研究者支援事業本部

連絡先 〒890-8580 鹿児島市郡元一丁目 21 番 24 号
国立大学法人鹿児島大学総務部人事課男女共同参画企画係
電話 099-285-3012 E-mail: gender@kuas.kagoshima-u.ac.jp

<http://atsuhime.kuas.kagoshima-u.ac.jp/>

進取の気風にあふれる総合大学

